

東京都立足立高等学校

創立 100 周年記念誌



— 足掛け3年、全員参加で 作品募集、投票、そして決定 —

創立100周年記念キャッチコピー&シンボルマーク



希望の大華～100年の想いを輝く未来へ～

創立90周年記念事業終了の翌平成26年11月に設立した100周年記念事業実行準備委員会は、平成30年、100周年を機に学校の更なる発展への思いを込め、関係者全員にキャッチコピーとシンボルマークを募集しました。準備委員会で絞られた応募作品が全員投票に掛けられ、最多得票の最優秀作品が決定し、上掲の公式キャッチコピー&シンボルマークとして使われています。

創立100周年記念シンボルマーク・キャッチコピー募集要項（抜粋）		
募集作品	シンボルマーク	キャッチコピー
応募資格	同窓生とその保護者、在校生とその保護者、現・元教職員	
募集期間	2018年9月1日(土)～2019年2月28日(木) 当日消印有効	
応募規定	作品はシンボルマーク・キャッチコピー各々一人一点とし、他者の著作権を侵害しないオリジナル作品で未発表のものとする	
選考方法	○作品選考委員会は応募の中から候補作品をシンボルマーク・キャッチコピー各10点以内選出 ○受賞作品は下記「投票方法」の得票数で各々上位3点を決定	
投票方法	○受賞候補作品は、同窓会誌「さやか野23号」、HP、母校掲示板、印刷物等により周知 ○投票資格者は、シンボルマーク・キャッチコピーの各作品につき一人一票 ○投票期間：2019年9月1日(日)～2020年2月29日(土)	
表彰	最優秀作品賞 シンボルマークとキャッチコピー 各1点 優秀作品賞 シンボルマークとキャッチコピー 各2点	
受賞作品発表	○2020年9月発行さやか野24号・同窓会HP・母校HPで発表 ○受賞者には賞状と賞品を贈呈(郵送等)	

創立100周年準備委員会

キャッチコピー作品

- ① 希望の大華 ～ 100 年の想いを輝く未来へ～
- ② Adachi Pride ～ 時代の先へ進め～
- ③ 受け継ぐ 100 年の想い 羽ばたけ未来へ
- ④ 100 年の絆 千年の望 万年の夢
- ⑤ つながる絆 つなげる未来
- ⑥ 学べ 進め 次の舞台に
- ⑦ 受け継ぐ 100 年の歴史。未来へ Inherit the 100-year history to the future
- ⑧ 100 周年、引き続く未来へ！
- ⑨ 未来へつなぐ 足立のバトン

シンボルマーク作品

①		②	
③		④	
⑤		⑥	
⑦		キャッチコピー・シンボルマークの中からそれぞれ1点を選んで投票してください。	

▲ 投票に掛けられた選抜作品

創立 100 周年記念横断幕



令和 4 年 11 月に予定されていた 100 周年記念式典は、コロナ禍のために 1 年延期されました。

令和 4 年 12 月、創立 100 周年を地元の方々にお知らせする横断幕が、学校正門前の道路沿いに掲げられました。(PTA・同窓会寄贈)

創立 100 周年記念の新しい校旗

これまでの校旗は、昭和 25 年 3 月卒業の第 3 期生から母校に寄贈されたものでした。

2 万人以上もの生徒を迎え、見守り、見送ってきてくれた校旗も劣化してきたため、PTA と同窓会はこの創立 100 周年を記念して共同で学校に新しい校旗を寄贈しました。

前の校旗と同じデザイン・色調の新しい校旗の初舞台は令和 5 年 3 月に挙行された第 74 回卒業式でした。

(写真 左：金成同窓会長 中：小川 PTA 会長 右：鈴木校長)



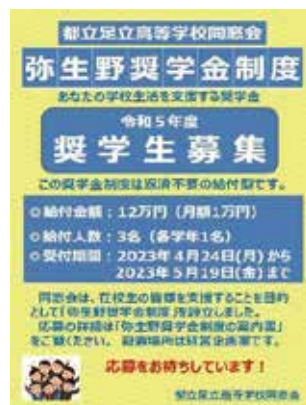
この校旗には「足立実科女学校」と刺繍されています。

100 年の歴史ある本校は、転居 5 回、改称を 7 回して今日に至っています。この校旗は、昭和 10 年から昭和 17 年まで存続した校名のもので使用期間が短く、今も瑞々しい状態です。

弥生野奨学金制度

同窓会は、母校創立 100 周年を記念し、これからの日本の将来を担う在校生を対象とする返済不要の奨学金を創設しました。令和 5 年 6 月、弥生野奨学金第 1 期生が 3 名誕生しました。

同窓会はこの奨学金により、在校生への支援を通じて母校の発展に貢献できることを願っています。





足立高校の校章は時代とともに少しずつ変化しています。現在の校章は創立80周年の際に、当時の美術科教諭であった妹尾宏行先生が、校旗を参考にして復元したものです。



かつて使用されていた校章

校章の由来

校章の原形は、都立足立高等学校の前身である足立高等女学校の美術教諭、鈴木英二先生（故人）がデザインされた。当時の学校付近には、校章の素材になるものがなく、校庭に群生していたクローバーの姿を見てモチーフにされたようだ。

「どこの家にも家紋があるように学校には校章がある。私がこの校章をデザインしたのは都立足立高等女学校のころである。いまあるグリーンベルト

の前のあたりに沼があって晴天の日には釣り糸を垂れにくる人も見られた。その沼のまわりに、みどりのじゅうたんを敷いたように、クローバーの群生があった。非常に強く、踏まれても踏まれても、枯れるような弱い草ではない。そのクローバーをデザイン化して校章とした。葉は三つ葉であるが、四つ葉のものもあって、これを持っていると幸福がくるといわれる。」（鈴木英二）

昭和三十七年
五月
足立高等学校
校歌
稿
近衛秀麿

元氣よく、快活に (♩=100)



作詩 加藤道理

さやかに荒川の碧と深き岸辺
春花紫に咲き匂ふ蒲生野
我等の胸に若き喜びあふれ
永遠の美はしき生命たへて
たゆまず真理を求め共に学ばん

はるか山遠く空高く澄し野木
希望の燈火と伝へゆく学舎
嵐荒ぶも友よ手とり固く
辛みてもかくはし朝想ひて
雄々しく自由を守り共に進まん

校歌（作詩 加藤道理・作曲 近衛秀麿）

作曲者である近衛秀麿（1898-1973）は作曲家、指揮者として活躍した音楽家。日本のオーケストラのパイオニア的存在。3度にわたり内閣総理大臣に指名された近衛文麿は異母兄。

校歌は昭和26年に作曲され、その後公募で当時の足立高校国語科教諭であった加藤道理先生の歌詞が選ばれた。昭和27年5月2日が校歌制定の日。

SCHOOL LIFE

校舍風景





被服室



調理室



CALL室



大講義室



視聴覚室



図書館



作法室



購買のパン屋さん



保健室





入学



令和2年度はコロナ禍により、入学式は中止となり、「入学を祝う会」が5月に実施された。



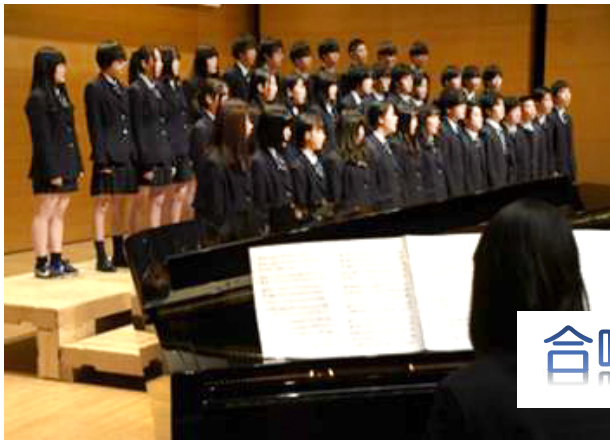
体育祭





弥生野祭





合唱祭



球技大会



修学旅行

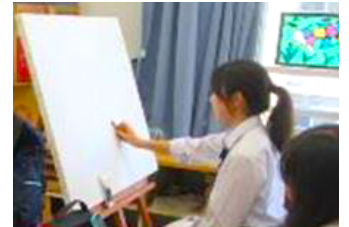


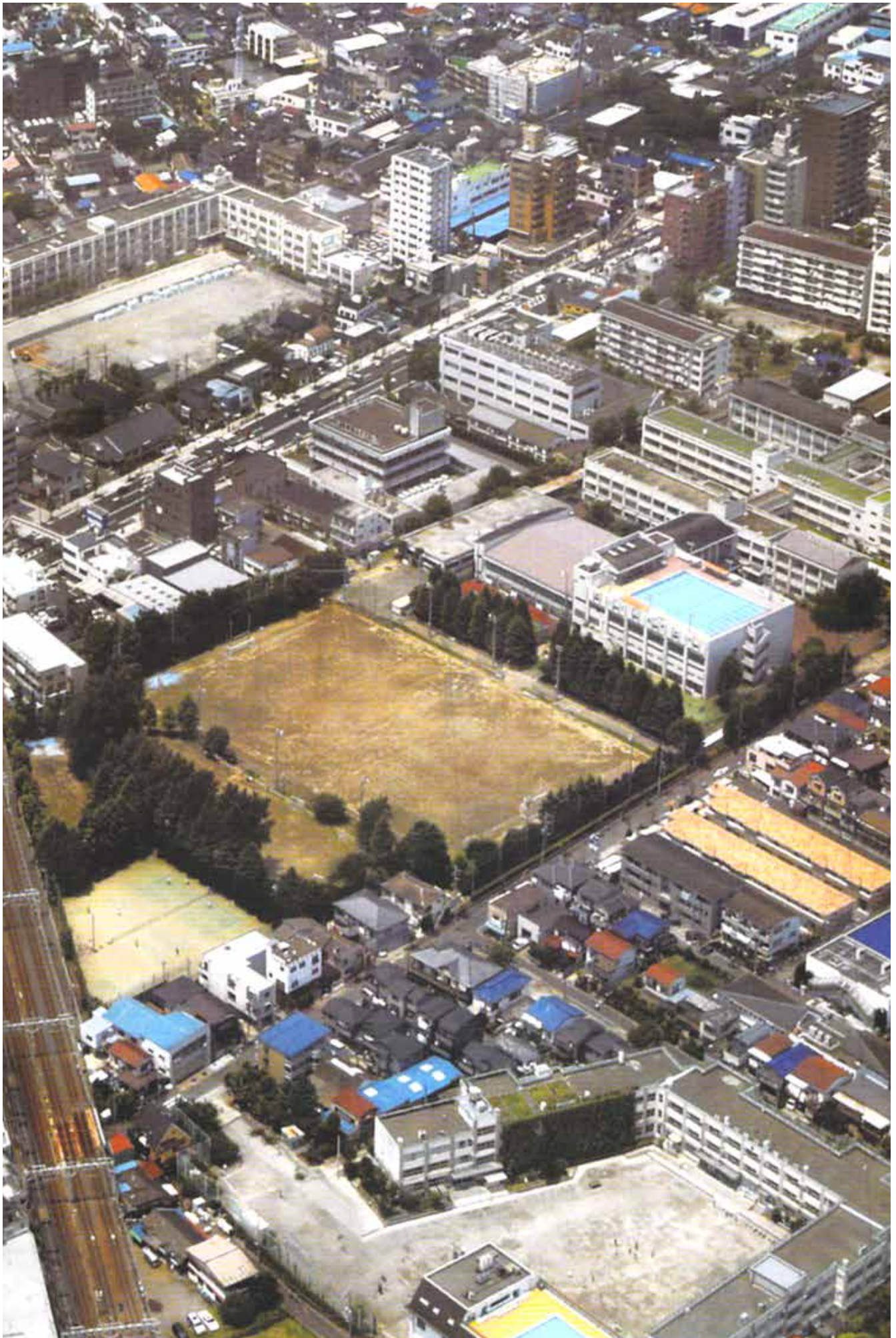
SCHOOL LIFE

部活動

サッカー、剣道、男子バスケットボール、女子バスケットボール、女子バレーボール
バドミントン、ダンス、野球、陸上競技、水泳、ラグビー、男子テニス、女子テニス
卓球、男子バレーボール同好会
演劇、茶道、吹奏楽、くっきんぐ、生物、美術、放送、音楽村、ストリングオーケストラ
囲碁、アニメーション研究、書道同好会







空から見た足立高校（中央の校庭の広い学校）平成 22 年撮影

目 次

創立100周年記念キャッチコピー&シンボルマーク	
創立100周年記念横断幕・新しい校旗、弥生野奨学金制度	
校章の由来と校歌	
SCHOOL LIFE 校舎風景・学校行事・部活動	
校舎航空写真	

〈祝辞〉

東京都立足立高等学校創立百周年を迎え	校 長	鈴 木 康 司	1
100年の歴史を思い、更なる高みへ、チャレンジ！			
	創立100周年記念事業実行委員会		
	委員長	金 成 秀 幸	3
東京都立足立高等学校創立100周年に寄せて	東京都教育委員会教育長	浜 佳 葉 子	4
創立100周年おめでとうございます	前校長	浅 見 浩 一 郎	5
創立100周年に寄せて	元校長	井 上 隆	6
祝創立100周年-百年の計は人を植うるにあり-	PTA会長	小 川 政 美	7
創立100周年に寄せて	副校長	塚 本 久 美 子	8
創立100周年を迎えて	前生徒会長	山 野 真 明	9
次の100年へ	生徒会長	辰 田 佳 美 奈	9

創立100周年記念座談会		10
足立高校100年の歩み 沿革		20
母校100年の礎（いしずえ）	19期	廣 瀬 均 36
足立高校この10年		48
生徒会が聞いてみた！		54

〈寄稿〉

都立足立高等学校と私	10期	黒 澤 真 次	56
東京都立足立高校の思い出・短歌十首	18期	加 藤 妙 子	57
ブラボー！ 17歳！！	26期	園 部 智 子	58
進化を続ける足立高校	27期	青 田 雅 樹	59
創立100周年を迎えて「変わらないもの」	28期	相 原 力	60
指導しない指導で導く恩師、そして偉大な先輩	46期	滝 沢 秀 一	61
没頭 ～今だから伝えられること～	66期	佐 野 章 太	62
創立100周年おめでとうございます	元教員	山 口 智 司	63

全日制課程 進路この10年		64
同窓会この10年		65
定時制課程この10年		69
定時制課程の進路指導		71
定時制課程 商業科の指導と実績		72
全日制課程 職員一覧		73



東京都立足立高等学校創立百周年を迎え

校長 鈴木 康司

東京都立足立高等学校創立百周年を迎えることができました。

創立以来、本校の教育活動に御理解、御協力を賜りました保護者、同窓会並びに地域の皆様に厚く御礼申し上げます。また、これまで本校の教育を支えてこられた歴代の校長先生をはじめ多くの教職員の方々の御尽力に敬意を表するとともに衷心より感謝申し上げます。

(1) 沿革

明治 44 年に設置された千住町立実業補習学校が、大正 12 年に千住町立女子実業補習学校と改称されました。今ある学校要覧の沿革概要には、大正 12 年が創立の年と示されています。その後、昭和 7 年、10 年、17 年、そして 18 年に改称されました。また、この間、幾度かの改組変遷を経まして、昭和 24 年に男女共学制に移行、翌 25 年に新制の東京都立足立高等学校となり現在に至っています。改めて言うまでもなく、百年もの間には、社会に有為な人材を数多輩出し、政治、経済分野だけでなく、文化・スポーツ・芸能の分野においても活躍している卒業生の方がいらっしゃいます。

(2) 校歌と校章

校歌の制定日は、昭和 27 年 5 月 2 日と記されています。作詩は加藤道理氏、作曲は近衛秀麿氏です。近衛秀麿氏は作曲家、指揮者として活躍した音楽家であり、日本のオーケストラのパイオニア的存在でした。三度にわたり内閣総理大臣に指名された近衛文麿は異母兄です。校歌は昭和 26 年に作曲され、その後、公募で当時の本校国語科教諭であった加藤道理先生の歌詞が選ばれました。

校章の原形は、東京都立足立高等学校の前身である東京都立足立高等家政女学校の美術教諭、鈴木英二先生がデザインされたものでした。当時の学校付近には、校章の素材になるものがなく、校庭に群生していたクローバーの姿を見てモチーフにされたと伝えられています。

(3) 直近 10 年

平成 25 年 4 月、本校舎大規模改修工事のため仮校舎へ移動しています。また、同年 11 月 29 日に創立 90 周年記念式典が挙行されました。

平成 27 年 1 月には、先の本校舎大規模改修工事の終了に伴い、新校舎での授業を開始しています。また、平成 28 年にはグラウンド改修工事が終了しました。元号

が現在の令和に代わってからおよそ二か月後、令和元年 7 月 26 日に体育館空調工事が終了しています。そして、令和 2 年になる頃、全ての都立学校は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け始めました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出、適用により臨時休業、時差通学、分散登校、オンライン学習等の対応を余儀なくされました。令和 2 年 3 月に予定していた学年末考査の不実施や学年を超えて一堂に集まる行事の実施も困難な状況になりました。当時の情勢から平成 31 年度卒業式は来賓・保護者を招待できないまま実施する事態となりました。教育活動を推進するに当たっては、今も少なからず新型コロナウイルス感染症という世界規模の健康課題の影響を受けています。コロナ以前の学校文化からは想像だにできない事態がいくつも起こりました。

(4) 創立 90 周年記念誌から

創立 90 周年記念誌に次のページを見つけました。

「それでは、100 周年を迎えた時の足立高校のあるべき姿は、どのようなものか。それは足立区で最も歴史ある本校が、地域の大きな期待を担い開校したことを考えれば、この地域から愛され、一番に入学したい学校であることです。そのためには、本校における教育の質をどう保証するのか、を示すことが大切になります。足立高校は『学業第一』を標榜し、重点支援校、学力向上開拓推進校の指定を受けるなど学力向上の取組を推進してきましたが、今後は学力向上の成果目標を目に見える形で示すことが求められると考えています。これは、国の『第二期教育基本振興計画』における学習到達度の把握や東京都の学力スタンダードの策定とも関わってくるようになりますので、経営計画における中長期目標の設定において明確にしたいと考えています。」というものです。

学業を第一として自らすすんで教養を高め、健全な精神と身体を養い、よりよい人生と社会を建設する意欲にあふれた人間を育成するという教育目標の下、この 10 年間も足立高等学校らしい教育活動を進めてきたと断言します。

その成果を「目に見える形」となり得る客観的な数字から振り返ってみます。具体的には、10 か年の進路状況についてその平均値で振り返りながら確認してまいりたく存じます。

四年制大学・短期大学進学者割合の平均は、55.5%

でした。専門学校等は 28.6%、公務員を含む就職は 6.1%、進学準備を含むその他とされる割合は 9.8% でした。

直近の学校案内には、新学習指導要領に基づく学習内容や指導方法を研究、実践し、組織的な進学指導体制の充実に取り組んでいますと堂々と謳っています。また、第二学年から特進クラスを設置しており、高い志をもって、難関私立大学に現役合格を目指す生徒が集まるクラスです。目標を同じくした仲間が励まし合いながら切磋琢磨して、学習に取り組めますと自信をもって謳っているのも、こうした客観的な数字という裏付けがあるからだと考えます。こうした取組をこの先も足立高等学校の教育として、また、足立高等学校の進路指導として確かなものとしていくことを教職員とともに宣言いたしたく存じます。

結びに、縁あって東京都立足立高等学校に集っております私ども教職員にとりまして、このたび創立百周年を迎えることができましたことは、数多の同窓生や保護者並びに地域の方々と同じく大きな喜びとするところです。私どもは、この足立高等学校を大事に思ってくださいという皆様方と力を合せて、これからの社会を見据えながら足立高等学校らしさを発揮しつつ、新たな教育活動の充実・発展に向け、一層、その歩みを進めて参ります。そして、いつまでも「愛すべき母校」「愛すべき地域の学校」であり続けられるよう教職員一同、誠心誠意努めて参る所存です。改めまして、同窓生、保護者並びに地域の皆様ほか本校に所縁のあるすべての方々の御厚情に感謝申し上げますとともに、今後とも東京都立足立高等学校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



100年の歴史を思い、更なる高みへ、チャレンジ！

創立 100 周年記念事業実行委員会

委員長 金成 秀幸 (昭和 42 年卒 18 期生)

(100 年という歴史の重み)

母校は、大正 12 年 7 月 9 日、現在の足立区千住の地に「千住町立女子実業補習校」として創立されました。それから居所を変えること 5 回目の昭和 24 年 3 月に現在地に移転しました。改称も 7 回に及び、昭和 25 年 1 月に現在の名称になりました。明治 44 年から大正 11 年の間、「実業補習学校」は足立区内で 11 校も設置されましたが、今日まで存続しているのは我が母校だけです。

この 100 年間、母校と同窓生は以下のような様々な社会事象を体験し生き抜いてこられました。関東大震災、戦時統制、敗戦、戦後の民主化と奇跡的な復興、高度経済成長、経済のバブル崩壊と長期低迷、東日本大震災と原発事故、コロナ禍、等々。

本年 3 月に参列した卒業証書授与式で、3 年 2 組代表の方の卒業生番号 25,003 号が読み上げられた時、卒業生は昭和 25 年の第 1 期生から数えて延べ 2 万 5 千人を越えた、と思いました。母校創立から昭和 25 年までの卒業生を加えますと、同窓生は約 3 万人と推定されます。母校で、それぞれの時代に苦楽を共にした 3 万人もの同窓生が、この 100 年間、日本社会の一員としてそれぞれの役割を果たされてこられたと思うと、言い知れぬ感動を覚えました。

(母校創立 100 周年記念事業実行準備委員会)

創立 90 周年記念事業が実施された翌年の平成 26 年 11 月に、100 周年記念事業実行準備委員会が設立されました。学校・PTA・同窓会の 3 者で構成され、任務は①毎年の学校・PTA・同窓会の行事、活動記録を作成、保管すること、②創立 100 周年に相応しい記念事業の企画、運営に必要な諸準備を行うことです。委員長には 90 周年の実行委員長でもありました同窓会長(金成)が選任されました。

平成 30 年、同窓会から準備委員会に「在校生とその保護者、教職員、同窓生の全員から 100 周年記念のシンボルマークとキャッチコピーを募集する企画」が提案され、採用されました。募集は平成 30 年 9 月から始まり、マークには在校生 168 人、卒業生 2 人、先生 1 人が、コピーには在校生 154 人、卒業生 40 人の方が応募してくれました。応募作品は、準備委員会が数点に絞って全員投票に掛けられ、得票数順に最優秀作品各 1 点、優秀作品各 2 点が選ばれました。現在、公式マーク&コピーとして使われているのが、この最優秀作品です。母校関係者全員を参加対象とする足掛け 3 年の大プロジェクトでしたが、学校、PTA と同窓会の多大な協力を得て楽しく行うことができました。

(母校創立 100 周年記念事業実行委員会)

100 周年記念式典は令和 4 年 11 月に予定されていましたが、コロナ禍のために令和 5 年 11 月に延期されました。実行委員会は令和 4 年 4 月に準備委員会と同じ 3 者構成で引き継ぎました。主な仕事は、100 周年記念誌の作成、記念式典と祝賀会の企画・実施です。さらにこの 100 周年を契機に、これまでの母校の歴史記述の再検証を 19 期生の廣瀬均さんに依頼し、その成果の「母校 100 年の礎」がこの 100 周年誌の 36 ページより掲載されています。

本年、母校の歴史の大きな節目である 100 周年を記念するにふさわしい出来事がありました。一つは、PTA と同窓会の共同により新しい校旗が母校に寄贈されたのです。もう一つは、同窓会が在校生のために返済不要の弥生野奨学金を創設し、本年 6 月にその第 1 期生が誕生したことです。

お陰様で、学校、PTA、同窓会の皆様方の献身的な御協力を得、委員会としての責務を無事果たすことができました。この誌面を借りまして、皆さまに心より御礼申し上げます。

(更なる高みへ、チャレンジ！)

この 100 年間で培われ、受け継がれている母校の伝統は「素朴で健全な校風」、「自由と責任ある行動」です。多くの同窓生は、このような伝統が生きている「足立に入ってよかった」と振り返ります。他の高校を経験された先生方からは「足立の生徒は素直でよい子が多い」とよく言われます。そして、進学、就職、部活動の現況を見ますと、生徒一人一人の潜在能力が努力次第で今以上に顕在化し、更に上のレベルに行ける可能性がたくさん残されているように思えます。

母校は今年から創立 200 周年への第一歩を踏み出しました。

母校の経営計画のスクールミッションには常に、「学業第一」、「文武両道」が掲げられています。先生方の御指導で、在校生のモチベーションがアップし、進学、就職、部活動で今まで以上に良い結果が生まれることを願ってやみません。そして、母校が今まで以上に、地元の方に親しまれ、足立区内外の中学生に志望され、社会に貢献する同窓生も多くなることを願っています。

母校がこの 100 周年を契機として、更なる高みに向かって果敢にチャレンジされることを期待します。

そして、200 周年に向かう母校が、社会に貢献しながら存続の道を歩み続けられることを確信しています。



東京都立足立高等学校創立 100 周年に寄せて

東京都教育委員会教育長 浜 佳葉子

東京都立足立高等学校創立 100 周年誠におめでとうございます。

創立以来、本校の教育に深い御理解と御支援を賜りました保護者や同窓会、並びに地域の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本校の教育の充実・発展に御尽力いただき、優れた成果を上げてこられた歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々の御努力に対して深く敬意を表します。

本校は、明治 44 年に開校した千住町立実業補習学校を母体とし、その後、大正 12 年を創立の年と定めました。また、昭和 10 年 9 月 30 日、東京市立足立実科女学校となったことを受け、以後、9 月 30 日を開校記念日としています。昭和 23 年度に新制高等学校として発足するとともに定時制課程を併設、昭和 25 年 1 月に東京都立足立高等学校と改称し、現在に至っており、開校から現在に至るまで、地域に愛されながら着実に歩みを進め、この 100 年の間に 2 万 5 千人を超える有為な人材を輩出し、卒業生は様々な分野で活躍されています。

本校全日制課程においては、確かな学力と豊かな人間性を培い、次代を担う自立した人間の育成を目指して、「学業第一」の実践やキャリア教育を推進することを通じて、自ら行動する力、創造する力、文武両道を実践する力を身に付けさせるなど、新しい時代に必要とされる資質・能力等を養う教育活動を行っています。

そうした中、平成 31 年度から、「進学指導研究校」として、組織的な進学指導及び教科指導の充実を図ってきました。週休日や長期休業期間中の補習、予備校との連携による講習、生徒の自学自習を支援する「放課後自習室」における大学生チューターの活用など、生徒一人一人の進路実現を強力に支援できる体制づくりに取り組んできました。

また、進路体験発表会、同窓生講話、進路ガイダンスを実施するなど、キャリア教育を核とした進路指導を推進し、自らの進路を開拓する力や希望進路を実現する力を育成しています。

定時制課程においては、「働きながら学び続ける姿勢を育み、自立のための基礎・基本を確実に身に付けさせる。」、

「社会性、人間性を育てる。」、「自ら学び考え行動し、困難に対しても、自分の道を自分で切り開く力を育成する。」という教育目標の下、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業実践、一人 1 台端末等の利活用の促進、各種検定への積極的な受検支援等を行ってきました。

また、「進路活動推進週間」を中核としたキャリア意識の醸成などにより、確かな学力、規範意識、自ら主体的に考え行動する力等を養い、社会で活躍する生徒を育成しています。

このような特色ある教育活動を通して、生徒の皆さんは、学業に励むとともに、生徒会活動や学校行事、更には部活動にも主体的に取り組み、様々なコンテストや大会等において輝かしい成果を挙げています。

創立 100 周年という記念すべき節目に当たり、充実した学校生活を送る生徒の皆さんには、これまで多くの方々の努力によって築き上げられてきた優れた校風や伝統を受け継ぐとともに、新たな歴史をつくり上げていただきたいと願っています。そして、今後、グローバル社会でリーダーシップを発揮し、世界の人々と協力して、国際社会に貢献できる人間として一層、成長されることを期待しています。

結びに、関係の皆様方には、今後とも本校への変わらぬ御理解と御支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、本校の更なる発展を祈念し、祝辞といたします。



創立 100 周年おめでとうございます

前校長 浅見 浩一郎

東京都立足立高等学校創立 100 周年を、心よりお祝い申し上げます。

生徒の皆さんや多くの卒業生の皆さん、同窓会の皆様、誠におめでとうございます。この喜びをともに分かち合いたいと思っております。また、足立高校の卒業生が日本の様々なところで活躍され、社会や地域に大きな貢献をしていることに改めて敬意を表するとともに、創立以来一世紀にわたり途切れることなく温かい御支援をいただいている全ての保護者、PTA関係の皆様、地域の方々に改めて感謝を申し上げます。

私が着任した当時、都立高校全体に対して大きな改革が求められておりました。文部科学省から新学習指導要領において新しい学びの形が示されると同時に、大学入試改革も進められ、それに対応した教育活動の変革が急務であり、都立高校として都民の皆様の期待に応えるべく変革に向けた努力が各校に強く求められていました。その中で足立高校は東京都教育委員会より、「学習指導・進路指導に関するモデル校」に続き、「進学指導研究校」の指定事業を任せられ、その期待のもとに、学習指導及び進学指導の向上に様々な取組を行い、大きな成果を得たことを覚えています。特に、特別進学クラスの設置に際して、各分掌・教科の組織的な指導が強化され、初めての導入から卒業までの指導を経て、今後の躍進の手応えを感じたことが思い出されます。

様々な取組を実施する中で、足立高校の「学業第一」の校風や歴史・伝統を大切にしながらも、生徒、保護者、地域の求めているものを的確に把握し、その上で日々の教育活動を更に充実・発展させていくことが最も大切であると考えていました。足立区の地域に根差した高校として、足立高校がこれまで以上に地域の皆様に愛され、信頼される学校となるために、一步ずつ前に進むことを目指し、生徒の皆さんや教職員と意見を交わしながら日々新たな取組を考えていたことが思い出されます。

振り返りますと、足立高校の特徴の一つとして、生徒と教職員の距離が近く、相互に良好な関係が築かれていることを強く感じました。生徒の皆さんは素直な生徒が多く、教職員も親身になって生徒一人一人に丁寧に接し

ていたことが記憶に残っています。在任中の後半は、感染症への対応で、生徒にも教職員にも大変な困難を強いることになってしまいましたが、生徒、教職員をはじめ関係の皆様との信頼関係の中で何とか乗り越えることができたように思えます。

私は足立高校の校章についての話が好きでよく生徒に話しました。足立高校の校章は、三つ葉のクローバーをモチーフにしています。クローバーは踏まれても枯れることのない大変強い植物です。また、四つ葉のクローバーは幸運をよぶと言われますが、これは人の歩く道沿いに多く発生し、一度踏みつけられた後に力強く再生するときに幸運の四つ葉になるのだという話です。足立高校の生徒や卒業生の皆さんには、困難にくじけずに再び立ち上がり、幸運を掴み取ることができるような逞しい生き方、「足立高校魂」を生涯にわたって見せてもらいたいと思っています。

創立 100 周年という大きな節目にあたり、足立高校の一世紀にわたる歴史を振り返るとともに、折々の場面で足立高校の歩みに尽力された方々の努力に思いを寄せ、新たな 100 年に向けて更なる飛躍を遂げるための一步を踏み出す機会となることを期待しております。

結びに、これからの足立高校の益々の発展と、関係の皆様御健勝とお幸せを祈念しております。



創立 100 周年に寄せて

元校長 井上 隆

東京都立足立高等学校創立 100 周年、誠におめでとうございます。私は足立高校に二度の勤務経験があります。初めは定時制課程に昭和 62 年から平成 5 年までの 6 年間に新規採用者として、二度目は平成 27 年 4 月から平成 30 年 3 月までの 3 年間校長として勤務いたしました。全日制と定時制とが同居する併置校である本校は、昭和 62 年の頃、既に定時制が 16 学級もあるマンモス校でしたが、平成 29 年度には全日制も一学年 8 クラス全 24 学級、定時制 20 学級の超マンモス大規模校となっております。

新規採用で着任した時は、校舎の一部改築が行われており、夏は冷房が効かないプレハブ校舎で保健の授業をしたことや、定時制の体育準備室が完成し、同僚と重い荷物を運び引っ越したことを懐かしく思い出しました。定時制教育について何も知らない新任教員は、生徒との関わり方もぎこちなく、戸惑うことも多く、多くの方に御迷惑をおかけいたしました。

校長として着任した平成 27 年度は改築がほぼ終了しましたが、プレハブ校舎が立っていたグラウンドの改修工事が残っていました。そのため 6 月の体育祭は都立舎人公園にある陸上競技場をお借りして実施しました。当日は梅雨の始まりの不安定な天気で、それでも午前中の種目をほぼ終了した頃に、ぽつぽつと雨が降り始めたかと思う内に、あっという間に滝のような土砂降りと雷鳴が轟き、生徒を急いで屋根のある観客席の下に避難させたということもありました。3 年生が主役となる午後の競技ができなくなり、後日学校の小さな仮グラウンドで残った 3 年生の競技を行いました。この時に実は自分が雨男であることを生徒や教員に告白できませんでした。

新任校長への教育委員会からのミッションは、校舎改築を原因とした低い入試倍率を向上させること、大学進学率を向上させることの 2 つでした。私は「すべてのことは生徒のために」、「チーム足立高校」をスローガンに掲げ学校経営を始めました。入試倍率向上のために、新しくなった校舎や設備を Web ページに掲載し、夏休み中にパンフレットを持って足立区内の中学校をめぐり、同様に塾、予備校を訪問しました。また、中学校から進

路説明会への出席依頼があれば、喜んで行かせていただきました。大学への進学率を向上させるためには、東部学校経営支援センターが実施するセンター特別指定校の指定を受け、放課後に自習室を開設し、大学生のチューターを配置する計画を実行しました。チューターを探しに、葛飾区に新設された東京理科大学の学生課を訪問したこともありました。そして、特別進学クラスの設置を提案し、実施のためのプロジェクト・チームを立ち上げ、先生方にすでに進学クラスを設置している江北高校や葛飾野高校を訪問してもらい、実施方法について検討しました。その結果、高校生活を 1 年間過ごす中で、進学に向けた高い志を継続できた生徒が切磋琢磨できるように、1 年生から 2 年生に進級する際に特別進学クラスを設置することになりました。入試倍率の向上は 3 年目には成果がやっと現れましたが、進学クラスについては、異動となり進学クラスの取組を見ることは叶いませんでした。

結びに、在任中に至らない私に活力を与えてくれた生徒の皆さん、教職員の皆様、そして学校を支えていただいた保護者の皆様、PTA 役員、同窓会の皆様に改めまして感謝を申し上げますとともに、次の 100 年に向けた伝統のある足立高等学校の益々の発展と、足立高校生の御活躍と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

100 周年おめでとうございます。



祝創立100周年 —百年の計は人を植うるにあり—

PTA会長 小川 政美

東京都立足立高等学校創立100周年、誠におめでとうございます。この記念すべき周年にPTA会長として、PTA活動に携われる事を光栄に思います。

さて、大正12年に千住町立女子実業補習学校として設立されて、令和5年に100周年という大きな節目を迎えました足立高等学校は、様々な事がございました。令和2年から現在に至るまでコロナ禍により、授業・各行事が中止や縮小となりましたことは、生徒の皆様や教職員の皆様には、大変厳しく辛いものがあったのではないのでしょうか。厳しい時期を乗り越える事ができましたのも、ひとえに地域の皆様、学校関係各位の御尽力の賜物であると拝察し、PTA役員一同感謝の念に堪えません。

こうして、皆様に助けられ、見守られながら、生徒の育成に励んで来られた功労が、100周年という実を結んだのだと確信しております。

「百年の計は人を植うるにあり」という言葉がございました。

「一年の計は穀を樹うるに如くはなく、十年の計は木を樹うるに如くはなく、終身の計は人を樹うるに如くはなし」から引用された言葉で、遠い将来まで計画を立てるなら人材を育てることに尽きるということを意味しております。

創立90周年の記念誌で、「100周年に向け新たな飛躍を！ 伝統の『自由と責任』をつなげたい」と座談会の内容が掲載されていました。

自由闊達な校風を活かすのは、各々の責任ある行動が、その意志が必要であると拝察し、「百年の計は人を植うるにあり」に繋がる骨子であると感銘を受けました。

今正に、東京都立足立高等学校は、開花の100年を迎えたのでございます。時代は、AI技術の進歩等、目まぐるしく変化を遂げております。

しかし、変わってはならない伝統というものもございます。培ってこられた「自由と責任」を更に、その意志を紡ぎ、未来に向け、真なる自由と確たる責任を貫かれます事を願っております。

今後、東京都立足立高等学校が、110年、120年、150年と益々発展されますよう、また、生徒の皆様、教職員の皆様の弥栄を御祈念申し上げ、微力ではございますが、PTA役員一同が粉骨砕身活動して参りますことを表意致しまして結びといたします。



創立 100 周年に寄せて

副校長 塚本 久美子

東京都立足立高等学校創立 100 周年おめでとうございます。

創立以来、本校教育活動に対し、保護者、同窓会ならびに地域の皆様方の御理解、御協力に厚く御礼申し上げます。また、今日まで御尽力いただいた校長先生をはじめ、教職員の皆様に心より感謝いたします。

私は令和 4 年度に副校長として着任いたしました。校門の桜に出迎えられ、気持ちを新たにすることを覚えています。

足立高校は「学業第一」の校風の下、勉学はもちろん、部活動においても活躍の幅を広げており、日頃の活動の成果を発揮しています。また、関東大会や全国大会に出場する部活動に対する、保護者、同窓会からの御支援をいただき、心から深謝いたします。

さて、平成 31 年度末から新型コロナウイルス感染症対策により、本校においてもそれまでの学校生活が一変し、新しい生活様式のもと試行錯誤を繰り返しながら「学びを止めない」工夫をしてまいりました。

学習活動においては、東京都や経営企画室に施設や設備面で迅速な対応をしていただき、ICT を活用した授業改善を図り、端末を利活用したオンライン授業、グループワーク等による主体的・対話的で深い学びの実践に取り組みました。また、学習支援ツールを活用した課題配信や授業外学習時間の伸長に向けた支援を実施し、コロナ禍においても学習環境を整備してきました。

学校行事や部活動等では、それまでの学校生活が如何に大切なものであったかを改めて感じつつ、限られた時間や制約の中で、時に心が折れそうになりながらも、生徒、教職員で検討を重ね、できる限り活動を確保できるようにしてきました。

それらの教育活動の中で、計画を練り直し、何が必要か、考えを深め、知恵を出し合い、自分の思いを何とか伝え行動できるよう生徒の力を引き出そうと熱心に指導する先生方や、保護者の皆様や同窓会の御支援をいただきながら、自然と、そして確実に成長を遂げていく生徒の姿を目の当たりにするたびに、足立高校の底力を感じずにはられません。

「学業を第一として自らすすんで教養を高め、健全な精神と身体を養い、よりよい人生と社会を建設する意欲にあふれた人間を育成する」という教育目標の下、生徒一人一人の資質・能力を育成し、自己実現を図る教育が今後も継続されることを確信しております。

最後になりましたが、100 周年記念誌の発行にあたり、御尽力いただいたすべての皆様に御礼を申し上げるとともに、足立高等学校の益々の発展を心からお祈り申し上げます。



創立 100 周年を迎えて

全日制前生徒会長 (令和3年11月～令和4年10月) 山野 真明

現在、私たち足立高生は生徒一人一人が勉学に、部活動に、学校行事に一生懸命に取り組み、活気にあふれた学校生活を送るとともに、それぞれが自分の進路に向けて大いに力を発揮しております。

部活動では運動部、文化部含め 27 の部活動が日々活動し、ともに活動する仲間と時に協力し、時に競い合い、自らを高め合うことの大切さを学びながら能力向上に励んでいます。今年度入学した学年からは、授業カリキュラムが新しいものとなり、学校内でも時代の変化を感じます。社会の流れもあり、私たちは常に先生方や地域の方々の助力を受けながら生活しています。私たち生徒はそのことを強く自覚し、感謝の心を忘れずに日々勉学に励んでいます。

このように様々なことが変化していく時代に生きる私たちが 100 周年という記念すべき瞬間に立ち会うことができたことに大きな喜びを感じます。

足立高校の校訓である「学業第一」には「確かな学力と豊かな人間性を培い、自立した人間の育成を目指し、自ら行動する力、創造する力、文武両道を実践する力、など新しい時代に必要とされる資格・能力等を養い、社会で活躍する人材を育成する」という意味があり、私たちは足立高校の生徒として豊かな学力と創造力を学び、社会で活躍できる実力を身に付けるために精進しています。

創立以来、数多くの先輩方が卒業され、各分野で御活躍されております。私たちはその御活躍を心の支えとし、先輩方によって培われてきた伝統と校風を更に発展させていかなければならないと強く感じております。卒業してからも目の前に立ちはだかる壁を乗り越え、先生、先輩、仲間への感謝の気持ちを忘れず、様々なことを学び、挑戦をし、そして、後に続く後輩たちの目標となる存在となれるよう日々精進していきます。



次の 100 年へ

全日制生徒会長 (令和4年11月～令和5年10月) 辰田 佳美奈

始めに、足立高校の創立 100 周年を心からお祝いします。

100 周年という節目の年にこの学校の生徒として在籍できることをとても嬉しく思います。

私が足立高校を初めて知ったのは、中学 2 年生の時でした。夏休みの宿題で上級学校訪問をすることになり、この学校の学校説明会と文化祭に参加したのがきっかけです。その時に見た在校生の笑顔がキラキラと輝いて見え、このような笑顔に囲まれて 3 年間を過ごせたら本当に幸せだろうと思い、受検を決めました。実際に入学してから充実した日々を過ごせていて、この学校を選んで本当に良かったと心の底から思っています。

しかし、一方で、約 3 年前から続いているパンデミックで幼い頃から思い描いていたような学校生活が送れていないのも事実です。日々の行動に制限がかかることも多く、どこか寂しい思いをすることも多々ありましたが、それでも先生方の努力と工夫のおかげで出来なかった行事が少しずつ実施できるようになりました。このまま以前のように不安ひとつない笑顔と活気に溢れる場所に帰ることができるよう願っています。

さて、足立高校は数年前に改修工事を行い、今はとても綺麗な校舎で私たちは学ばせていただいています。毎年入学する生徒も違えば、この学校を取り巻く環境も数十年経てば変わっていきます。そのような中でも足立高校は伝統を継承しながらも、社会変化に対応し、進化し続ける学校であってくれるといいなと思います。

創立100周年記念座談会

テーマ【100年の想いを輝く未来へ】

自由と自律の伝統を継ぐ校風で チャレンジ精神溢れる母校を！

主催 都立足立高等学校創立100周年記念事業実行委員会

日 時 令和5年3月18日(土)

場 所 都立足立高校 会議室

出席者 元教職員 青田 雅樹(27期・都立竹早高校(保健体育科)勤務・卒業生)

同窓生 長谷川輝雄(12期・(株)新宿高野役員・元同窓会副会長)

瀧本 清隆(21期・元日本航空(株)勤務・元テニス部)

友吉 貴子(37期・医療事務・元天文部)

引網 史恵(48期・鍼灸師・柔道整復師・元陸上部)

森 佑紀(60期・看護師・元陸上部)

PTA会長 小川 政美

生徒会長 辰田佳美奈(2年生)

生徒会副会長 田中 小風(1年生)

司 会 同窓会事務局長 持田 敏行(26期)

(敬称略)



後列左より 持田 友吉 引網 森 辰田 田中

前列左より 小川 青田 長谷川 金成 瀧本 の各氏

私たち同窓会は、母校創立100周年にあたり、在校生、年代の異なる同窓生、PTA会長の9人にご出席いただき、各人の高校時代を振り返りながらご発言をいただく座談会を企画しました。この座談会を経て、私たちは時代の変遷はありながらも、根底に流れる足立高校の伝統は、常に自由闊達さと自律であることを改めて確認することとなりました。創立から5回も学校の所在地を変えながら、先輩方が掲げた志は変わることなく、各年代へと引き継がれています。

次世代の皆様方は、自由と自律の伝統を受け継ぎ、更にチャレンジ精神を培い、グローバル化する国際社会へと大きく羽ばたいてほしいと願います。

司会：それでは、都立足立高等学校創立 100 周年記念誌企画の座談会を開催いたします。司会を担当する、同窓会事務局長、26 期、昭和 50 年卒の持田です。



持田 敏行さん

本日の座談会は、同窓生、教職員 OB、PTA 役員、在校生、計 9 名に参加いただいています。まず、参加者の皆さまから、一言、自己紹介をお願いします。

長谷川：昭和 36 年卒業、12 期生の長谷川と申します。歳は 80 歳です。

瀧本：21 期の瀧本と申します。私は同窓会の存在を最近まで知りませんでした。同窓会誌『さやか野』を読んでいたら、私が長年勤めていた会社でお世話になった金成先輩が、同窓会の会長をやっていることが分かり、去年の 10 月に初めて同窓会に参加しました。

友吉：37 期の友吉といいます。在校生のお二人のお父さん、お母さんより、少し年上かなと思います。当時、天文部があって、そこにいました。

引網：48 期の引網史恵と申します。一昨日 44 歳になりました。私たちの時代に標準服が変わり、通学服ががらりと変わった節目の時でした。当時は陸上部に入っていました。

森：60 期生の森佑紀です。私も元陸上部で、青田先生が顧問でした。

青田：昭和 51 年卒業、27 期の青田です。今、文京区の竹早高校で非常勤教員をしています。足立高校は母校であり、自分が勤務した学校でもあるので、思い入れも強いです。

小川：足立高校で PTA 会長を務めております、小川と申します。昨年度就任しました。2 学年に娘が在籍しています。

辰田：75 期生の生徒会長、辰田佳美奈です。

田中：76 期生、生徒会副会長、1 年 7 組の田中小風です。水泳部に所属しています。

司会：それでは早速、「100 年の想いを輝く未来へ」の本题に入りたいと思います。

今年は、母校創立 100 周年ということで、11 月に記念式典と祝賀会が挙行される予定です。また、学校、PTA、同窓会が協力して、母校創立 100 周年記念事業を企画しています。先日、PTA と同窓会で学校へ校旗を寄贈させていただきました。

同窓会は、令和 5 年度から、在校生のための給付型奨学金制度を設立して、在校生の学校生活を支援してまいります。

これから、皆さま一人一人の創立 100 周年を迎

える母校への感想、思いを聞かせていただきたいと思います。

長谷川：最初に、今日は創立 100 周年記念の座談会で、大変めでたく思います。今日の座談会が、ある意味では、一つの記録に残る座談会になると思いますので、声がけしていただきましたことに感謝と、責任も感じています。



長谷川 輝雄さん

学校の 100 年と私の 80 年と、何となく、つながりがあるような感じもしています。足立高校の良さを残しながら、ますます発展していくことを願っています。

穏やかな校風で自主自律や 自調自考に長けて (瀧本)

瀧本：足立高校のホームページを拝見すると、ある先生が、この学校のキャッチフレーズに、『「入って安心、出て納得」の足立高校』と表現されていました。これは非常に実態を言い得ているなど感心しました。

この学校は、今思うと、穏やかな校風で、学校生活で学んだ物事が卒業後もそのまま役に立ち、自主自律や自調自考というような言葉がぴったり合う学校だったんだなと思い返せます。

100 年の中に「かけがえのない私の 3 年間」もありて (友吉)

友吉：大正から始まって、昭和、平成、令和と続いてきた、この 100 年の中の、自分が足立高校生としていられたのがたった 3 年間だったのに、小学校よりも中学校よりも自分の中に強く色濃く残っていて、それだけ濃密な高校生活を過ごせたんだなというのが、今になって感慨深いです。この先、150 年、200 年と、「足立高校の色」を残したまま発展していったらなと願っています。

引網：在校生の時は、自分が今、何周年の学校にいるかは考えたことなく過ごしていましたが、義理の母も足立高校出身で、その縁で、この同窓会に呼んでいただいています。

義理の母と会った時など、当時の足立高校の話をして双方で楽しんでいます。それぞれ、その時代の良さの足立高校があって、地域に根付いた、

どんと構えた学校だね。」という話はよくしています。

森：私の在校時も、足立高校はいろいろな人たちがいて、その時々で、選ぶのは全部自分だったなと思っています。

例えば部活だったり、勉強を頑張ったりするのも、「全部自分が選ぶもの」だったのです。

自由がたくさんある学校で、それは今後も続いていってもらえたらいいなと思っています。

青田：創立 100 年の節目であり、100 年間続いている足立高校という重みをすごく感じます。



青田 雅樹さん

私は教員としても学校に関わってきたので、今後は同窓生として、100 年以降の足立高校を次の世代に継承できるように関わっていけたらと思います。

60 期の森さんは、私がちょうど足立に赴任してきた

時の 1 年生だったんですね。だから、記憶も鮮明に残っていて、やんちゃな子たちも多くて、でも、部活もしっかりとやっていて、この当時の足立も、また今の足立とは違った良さがありました。

小川：皆さんのお話を聞いていると、母校愛がすごくあって、うらやましいなと思います。校舎はきれいになりましたが、「学校」が歴史を伝えていて、建物も、この空気も、この土地も、皆さんの成長をすごく感じ取っているんだなと思いました。



小川 政美さん

私は PTA として、コロナ禍でまだ何もできていませんが、何かできることがあれば、お手伝いしながら発展につなげていきたいと思っています。

辰田：私は、中学 2 年生の時に本校の文化祭に来て、ここなら楽しい 3 年間を送れそうだなと思い、入学を決めました。

実際に入学して、もちろん、コロナ禍で思うように行事ができなかったりすることもありましたが、その中でも楽しい日々を送ることができていて、足立高校に入学して良かったなと今も思っています。次の 100 年も、そう思ってくれる後輩たちがたくさんいてくれるといいなと思います。

田中：私は 10 月ごろに生徒会に入り、副会長になって、そのタイミングで足立高校が 100 周年ということを知って、すごくびっくりしました。

そのような伝統と歴史のある学校に入学できて、しかも、副会長をやらせていただいて、すごく光栄なことだなと改めて思います。副会長をやっていないければ、このような会に呼んでいただけ

ることもなかったので、本当にすごく貴重な体験をさせていただけて、ありがたく思います。

好きです！ 自由闊達さ がある校風 (長谷川)

司会：皆さまから、いろいろな思い、考えを聞かせていただきました。続きまして、同窓生の皆さまに、高校時代の思い出や高校生活で得たもの、影響を受けたこと、後輩へのアドバイスがありましたら、それらも含めて、心に残ることをお話しいただきたいと思います。

長谷川：僕らがいたころは、まず、校舎が木造で、古くて汚かったんです。雨が降ると雨漏りして、相当嫌な思いをしました。だから、今の新しい校舎は非常にきれいでいいですね。それと、他の学校に落ちて、滑り止めで足立高校へ来たのが半分近くいたと思います。

あのころの校風というのは、僕の記憶では、非常に自由でした。卒業時は、国公立大学にもかなり進学していて、みんな勉強していないように見えて、結構していたんだなと思いました。

僕は、在校時代は山岳部にいました。部員が 30 名ぐらいで、随分、山へ行きました。山に行った時の懸垂下降というザイルを使った降り方があるんだけれども、当時、教職員室があった建物の屋上から先生に断りもなく練習して、こっぴどく怒られました。

それから、在職中の先生がクイズ番組に出て、全問正答して 100 万円をもらったこともありましたね。とにかく、先生も生徒も自由にやっていて、そういう校風はぜひこれからも残していってほしいなと思います。

学校紛争を経て、 「真の自由とは」を再考

(瀧本)

瀧本：私が高校に入った昭和 42 年から、都立高校の入試で学校群制度が開始になりました。

複数の学校が群を構成し、受験生は群を受検し、本人がどこを希望するかは一切関係なく、群に属しているどこかの高校に振り分けられるシステムでした。

足立高校は江北高校と群を組んで、53 群でした。



瀧本 清隆さん



江北高校は進学校で、早い時期に勉強の課程を全て終了させて、受験態勢に入っていました。

一方、足立高校は、3年間を十分に使って課程を終わらせ、受験勉強は生徒に任せるという校風でした。

私が高校2年の時、昭和44年の3月に、“学校紛争”が起こりました。卒業式の進行中に、数人の在校生が、突然、大声で、「卒業式、粉碎」とか、「〇〇反対」と叫び、それに同調する声が上がりました。ヘルメットをかぶっていたのか、ビラがまかれたのか、横断幕が垂れ下がったのかという記憶は、私はないんですけれども、少なくとも、火炎瓶が投げ込まれたとか、当日のバリケードの封鎖は絶対になかったと思います。

当時、卒業生たちは、ほとんどが状況を黙視していたんですが、そのうち、シーンとなった中で、一部の卒業生が、「これは我々の卒業式なんだ。」と、「おまえら、勝手なことをするなよ。」と叫び、これがきっかけになって、それに呼応する声がどんどん出てきました。結果として、卒業式は中断されて、卒業生の一部は中庭に集まって、討論集会を開催しました。在校生はそれに加わることは許されずに、教室に戻されて、先生のいないホームルームが行われました。

一部の生徒のために学校の正常な運営が阻害されることは避けるべきであり、また、過激な行動は絶対に許されないとしました。

私も21期生は、この事件に遭遇したことにより、他の世代とは異なる高校生活を体験しました。青春時代真っ只中の私自身、すごく大きなショックを覚えて忘れられない思い出です。

司会：貴重なお話をしていただき、ありがとうございます。

友吉：先輩方の群制度の後、私たちの時からグループ制度に変わりました。

足立区にある足立や江北などの数校をひとまとめにして、52グループになりました。グループ合格というのがあって、それに合格していればグループ内のどこかには入れる制度でした。

私は、入学式で、生徒会長がサロベットにトレ

ーナーで挨拶に立っているのを見て、すごく大人に思っただけでした。バブルが始まってしばらくしたところで、ブランドものの洋服やバッグを持って学校に来るという世代でした。

でも、大学進学率も悪くなかったし、みんな自由奔放にやっているけれども、どこかで自分を律することができる高校生だったと思っています。

今、社会に出てからも、足立高校で身に付いた感覚はそのまま残っていることが多くて、勉強以



友吉 貴子さん

外にも学んだことはたくさんありました。今の在校生の皆さんにも、そういう経験をたくさんしてほしいし、今しかできない楽しい高校生活を満喫してもらいたいと思います。

私服時代は校内に「アムラー」も。勉強・部活にも全力投球

(引網)

引網：私たちの時代はちょうどコギャルブームで、安室ちゃんの「アムラー」が世の中にたくさんいた世代です。

男子生徒はほとんどが私服で、女子生徒の間では、標準服を着崩したり、ミニスカート、ルーズソックスがはやっていました。私も1年生の時からピアスを開けて、茶髪にパーマもかけたりしていました。

高校3年間は、人生で一番勉強したんじゃないかな。学年1番を取り、オール5で卒業し、部活も毎日ちゃんと出て、3年間、無遅刻無欠席無早退という学校生活を送りました。大学には指定校推薦で行きました。

卒業式の日、すごくドレスアップしてくる子



引網 史恵さん

もいたり、ジャージの子もいました。私は PUFFY をまねして、グルングルンのパーマをかけて、水色のワンピースを着て、高いヒールを履いて、卒業式に出ました。個性豊かなお友達に恵まれた、とてもいい 3 年間だったなと思います。

私服から標準服へ。 自由闊達さは健在! (森)

森：私の時から今の制服に切り替わりましたが、まだ転換期だったので、私服でもいいし、標準服でもいい。標準服のリボンを自分で買ったものに替えたり、そういう感じで、自由な校風は残っていました。やはり、やんちゃな子たちもすごく多くて、悪さも結構していたような時代でした。

私はというと、ほとんど部活でした。平日は授業が終わったら部活に出て、土日になると大会や練習があり、友達も、部活の子と仲が良く、今でも飲みに行ったりする仲です。

練習は結構きつかったんですが、地道に行うことが大事だと思っていて、今もそれは仕事などに影響しています。また、勉強はすごく大切だと思います。今しっかり勉強しておけば、自分の夢が広がると思うので、今できることを一生懸命やって、自分の将来に向けて頑張ってください。



森 佑紀さん

薫陶を受けた先生、憧れの先輩に近づきたい! (青田)

青田：私は、まだ学校群制度が残っていた時代でした。生まれたところが御徒町で、小学校、中学校と、グラウンドが土じゃなかったんですね。だから、高校は、広いグラウンドのあるところに行きたいと思っていました。中学時代の陸上部の先輩たちが足立や江北に多かったので、53 群を受けました。

高校時代は部活一筋でした。森さんが言っていたように、人間関係も全て部活動からなんですよ。先輩、後輩、部活動の仲間たちと遊んだり、合宿したり、とにかく四六時中一緒にいるわけです。制服がなく服装は自由でしたが、私は服を選ぶのが面倒だったので、学ランを買って、ほとんど学ランで過ごしました。

文化祭や体育祭はクラス中心で本当に面白か

ったのですが、高校時代の思い出としたら、やはり部活以外はないですかね。合宿も、今はなくなった小出山荘（新潟県）で本当にきつい合宿をやらされました。

私は部活顧問だった山口智司先生に薫陶を受けました。東京教育大学出身の素晴らしい先生でした。体育の先生でこんなに知的な先生がいるのかと憧れていました。

その当時、陸上部の先輩たちが東京教育大学（現筑波大学）に行き、すぐ上の先輩も筑波大学に入りました。先輩方を見て、筑波大学を身近に感じるようになり、自分も筑波大学へとチャレンジし合格しました。

自分が一生懸命やっていた延長線上に今があること、それから、自分がなりたい目標に向かって挑戦することで、自然にそれは実現できるのかなという気がしています。

私の高校時代は、先生にも、部活にも、先輩たちにも恵まれたなと思います。

司会：皆さん、高校時代の積もるお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

まさに「自由だけれども自律心を持っている」というのは、先輩の時も、今の在校生の皆さんも同じなのかなと思います。

一生懸命頑張る、挑戦を忘れないでということが、諸先輩からのアドバイスだと思います。在校生の皆さん、ぜひともこれからの糧にしてください。

コロナ禍での高校生活に 終止符…これからが楽しみです! (辰田・田中)

司会：在校生の皆さんは、コロナ禍でしたいこともままならない中で過ごしてきたと思います。

その間、やりたかったことやできなかったこと、これからやりたいことなどの皆さんの青春をお話いただければと思います。

辰田：中学 3 年生の時に新型コロナウイルス感染症により、学校に行けず、行事が何一つないまま卒業してしまっただけです。でも、高校に入って、学年別ではあったんですが、体育祭や校外学習、文化祭などが開催されて、すごく青春しているなという感じがありました。ただ、去年も今年も合唱祭はずっと開催されなくて、3 年生になると合唱祭には参加できないので、それがすごく心残りです。後輩たちには楽しんでもらえたらなと思っています。

あとは、1 年生の 10 月からずっと生徒会に入



辰田 佳美奈さん

っているのですが、先輩と関われる場所が生徒会しかなかったもので、そういう意味ではいろいろと貴重な体験をさせていただきました。まして、今、100周年という節目の時に、生徒会会長としてやるのがたくさん

あるので、そういうところから、いろいろなことを学んでいけたらなと思っています。

部活は、今年の2月までダンス部に所属していました。3学年合わせると70人ぐらいいる、結構大きな部活です。初心者から始めて楽しくやっていたんですが、みんなで一つのものをつくり上げるのがとても大変で、くじけそうになる時もたくさんありました。でも、2年間続けられて、いろいろと学ぶこともできましたし、踊ることの楽しさを知ることができたのは良かったなと思っています。

あとは、何事も頑張る人になりたいと思って入学しました。勉強も頑張って、ずっとクラス1位を取っていました。学年1位も何回か取ったのですが、2年生になって、あまり成績が振るわないこともあったので、3年生からは挽回していきたいです。来年度は高校3年生になるので、この1年を全力で楽しんで、足立高校で良かったなど、この時代に高校生として過ごすことができて良かったなと思えるようにしていきたいです。

田中：私が中学校1年生の終わりに新型コロナウイルス感染症が始まって、2年生の夏前あたりまで学校に行けませんでした。結局、中学校3年までコロナ禍で、学校に行ったり、休みになったりが続いて、修学旅行に行けなかったんです。



田中 小風さん

高校では、修学旅行や文化祭はできるのかなと期待していたんですが、2年生の先輩が、つい最近、大阪のUSJに行っていて、「修学旅行に行けるんだ!」と安心しました。

昨年は、6月あたりに体育祭も無事にやることができました。みんなで準備したり、役割を決めたり、本当にすごく楽しい思い出になりました。文化祭も、みんなで一つのものをつくり上げて楽しかったです。先輩もおっしゃっていたんですが、高校に入って合唱祭がまだできていないので、次の年はできたらいいなと思っています。

先生方は進路のことに関してすごく力を入れてくださっています。講師による進路やお金の使い方についての講演があります。特に進路に関し

ては、学習内容が充実しているなという印象があります。

充実の進路指導。同窓会も協力しています!

(田中・司会)

司会：同窓生講演として、同窓生が進路について話す機会もありますね。

田中：勉強面は、勉強している子としていない子の差があり、自律して頑張らなきゃ大学進学は少し難しいかなという面もあって、私も気合を入れて頑張っていこうと思っています。

司会：お二人ともコロナ禍でなかなか好きなこともできず、学校生活も十分に体験できなかったということですね。やっとこれで、修学旅行や体育祭、文化祭ができることになり、本当に良かったと思います。私たちも安心しました。

辰田さん、最後の1年間は楽しい高校生活を送ってください。

辰田：ありがとうございます。

司会：弥生野祭について、金成会長からも興味深いお話を伺っていたので紹介します。

今では毎年開催されている弥生野祭ですが、以前は隔年で行われていたそうです。そこで、昭和41年、生徒会長を務めていた金成会長を中心に、生徒たちが声を上げ、毎年の開催や、今では行われていませんが、後夜祭でのキャンプファイヤーも先生方に交渉し、「自分たちで責任をもってやること」を条件に許可が下りたそうです。また、「弥生野祭」という名前も、その年の生徒たちが投票で決めた名前だそうです。「自由と自律」は、当時の生徒の間にもあったようですね。

地域で愛される学校へと生活指導に重点を (青田)

司会：青田先生は、同窓生の時と、教鞭を執られた時と、2回、足立高校で違う年代を過ごしているらしいです。

青田先生から見た足立高校の校風、伝統をお話しいただけますか。

青田：ある年の同期会で、この近くに住んでいる同級生たちから、「最近、足立高校の雰囲気が悪い、何とかしてほしい。」と言われたんです。

その後、ご縁があり、足立高校に戻ることができました。

自由な校風は、昔も今もそんなに変わらない。

ただ、ルーズソックスやガングロメイク、茶髪がはったり、服装は乱れていた。

足立区の中学校の生活指導の先生方からは、「せっかく生活指導をしているのに、足立高校に行ったら、それがみんな崩れてしまう。」と言われたことがありました。また、学校説明会に来た中学生に感想を聞くと、「なんかちょっと怖い感じですね。」と言われたんです。その「怖い感じ」が何かというと、茶髪であったり、乱れた服装だったんです。これはやはり良くないなと思いました。

そこで、制服の導入や頭髪検査の実施等、今まで自由だった学校の規則を改革していくことになりました。生徒や保護者の理解や協力もあり、実現しました。

森さんの時代の卒業式では、女子は、袴姿が多かったんですが、保護者からは、お金がかかるので、袴姿は禁止してほしいと頼まれました。制服にしたら、袴を借りる必要がなくなるし、この状況も制服化の一つの後押しになりました。

要するに、いろいろと変えていかなくちゃいけない部分を模索して挑戦していったんです。文化・スポーツ等特別推薦と特進クラスの創設もその一つで、足立をより良く、もっとグレードアップさせようという、学校の強い意志が表れている気がしました。

在職中に兄弟4人を教えたとか、親子そろって足立高校とか、うちは地元で根差した高校なんです。そういった地域とのつながりは大切にしないといけない。

都立高校って、相当数なくなっているんですよ。だから、創立100年を迎えたこの足立高校は、私は、残さなくちゃいけない学校の一つであると認識しています。

卒業して初めて同窓会に関わった時に、先輩たちの思いの強さをすごく感じられて、自分もそこで役に立ちたいと携わってきました。その思いを常に発信することで、在校生たちにも伝わっていったらいいなと思います。

司会：青田先生のおっしゃるとおりですね。

続きまして、保護者の立場として感じる校風、伝統があればお願いします。

落ち着いた学校に、保護者の好感度高く (小川)

小川：大学1年の娘も足立高校にお世話になりました。子どもたちが入学して、保護者としてここに入った時に、校舎もきれいで、とても静かな、落ち着いた学校というイメージを持ちました。

今、同窓生の先輩方のお話を聞くと、激しい時代もあったようですし、90周年の記念誌を見ても、いろいろな意味で自由な学校だったんだと感じました。

100年続くこの学校のいいところを、先輩たちから引き継いで、今の在校生、そして、後輩の中学生たちが「足立に行きたい」と思えるような、そんな学校が今後も続いていくといいなと、私も保護者としてすごく感じているところです。

司会：それでは、現役の皆さまが考える、今の校風等をお聞かせください。

ゆとりの時間を有効活用へ

(辰田)

辰田：今回、100周年ということで、生徒会長として原稿執筆があり、ホームページなどを調べると、足立高校は定時制があって、最終下校時刻が他の学校より早いけれども、その分、勉強に充てる時間が多いというようなことが書かれていました。

私の友達では、他より早い1時間をアルバイトに費やす人が多く、その自由な時間をどう使うかで、今後どうなっていくのかが変わっていくんだなというのを思ったりしています。

私が受検をした時、足立高校は、改修工事が終わったばかりということもあり、他のところより倍率が高く、受かるか不安でしたが、無事合格できました。

地域に先輩が多い安心感、創立100周年ならではの

(田中)

田中：私は元々、別の学校を志望していて、ぎりぎりまで勉強していたんですが、間に合わないなと思って、足立に落として合格しました。

私は、志望校以外は目に入らない感じだったので、足立高校のことを何も知らない状態で来たんですが、想像より何倍も楽しくて、みんな明るくて、自由で、むしろ、足立高校を選んで良かったなど、今すごく思っているし、後悔ありません。

水泳部で、学校外でプールを借りて泳ぎに行く時の監視員さんが足立高校出身だったり、アルバイト先だったり、いろいろなところに私の先輩方がいらっちゃって、やはり100年というのはすごいんだなと改めて実感しています。

足立高校は、本当に自由な高校だと思います。

例えば、体育祭で、自分でネームボードを作ったり、自分の顔写真を貼って、うちわを作ったりするのがはやっているんです。それで、写真を撮って、インスタグラムに上げるみたいな。それが、他の学校では禁止されていると友達からよく聞くので、足立高校は自由だから、自分たちが思う青春みたいなことができて、本当に楽しいですし、充実して生活させてもらっています。

司会：同窓生の皆さまが思う校風があればお願いします。

100年の歴史の中で受け継がれてきた自由闊達さ (長谷川)

長谷川：先ほど来、共通して出てきたのが、足立高校は非常に自由闊達な良さがあるとありました。

これが100年の歴史の中で、なぜ今でも生きているのかなと考えてみると、そのうちの一つの大きな要因は、足立高校の歴史の初めにあると思うんです。

足立高校は、5回、校舎を間借りし、あちこちで居候をしながら、今の足立高校になってきた歴史があります。この居候の経験が、僕は、足立高校の今の良さに生きているのではないかなと思っています。

高校にいる3年間は、ある意味では、その人の人生を決めていく重要な3年間だと思います。だから、僕は、この3年間にできるだけいろいろなことに挑戦して、その先のその人の将来に生きていく3年間になるような高校生活を送ってほしいなと思っているし、自分もそうしてきたので、大変良かったなと思っています。

瀧本：先ほどの青田先生のお話の改革は、かなりの力仕事だったんじゃないかなと思います。

私が話した高校紛争は、生徒手帳をなくせとか、髪を自由にさせろ、制服をなくせ、それから、学校は先生と生徒が一緒に運営しているんだから、職員会議に参加させて意見を言わせろと、そういう闘争だったんですね。制服をなくし、茶髪にし、生徒たちがつかみ取ってきたものを今度は先生方が根気強く説得し、変えたんだなというところにすごく感動しました。

在校生の皆さんの意見を聞いていると、自由ですごく楽しいとおっしゃっているんです。決して自由を奪ったのではなくて、規律というかな、上手な改善の仕方をして、この学校を立ち直らせた。素晴らしいと思います。

司会：最後のテーマは、創立100周年を迎えた母

校の課題、期待、未来についてです。次の100年に向けて、まずは110年に向けた課題、期待や未来についての話をお聞かせください。

創立100周年後、目標は「果敢に挑戦！」 (青田)

青田：先ほど小川PTA 会長がおっしゃった「落ち着いた学校」は、90周年から目指していたことでもあります。

本日の在校生の2人を見ていると、随分落ち着いている雰囲気だなと感じますし、他の生徒たちを見ても、この10年で落ち着いた雰囲気が出てきたなという感じがすごくしています。

在校生のお二人は今、コロナ禍で、学校において一番の楽しみである行事ができなくて、本当に大変だったなと思います。足立高校は、体育祭、文化祭、合唱祭があります。合唱祭は、私が在学中はありませんでしたが、教師の立場からも全力で取り組むことのできる行事の一つです。

この100年を越えてからの課題は、長谷川先輩がおっしゃった「挑戦をする」ことだと思います。挑戦をしていく生徒たちがたくさん出てきたらいいなと。勉強でも部活動でも、学校行事でも、今、自分たちが持っているレベルからもっと上を目指して頑張ってみようという雰囲気のある学校づくりができたらいいいかなと思うんです。だから、次の目標は、どんどん「挑戦をする」。

学校のレベルは、見た目の雰囲気にも表れると思います。それから、卒業生の進学先や就職先、あとは部活動の対外成績も重要です。部活動では、懸垂幕が随分下がるようになってきました。確実にステップアップしている感じがしています。

生徒たちが挑戦できるよう学校全体で取り組み、学校行事一つにも熱く燃える事ができるというかなという気がします。熱い思いをたくさんぶつけられるシーンを提供し、チャレンジできる場をつくってあげられたらいいなと思います。

生徒会ではボランティア活動はやっているの？

田中：募金などはやっています。

青田：今もやっているんだ。それも一つの伝統だね。「挑戦をする」というワードは、私は、足立高校の次の世代に向けた言葉、精神だと思います。

司会：生徒たちの挑戦、チャレンジ精神を育てる学校にすることが、次の10年、100年への目標ということですね。そうすれば、当然、進学先も良くなり、部活で対外大会にも出場できる。すると、外からの評価も上がり、さらに「挑戦したい」後輩たちが入ってくる。その伝統を育てていくと

いうことですね。

引網：チャレンジする生徒について、エピソードを紹介します。私は鍼灸師として、夫とともにさまざまな分野のスポーツ選手を治療しているのですが、知り合いの子どもの足立高校生が、「僕も将来そういう仕事がしたいから、ぜひ話を聞きたい。」と言ってきました。

高校生で、全然知らない人を頼って、仕事の話を知りたいと言えるのはすごいなと思いました。

資格についてアドバイスすると、「それはどういう大学で取れるのか、大学と専門学校だったらどっちがいいか。」と質問が返ってきて、自分の将来をすごく真剣に悩んでいる生徒が足立高校にいるということに感動しました。

人生の礎になるような 高校3年間で (長谷川)

長谷川：私の同期生は350人ぐらいいましたが、みんなそれぞれ、いろいろな生き方をしています。

最近、思うのは、人は皆、「人生のアスリート」ということです。それぞれの人の長い人生の礎になるような高校3年間を送ってほしいし、また、そういう生活を送れるような校風がある高校になってほしいと思うんです。

夢中になって取り組むことが非常に重要だと思っているんですよ。

瀧本：足立高校は、足立区在住の方々が70%いて、これはちょっと血が濃過ぎるんじゃないかといわれているんですね。私も同感で、将来を考えると、地域に根を生やすだけでなく、手を広げて、ぜひ、国際色豊かな学校をつくってほしいと思います。

英語だけでなく、いろいろな語学を勉強してほしいですね。

田中：瀧本さんがおっしゃるように、この高校は7割が足立区民で、入学してきた時、「なんで足立にしたの？」と聞いたら、家から近いとか、地元だからというだけで選んだ子が多いんです。

今、話を聞いていても、すごくいい高校だなというのが分かるのに、中3の受験生に、足立高校の良さがまだ伝わりきっていないくて、もったいないなと思います。そこは課題として、生徒会で何かできないかなと考えています。

今はスマホで調べることが多いので、ホームページで名前を伏せて質疑応答ができたり、「受験生と在校生がコミュニケーションを取れる場」がもっと増えればいいかなと思っています。

行動範囲を狭めずに。 チャレンジ精神を育む母校！ (辰田)

瀧本：今、この学校は、留学生はいらっしゃるのですか。

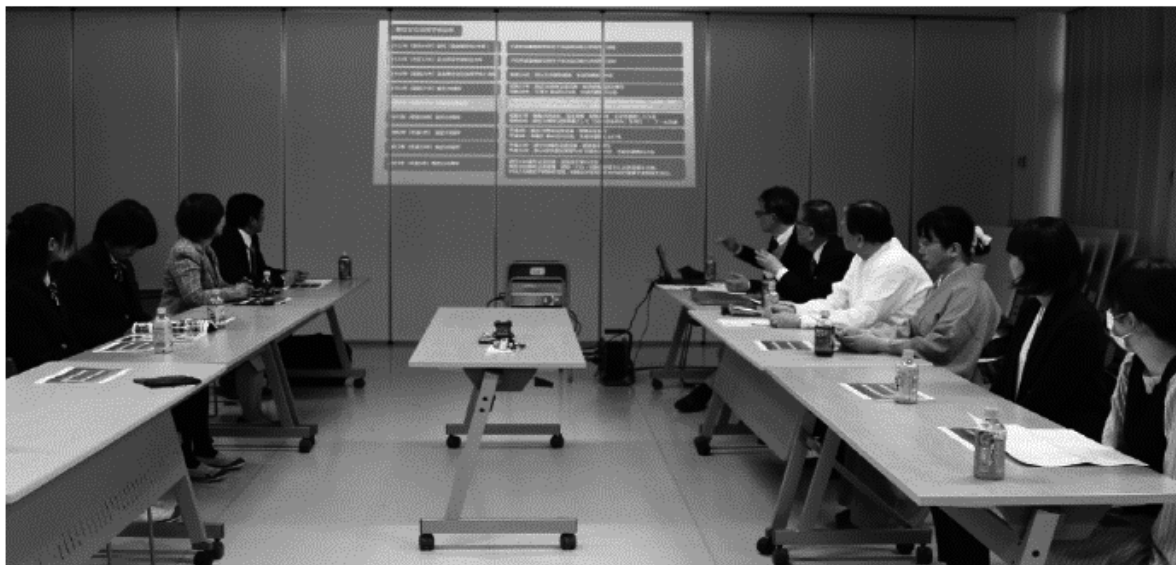
辰田：留学生はいません。

瀧本：国際色豊かになるといいですね。

辰田：本当にそう思います。私の周りだけかもしれませんが、積極的な人がちょっとずつ減ってきているのかなと、最近、思うことがあるんですよ。

今、生徒会は7人いるんですが、そのうち6人が1年生で、2年生は私しかいないんです。何人か生徒会に誘ってみたのですが、面倒くさいと言われて、入ってもらえませんでした。もちろん本当に忙しいのかもしれませんが、そういう面倒くさいと考える人が増えてきているのは残念です。

私の父も、いろいろな人と話し合って、状況を



打破していったという体験談を話してくれて、私もそうなれたらいいなと思うんです。何事にも積極的になれる生徒をたくさん生み出せる、育てる学校になったらいいなと思いました。

司会：皆さん、ありがとうございました。在校生の方からもチャレンジ精神をもちたいとありまし、私たち同窓生も、チャレンジ精神がもてる、夢中になって取り組むことができる、かつ、自由に選択することができる環境を願うというのが、皆さんの御意見じゃないかと思います。そういうことが育つ校風、伝統を守り、在校生、これから足立高校へ入る後輩方にも、そういう高校をつくっていただきたいと思います。

最後は、瀧本先輩からお話があった、「入って安心、出て納得」という高校を、次の10年、100年たっても、ずっと続けていけるような高校でありたいなと、司会者としては感じました。

最後に、長谷川さん、よろしくお願ひします。
長谷川：我々同窓生は同窓会の活動を通じて、足立高校のためにいろいろと貢献していきたいと思っています。

足立高校がこれからますます発展していく上で重要な責任を負っていることをみんなが認識し、学校も、PTAも、同窓生も含めて、同窓会をもっと深く理解していただければいいなと思います。

今までコロナ禍で、対面で話をする機会がなかったもので、今日は、こういう時間を設定していただいて、大変良かったと思います。どうもありがとうございました。

司会：それでは、これにて閉会したいと思います。在校生の皆さん、同窓会は、皆さんをこれからも支援していきます。高校生活を十分楽しんでください。また、卒業した折には、ぜひ、同窓会の活動にも参加いただけたらありがたいと思いますので、よろしくお願ひします。

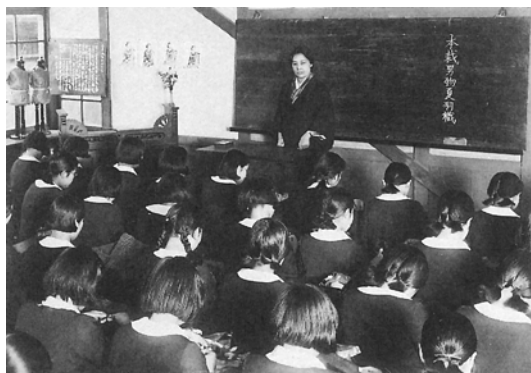
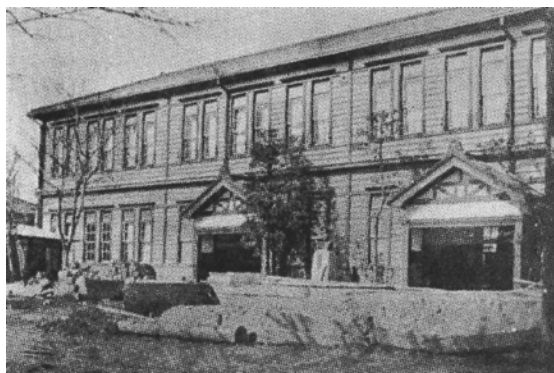


昭和37年頃のフォークダンス風景
(第14期 多田善一氏撮影)

編集：中川美知子（17期）・阿部信行（19期）
廣瀬 均（19期）・持田敏行（26期）

同窓会会誌「さやか野第27号」を一部修正し、転載しました。

明治 44.	4. 27	千住町立実業補習学校を千寿尋常高等小学校内に設置 同尋常高等小学校長の円藤光太郎、校長を兼任
	5. 10	開校（裁縫補習科 2 年制）
大正 8.	3. 31	小林条三郎、千寿尋常高等小学校長となり、実業補習学校長を兼任
12.	4. 4	小原賢秀、千寿尋常高等小学校長となり、実業補習学校長を兼任
	7. 9	千住町立実業補習学校の乙部が「千住町立女子実業補習学校」として分離独立 母校の創立（3 年制）生徒在籍数 150 名
	10. 8	大正 13 年開校予定の潤徳女学校内に移転・開校
	14. 4. 1	研究科を設置
昭和	7. 10. 1	東京市足立区千住女子実業補習学校と改称
	10. 31	小林条三郎、校長に就任



大正 12 年 7～8 月 創立の頃の校舎

千寿尋常高等小学校に併設（現在の東京藝術大学千住キャンパス）

昭和 10.	4. 1	研究科を専攻科と改称
	9. 30	補習学校規定の廃止により、東京市立足立実科女学校となる（3 年制） 生徒在籍数 150 名 以後本日をもって開校記念日とする
	10. 1	小林条三郎、校長に就任
17.	3. 31	福本菊雄、校長に就任
	4. 1	東京市立足立高等家政女学校となる（4 年制）生徒在籍数 200 名
	4. 25	足立第一高等国民学校（のちの足立区立第三中学校）内の仮校舎に移転
18.	7. 1	東京都制施行に伴い、東京都立足立高等家政女学校と改称
19.	12. 22	足立区千住橋戸町（のちの足立公共職業安定所）の建物に移転
21.	2. 25	足立第二高等国民学校（現足立区立第四中学校）内の仮校舎に移転
	4. 1	東京都立足立高等女学校を設置（5 年制）生徒在籍数 250 名
22.	4. 19	今野善胤、校長に就任
	6. 15	足立区千住弥生町 10 の一部 290 坪を校地として借地



東京市立足立実科女学校（潤徳高等女学校に併設）



昭和 17 年頃 東京市立足立高等家政女学校
の校門（潤徳高等女学校に併設）

昭和 23.	3. 15	第一校舎起工式 1,904 坪を買収
	4. 1	新学制の施行により、東京都立足立女子新制高等学校併設中学校を設置
	5. 1	定時制課程を設置
24.	2. 20	校地を 116 坪拡張
	3. 5	第一期工事（本校舎 9 教室）完成 足立区立第四中学校仮校舎より移転
	4. 1	男女共学制を実施 生徒在籍数 300 名
	6. 17	長坂勝一、校長に就任
25.	1. 19	第二期工事（第二校舎、理科室を含む 4 教室）完成
	1. 28	東京都立足立高等学校と改称
	2. 1	校地の埋め立て・整地を開始
	3. 3	新制高校第 1 回卒業生 19 名
	4. 1	生徒在籍数 450 名
26.	3. 2	第 2 回卒業生 79 名
	4. 1	生徒在籍数 600 名
		校地を 1,697 坪拡張 第三期工事（第三校舎 4 教室）完成
27.	3. 5	第 3 回卒業生 168 名
	4. 1	生徒在籍数 650 名
	4. 15	校地 3,350.02 m ² （約 1,014 坪）を買収
	5. 2	校歌制定（加藤道理作詞、近衛秀磨作曲）
10.	1	体育館（兼講堂）完成
10.	25	創立 30 周年記念式典・体育館落成式を挙





昭和24年頃の都立足立女子新制高等女学校の教職員
(足立区立第四中学校にて)



昭和24年
五反野駅側の門と第一校舎(初めての自校校舎)



昭和25年運動会

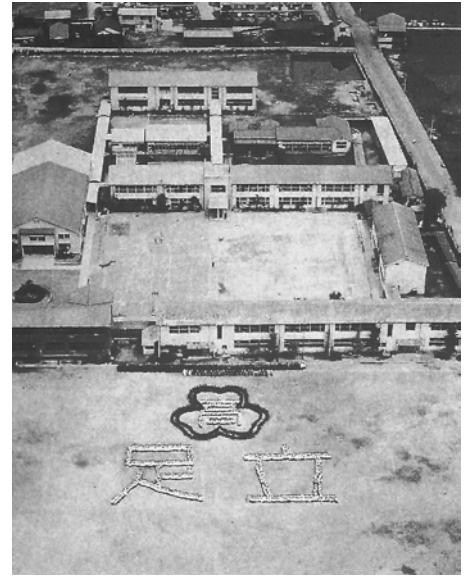


昭和25年3月 第1回卒業式(第1期生)

昭和28.	3. 2	第4回卒業生 141 名
	3.30	第四期工事(社会科教室、生物教室、図書室、同管理室) 完成
	4. 1	生徒在籍数 750 名
29.	3.13	第5回卒業生 265 名 校地の埋め立て・整地が完了
	4. 1	定時制に商業科を新設 生徒在籍数 800 名
	10. 2	図書館、和洋作法室完成
30.	3.19	第6回卒業生 246 名
	10. 1	山田孝、校長に就任
31.	3. 7	第7回卒業生 251 名
	4. 1	生徒在籍数 850 名
	9.15	第五期工事(理化学教室、表玄関) 完成
32.	3. 8	第8回卒業生 255 名
	4. 1	生徒在籍数 950 名
	10.30	第六期工事(調理室) 完成
	12. 8	食堂・部室新築、体育館増築工事完成
33.	3. 5	第9回卒業生 297 名
	4. 1	生徒在籍数 1,000 名
	8.31	ブロック塀工事、整地完了
	11.18	第七期工事(調理教室、音楽教室、普通4教室) 完成



昭和 28 年頃 サッカー部 (5 期 細川雅夫氏提供)



昭和 33 年頃 当時の校舎



昭和 30 年～35 年頃
国道 4 号線側の門 (当時の正門)

昭和 34.	3. 14	第 10 回卒業生 324 名
	3. 31	ブロック塀正門整備工事完成
	4. 1	生徒在籍数 1,100 名
	9. 22	生徒会部室、図書館増築が完成
35.	1. 31	排水溝設置、盛土整地が完成
	3. 15	第 11 回卒業生 363 名
	4. 1	生徒在籍数 1,150 名
36.	3. 12	第 12 回卒業生 366 名
	4. 1	生徒在籍数 1,200 名
	4. 10	鉄筋校舎特別教室 3、普通教室 6 完成
	10. 16	生徒会部室 9 が完成

- 昭和37. 3.11 第13回卒業生 419名
4. 1 佐藤正憲、校長に就任 生徒在籍数 1,250名
5. 1 鉄筋12教室、準備室1完成
6. 9 創立40周年記念式典（高校発足15周年）を挙行
- 7 月 木造校舎4教室（第二校舎）を取り壊し
38. 3.10 渡り廊下完成
- 3.17 第14回卒業生 407名
4. 1 橋本正一、校長に就任 生徒在籍数 1,350名
- 7.31 木造校舎9教室（第一校舎）、渡り廊下を取り壊し
- 10.31 グリーンベルト完成
- 12.20 小出山荘落成
39. 3.15 第15回卒業生 407名
4. 1 生徒在籍数 1,400名



昭和36年3月 当時の校舎（12期 長谷川輝雄氏提供）



小出山荘



昭和38年 当時の校舎（第一校舎取り壊し直前）



昭和 38 年 全国高校男子バスケットボール選手権大会に出場
* 前年昭和 37 年のインターハイでは全国 4 位に



昭和 39 年 東京オリンピック
聖火ランナー
第 16 期 二葉正人さん

昭和 40.	2.10	校庭の夜間照明が完成
	3. 6	第 16 回卒業生 469 名
	4. 1	生徒在籍数 1,450 名
	8.11	ごみ焼却炉が完成
	10.16	校庭整備事業が完了
41.	1. 1	住居表示の変更 (足立区中央本町一丁目 3 番 9 号)
	3. 4	ごみ集積所が完成
	3. 6	第 17 回卒業生 517 名
	4. 1	小山清明、校長に就任 生徒在籍数 1,400 名
	6.24	東武線沿いにブロック塀が完成
	8.11	テニスコート周辺に金網を張る
	8.22	小出山荘の北側道路用地 616 m ² を買収
	11.14	自転車置場改修工事が完成
	11.30	小出山荘運動場整地土留め工事が完成

- 昭和 42. 3.11 第 18 回卒業生 466 名
4. 1 学校群（第 53 群）選抜による第 1 学年生徒の入学 生徒在籍数 1,386 名
5. 3 校庭に自動散水装置新設工事が完成
- 11.22 ブロック塀、自動車置場の新設工事が完成
43. 3. 9 第 19 回卒業生 472 名
4. 1 生徒在籍数 1,341 名
44. 3. 8 第 20 回卒業生 455 名 一部の在校生により、卒業式が混乱
4. 1 生徒在籍数 1,314 名
- 8.30 ブロック塀、南側通用門の新設工事が完成
- 9.30 体育館、木造校舎（普通教室 4、音楽室、家庭科室）を取り壊し
- 12.15 一部の在校生によるバリケード封鎖により、期末考査中止



昭和 40 年 7 月 千葉県岩井での臨海学校



昭和 42 年 旧梅島陸橋下（踏切）



昭和 44 年 小菅付近荒川

西新井橋とおぼけ煙突



昭和 44 年 北千住・荒川橋梁

思い出深きあの駅この駅



昭和 41～42 年 五反野駅付近



昭和 41 年 北千住駅前（西口）



昭和 42 年 足立高校付近



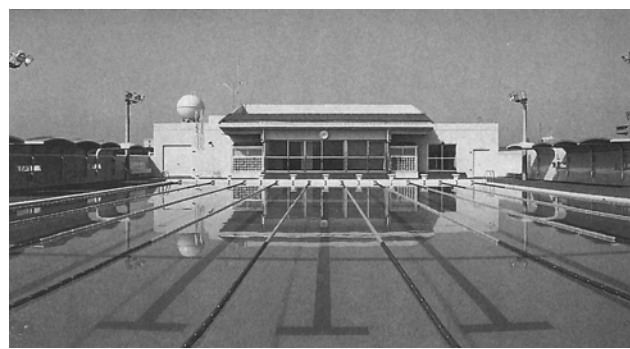
昭和 44 年 小菅駅周辺



昭和 44 年 梅島駅付近

昭和45.	3.	7	第21回卒業生 434 名
	3.31		体育館・鉄筋校舎（普通教室4、図書室、生物室、化学室、生徒会室等）が完成
	4.	1	深海孝雄、校長に就任 生徒在籍数 1,305 名
	8.31		図書館、作法室取り壊し
46.	3.	8	第22回卒業生 435 名
	3.31		鉄筋校舎（普通教室5、音楽室、食物室、物理室、保健室）完成
	4.	1	生徒在籍数 1,287 名
47.	3.	7	第23回卒業生 427 名
	3.31		鉄筋校舎（管理棟、校長室、職員室、事務室、会議室、食堂など）完成
	4.	1	生徒在籍数 1,260 名
	4.20		第3、4木造校舎（普通教室、職員室、校長室等）取り壊し
	11.	1	服装の自由化、完全実施
48.	2.20		創立50周年記念事業として「50年のあゆみ」を刊行
	3.10		第24回卒業生 430 名
	3.31		プール完成
	4.	1	田中不二夫、校長に就任 生徒在籍数 1,233 名
	9.25		整地開始
	12.	7	足立高等学校上沼田分校を設置（のちの東京都立足立西高等学校）
49.	3.	9	第25回卒業生 421 名
	4.	1	生徒在籍数 1,221 名
	12.31		整地終了
50.	3.	8	第26回卒業生 403 名
	4.	1	生徒在籍数 1,227 名
	10.10		第1棟北側の西門（現在の北門）を設置、整地
51.	3.	6	第27回卒業生 407 名
	4.	1	西山喜太郎、校長に就任 生徒在籍数 1,222 名
52.	3.	5	第28回卒業生 406 名
	4.	1	生徒在籍数 1,233 名
53.	3.	4	第29回卒業生 406 名
	4.	1	生徒在籍数 1,233 名
54.	3.	8	第30回卒業生 403 名
	4.	1	古瀬敦、校長に就任 生徒在籍数 1,231 名
55.	3.	7	第31回卒業生 403 名
	4.	1	生徒在籍数 1,240 名
56.	3.	7	第32回卒業生 401 名
	4.	1	東京都就学対策の一環としての臨時学級増対象校に指定され、1学級の臨時増 第1学年が10学級、生徒在籍数 1,273 名
	5.15		第1棟3階の視聴覚室を普通教室に改修、これにともない社会科研究室を改修し、 併せて研究室を増設

昭和 56.10.16		第3棟東側へ1階研究室1及びピロティー、2階視聴覚室増築完成 門表改め校名揮毫書家 中村素堂氏
57. 3. 6		第33回卒業生 407 名
4. 1		紺野嘉夫、校長に就任 生徒在籍数 1,248 名
58. 3. 8		第34回卒業生 427 名
4. 1		生徒在籍数 1,251 名
9. 9		体育館床の改修完成
59. 3. 6		第35回卒業生 440 名
4. 1		臨時学級増対象校に指定され、1学級の臨時増 第1学年が10学級（第2回）、生徒在籍数 1,300 名
60. 3. 6		第36回卒業生 380 名
4. 1		永嶋達夫、校長に就任 生徒在籍数 1,350 名
61. 3. 6		第37回卒業生 425 名
4. 1		生徒定員 1,353 名
62. 3. 6		第38回卒業生 484 名
4. 1		臨時学級増対象校に指定され、1学級の臨時増 第1学年が10学級（第3回）、生徒在籍数 1,346 名
9. 1		第1棟改築完了（社会科教室、図書室、被服・家庭科教室）
63. 3. 7		第39回卒業生 425 名
4. 1		吉田宗茂、校長に就任 生徒在籍数 1,352 名
平成 元 3. 3		格技棟、玄関棟（会議室等）完成
3. 7		第40回卒業生 430 名
4. 1		生徒在籍数 1,347 名
2. 3. 6		第41回卒業生 473 名
4. 1		生徒在籍数 1,271 名
3. 3. 5		第42回卒業生 430 名
4. 1		久野猛、校長に就任 生徒在籍数 1,193 名
5.31		校庭（排水・散水施設を含む）改修工事完了

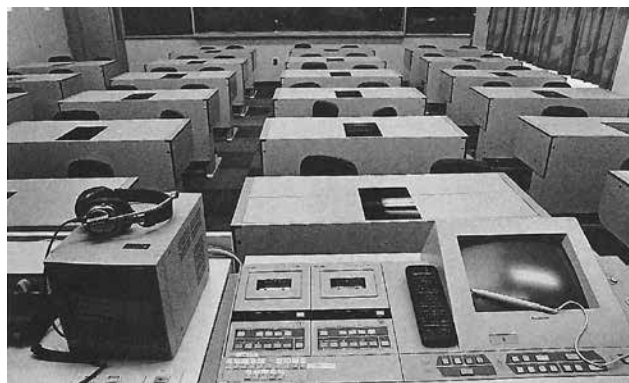


平成3年 新しくなった柔道場とプール

- 平成 4. 3. 6 第43回卒業生 429名
 3.31 第2棟改修工事完成 (LL 教室、パソコン教室)
 4. 1 生徒在籍数 1,107 名
 11. 6 創立 70 周年記念式典・祝賀会を挙
 5. 3. 5 第44回卒業生 397 名
 4. 1 立堀隆三、校長に就任 生徒在籍数 1,031 名
 6. 3. 4 第45回卒業生 343 名
 4. 1 生徒在籍数 989 名
 7.24 体育施設 (グラウンド) の開放事業を本格実施
 8.29 自転車置場の新設 (全体計画の 1 / 3) 工事完了
 12. 3 学校説明会 (第 2 回) 新標準服紹介



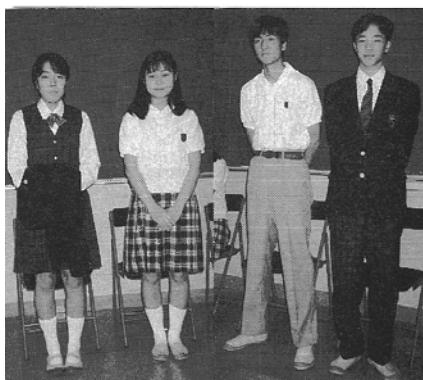
平成 4 年弥生野祭 アーチ



パソコン教室と LL 教室

- 平成 7. 3. 3 第46回卒業生 330 名
 4. 1 生徒在籍数 976 名
 8. 3. 2 第47回卒業生 327 名
 4. 1 高田俊治、校長に就任 生徒在籍数 966 名
 8.28 自転車置場の増設工事完了
 9. 3. 4 第48回卒業生 299 名
 3.31 災害備蓄倉庫 2 棟設置 (食糧、毛布、コンロ等備蓄)
 3.31 格技棟プール改修工事完成 震災対策下水管補強工事完了

平成 9. 4. 1	生徒在籍数 979 名
10. 3. 4	第 49 回卒業生 312 名
3.31	受水槽改修工事完了
4. 1	生徒在籍数 984 名
12.22	テニスコート改修工事完了（オムニコート 2 面）



標準服新デザイン



平成 10 年度 スキー教室

平成 11. 3. 4	第 50 回卒業生 329 名	
3.10	ごみ焼却炉の撤去工事完了	
4. 1	生徒在籍数 959 名	
12. 3. 3	第 51 回卒業生 311 名	
4. 1	和田強、校長に就任	生徒在籍数 952 名
13. 3. 3	第 52 回卒業生 315 名	
4. 1	生徒在籍数 949 名	
8.31	第 2 棟耐震工事完了	
14. 3. 2	第 53 回卒業生 307 名	
4. 1	生徒在籍数 940 名	
10.17	第 3 棟耐震工事完了	
11.19	創立 80 周年記念式典・祝賀会を挙行	
15. 3.11	第 54 回卒業生 300 名	
4. 1	生徒在籍数 945 名	



平成 13 年度 修学旅行



平成 14 年 吹奏楽部 東日本大会ヤマハ賞受賞



平成 14 年 体育祭



平成 14 年 弥生野祭
甘味処おでんと白玉

平成 14 年 弥生野祭

平成 16.	3. 12	第 55 回卒業生 302 名	
	4. 1	生徒在籍数 932 名	
17.	3. 11	第 56 回卒業生 292 名	
	4. 1	水谷禎憲、校長に就任	生徒在籍数 905 名
18.	3. 10	第 57 回卒業生 301 名	
	4. 1	薄井和久、校長に就任	生徒在籍数 862 名
19.	3. 8	第 58 回卒業生 301 名	
	4. 1	生徒在籍数 804 名	
20.	3. 7	第 59 回卒業生 257 名	
	4. 1	生徒在籍数 774 名	
21.	3. 12	第 60 回卒業生 232 名	
	4. 1	酒井千春、校長に就任	生徒在籍数 806 名
22.	3. 12	第 61 回卒業生 248 名	
	4. 1	総学級数 22 (1 学年 8、2 学年 7、3 学年 7)	生徒在籍数 857 名
23.	3. 11	第 62 回卒業生 264 名	
	4. 1	総学級数 22 (1 学年 7、2 学年 8、3 学年 7)	生徒在籍数 860 名



平成 17 年 修学旅行



平成 20 年導入の制服（平成 18 年リニューアルの標準服）



職員室の風景

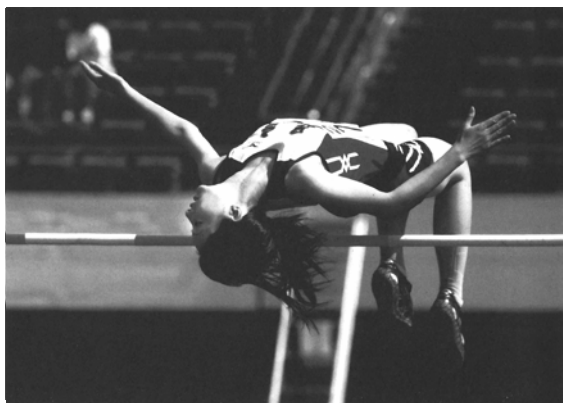


シャッターアート制作風景



完成したマルチビジョンのシャッターアート
「ミリーズストーリー」（平成 20 年 6 月）

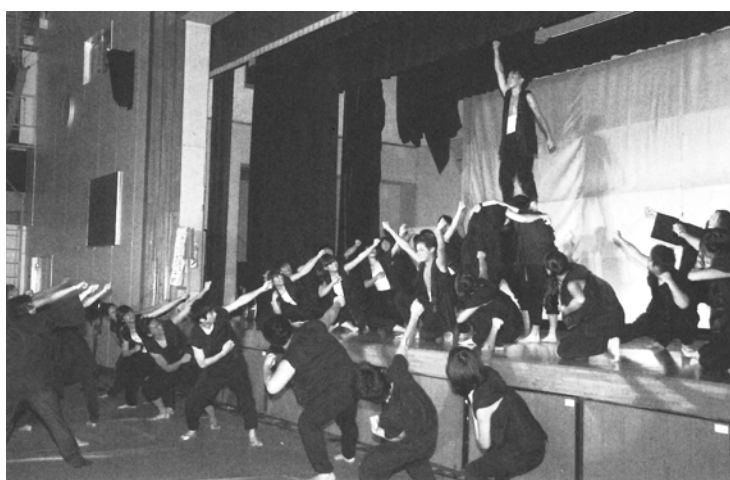
平成 24.	3. 13	第 63 回卒業生 264 名
	4. 1	大窪伸幸、校長に就任
		総級数 22（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 8）生徒在籍数 866 名
25.	3. 13	第 64 回卒業生 309 名
	4. 1	総学級数 21（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7）生徒在籍数 819 名
	4. 1	本校舎大規模改修工事の為、仮設校舎へ移動
	11. 29	創立 90 周年記念式典・祝賀会を挙行



平成 22 年 陸上部 櫻井紗里さん
沖縄インターハイ、千葉国体出場



平成 23 年 演劇部



平成 24 年 弥生野祭



創立 90 周年の横断幕

平成 26.	3. 12	第 65 回卒業生 309 名
	4. 1	総学級数 21 (1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7) 生徒在籍数 809 名
	11. 19	改修工事終了 校舎引き渡し
27.	1. 8	新校舎での授業開始
	3. 13	第 66 回卒業生 264 名
	4. 1	井上隆、校長就任
		総学級数 21 (1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7) 生徒在籍数 801 名
28.	3. 13	第 67 回卒業生 257 名
	4. 1	総学級数 22 (1 学年 8、2 学年 7、3 学年 7) 生徒在籍数 849 名
	9. 1	グラウンド改修工事終了
29.	1. 5	特別教室空調工事終了
	3. 9	第 68 回卒業生 261 名
	4. 1	総学級数 23 (1 学年 8、2 学年 8、3 学年 7) 生徒在籍数 897 名
30.	3. 8	第 69 回卒業生 266 名
	4. 1	浅見浩一郎、校長に就任
		総学級数 23 (1 学年 7、2 学年 8、3 学年 8) 生徒在籍数 900 名

平成 31.	3.	8	第 70 回卒業生 307 名
	4.	1	総学級数 22（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 8）生徒在籍数 863 名
	4.	30	平成時代の終焉（平成 31 年は 1 月 1 日～4 月 30 日の 120 日間）
令和 元	5.	1	令和時代の開始（令和元年は 5 月 1 日～12 月 31 日の 245 日間）
	7.	26	体育館空調工事終了
2.	1.	18	最後の大学入試センター試験、令和 3 年より大学入学共通テスト実施
	2.	27	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内閣総理大臣より休校要請
	3.	8	第 71 回卒業生 307 名
	4.	1	総学級数 21（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7）生徒在籍数 820 名
	4.	7	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内閣総理大臣より緊急事態宣言発令
3.	3.	8	第 72 回卒業生 268 名
	4.	1	総学級数 21（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7）生徒在籍数 822 名
4.	3.	8	第 73 回卒業生 270 名
	4.	1	鈴木康司、校長に就任
			総学級数 21（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7）生徒在籍数 820 名
5.	3.	7	第 74 回卒業生 262 名
	4.	1	総学級数 21（1 学年 7、2 学年 7、3 学年 7）生徒在籍数 826 名



令和 5 年 五反野駅付近の様子

母校 100 年の礎 (いしずえ)

鉄道写真家 廣瀬 均 (昭和 43 年卒 19 期)

まえおき

足立高校は今年創立 100 年を迎えた。前身の千住町立女子実業補習学校が大正 12 年 7 月に創立されてから 100 年となる。だが、この千住町立女子実業補習学校は母体である千住町立実業補習学校 (以後、千住実業補習学校と表記) から分離独立して創設されたことから、千住実業補習学校の歴史も母校の歴史となる。この前史を含めれば 112 年になる。さらに千住実業補習学校は明治 39 年開講の千住町教育会の補習夜学校を引き継いでいるので、源流を辿れば 117 年ということにもなる。そして千住町立女子実業補習学校は、実科女学校、高等家政女学校、高等女学校などを経て、都立足立高校へと変遷してきた。足立高校 117 年の歴史を、前史を含めた草創当時の教育事情などを探りながら辿ってみたい。

各町村の教育会 (千住町教育会 他)

東京府南足立郡 (現在の足立区のエリア) では明治の後半になって、各町村に教育会設置の動きがあり、明治 35 年から 38 年にかけて相次いで教育会が設置された。教育会の役員は小学校の校長や町長、府議会議員、事業家などの名士である。教育会事業の主なものは講話会開催などの社会教育、教育思想の喚起、小学校教育・補習教育の援助、尋常小学校を卒業した少年少女たちへの青年補習夜学校の講習会など幅広い。特に補習夜学校においてはそれぞれ各町村の少年少女たちの教育に貢献し、その後に設置された実業補習学校へ移管されていった。

「足立区教育百年のあゆみ」に次のような記載がある。

町村教育会は、従来の校長、教員のみを会員としていた学事・批評会等の教育諸団体とは性格を異にする。地域の有力者が役員となり、会の目的に協賛した者を会員としている。事業の主体は通俗社会教育、青年補習夜学校及び学校教育の援助等であった。

次に、大正 15 年「南足立郡誌」から一町九ヶ村の各教育会の様相を引用する。なお、「同郡誌」は『大正 11 年若シクハ大正 12 年ノ郡勢ニ付調査セリ』と付記されている。

千住町教育会

本会は本町〔千住町〕教育の普及上進を図るの目的を以て明治 38 年に創立せらる。爾来教育講話会、補習夜学校を開催して漸次事業の発展を図れり。殊に補習夜学校の如きは毎年百名以上の生徒を訓育し、其成績頗る見るべきものありしが、明治 44 年之を町の経営に委し、本会は専ら社会的方面に力を致し、風紀の改善常識の啓発に資せんが為、年々数回の講話会を開催し、町民指導上裨益すること極めて大なり。

現会長堀内亮一氏に至り、社会進展の基礎たる家庭改善の必要上、女子教育の急務なることを思い夙に中等程度の女学校及び幼稚園の創立を計画し、苦心焦慮慈に数歳、今や本町民は勿論郡内各村民多数有志の認識する所となり、建築資金二万円の寄贈を得、千住二丁目に地をトして一校舎を建築し、本年 6 月 5 日を以て幼稚園を開始し、女学校は文部省に対して認可申請中なり〔注・現潤徳学園〕。(〔 〕内は筆者付記)

以下、西新井村、江北村、舎人村、梅島村、綾瀬村、東淵江村、花畑村、淵江村、伊興村の各教育会の状況についての記載あり〔略載〕。

これらの教育会の夜学校がそれぞれ実業補習学校へとつながっていくことになる。

足立高校の源流である「千住町教育会」の補習夜学校は、千住町が明治 44 年 4 月 27 日に千寿尋常高等小学校内に設置した「千住実業補習学校」に移管されて、同 5 月 10 日に開校した。

補習夜学校を千住実業補習学校に移管した千住町教育会は、その後社会的教育事業を継続して、大正 13 年には潤徳高等女学校に生まれ変わることになる。

実業補習学校

次に「実業補習学校」について触れてみたい。

実業補習学校は、明治 26 年に国が実業補習学校規定を制定して全国的に進めていた学校であり、同規定によれば、尋常小学校を卒業して職に就いていた青少年少女を対象に就業支援の補習講習を実施することを目的としていた。

全国の町村単位で設置された実業補習学校ではあったが、規定が施行された当初はさほど設置が進んだ訳ではなかった。明治後期に入ると徐々に増え、大正 9 年に規定が改定されてから急激に増加し、全国でも多数の実業補習学校が設置されるようになった。南足立郡（現在の足立区のエリア）でも、各町村に実業補習学校が相次いで設置され、明治 44 年から大正 11 年にかけて 11 校が設置された。

11 校の実業補習学校は次の通りである。

千住実業補習学校（明治 44 年 4 月設置 昼間部 1 ヶ年・夜間部 4 ヶ月 「大正 5 年版 南足立郡誌」による）と、花畑実業補習学校、江北実業補習学校、本木実業補習学校、伊興実業補習学校、西新井実業補習学校、梅島実業補習学校、淵江実業補習学校、綾瀬実業補習学校、東淵江実業補習学校、舎人実業補習学校（10 校各校 夜間部 4 ヶ月）の 11 校である。

※寄しくも、令和 5 年の足立区内には公私立の高校が 11 校存在する。

千住実業補習学校（千住町立実業補習学校）

千住町が千住町教育会から補習夜学校を引き継いでから 10 数年後の大正 12 年頃の千住実業補習学校は甲部と乙部の 2 部制であった。甲部は夜間講習の男女部門（9 月～12 月の 4 ヶ月）、乙部は昼間講習の女子部門（2 年間の通年制）である。甲部が商業科、乙部が家政科である。千住町は商業の町であり、商業科では商業関係の知識習得を中心に、修身、地理、読書、算術といった内容の教育がなされた。家政科では裁縫、料理を中心に修身などの教育がなされた。



大正 14 年頃の千寿尋常高等学校
「足立区 40 年のあゆみ」より

実業補習学校規定には教育内容が記載されているが、商業科は夜間 2 時間の年間数ヶ月の教育内容であり、どれほどの成果が得られたであろうか。家政科は昼間の通年 2 年制ということでもあり、商業科に比べれば恵まれてはいたと思われるが、設備や教師等の面で思うような教育が実現できていなかったようである。

※千住実業補習学校は大正 8 年 8 月 31 日に千寿第二尋常小学校に一時移転している。千寿尋常高等学校に戻ったのは、乙部を独立させた大正 12 年 7 月 9 日である。

当時の情景として、「日光街道千住宿民俗誌（宿場町の近代生活）」の「大正時代の学校生活」に次のような記載がある（一部抜粋）。

高等学校を出ると女の子は補習科へもいった。補習科は千寿小学校にあって、2 年ほど通う。1 人の先生が教えていた。お裁縫・お花・お茶が主で、修身のような教養を習ったりする。ふだんは束髪におたいこを締めていていた。お姉さんのような人がいるなどという印象だった。正月には日本髪を結っているようだった。補習科は大正 12 年の大震災のときに現在の潤徳学園の所に移転して実業女学校になった。町立だったらいい。その後橋向こうに移り、現在の都立足立高校となった。

また、千住町には公立の実業補習学校の他に私立の実業補習学校、千住愛育院商業補習学校も存在した。同校は夜間の保育所を利用し、近所の青年たちを集めて珠算や帳簿のつけ方を教えていたようである。小学校教育さえ満足に受けられなかった者に読み書きの基本や珠算などを教えるものであったようだ。授業料は徴収せず、学用品も一部貸与するという個人の慈善事業であった。（「足立・女の歴史 葦笛のうた」より）

千住町以外の農村地域の実業補習学校

千住町以外の農村地域の実業補習学校は、農業の科目を中心に、修身、地理、読書、算術といった内容

の教育がなされた。尋常小学校の卒業者が対象であるので、現在の中学校での授業内容に近いのではないと思われる。但し、農閑期の夜間4ヶ月の授業であり、対象は男子生徒である。

各実業補習学校（千住、淵江、西新井、綾瀬、他）は、その後、千住実業補習学校から分かれた「千住町立女子実業補習学校」を除いて消滅していった。存廃の大きな要因は、千住実業（商業）補習学校と同じように、青年訓練所と統合されて青年学校となったことである。青年学校は戦後廃止され、消滅した。

女子実業補習学校 分離独立の経緯（潤徳高等女学校との関係）

千住実業補習学校の乙部が分離独立して、大正12年7月9日に「千住町立女子実業補習学校」が設置創設された。組織としての母校足立高校の誕生である。

実業補習学校は就業している男女を教育する機関であるが、通年制の女子部門（乙部）は昼間の授業であり、生徒が就業していたとは思えない。甲部（夜間の男女部門）の商業科、乙部の家政科という2種類の部門の違いが乙部を独立させる契機となったのではないと思われる。通年制の女子昼間部門を、設立予定の潤徳高等女学校校舎に併設させることで、より充実した女子教育に資するという目的があったものと思われる。この背景には後述するように、千寿尋常高等小学校校長であった小林条三郎氏と潤徳高等女学校を創設した堀内亮一氏の女子教育に対する情熱や思考を感じることができる。また蛇足ではあるが、世間では乙部は独立以前から「女子実業補習学校」という表現が使われていたようである。

千住実業補習学校から分離独立を図った際の東京府知事宛ての設置認可申請書に添付した学則には、その経緯と教育内容が記されている。当時の教育事情が想像できるのでないだろうか。下記参照。

東京府知事宛てに設置認可申請を行なった際の学則 [抜粋、一部編集]

大正12年6月25日

学 則

第1条 本校ハ普通教育ノ徹底ヲ図リ兼テ家庭ノ主婦タルニ必須ナル智徳技能ヲ授クルヲ以テ目的トス

第2条 本校ノ修業年限ハ本科3年研究科1年トシ別ニ選科ヲ置ク

第3条 (略)

第4条 本校ノ各学科課程及毎週教授時数

本科

科 目	時数	一学年	時数	二学年	時数	三学年
修 身	1	作法、国民道德大要	1	同左	1	同左
国 語	読 方	3 普通講読	3	同左	3	同左
	綴 方	1 普通文綴方	1	同左	1	同左
	書 方	2 普通文字、細字	2	同左	2	同左
算 術	筆 算 珠 算	3 四則、諸等数、加減	3	小数、分数、加減、 乗除	3	比例、歩合算、利息 算、加減、乗除
理 科	2	理科大要及家事、育児、看護、衣食住、 家計等二閑スル一般事項	1	同左	1	同左
裁 縫	14	普通衣服裁方	13	同、ミシン使用法	13	同左
手 芸	2	普通袋物	2	同左	2	同左
割 烹			3	普通料理	3	同左

茶湯生花ハ随意科トシテ時間外ニ授ク

研究科

科 目	時数	要 項
裁 縫	20	衣服ノ裁方、簡單ナル小児服ノ裁方・縫方・繕方
割 烹	8	普通料理

第5条 学年ハ4月1日ニ始マリ翌年3月31日ニ終ル

第6条 学期ヲ下ノ如ク分ツ

- 第1学期 自4月1日 至8月31日
第2学期 自9月1日 至12月31日
第3学期 自1月1日 至3月31日
第7条 休業日ヲ定ムルコト下ノ如シ
日曜日 大祭祝日 鎮守祭 地久節 夏季休業 自7月25日 至8月31日
冬季休業 自12月25日 至1月8日 学年末休業 自3月28日 至4月3日
第8条 以下 (略)

なお、設立「分離独立」理由として次のように記されている。

- 1、千住町ハ従来実業補習学校乙部トシテ女子の補習教育機関アリシガ、今般学則ヲ変更シテ之ヲ廃シ、新ニ独立シタル女子実業補習学校ヲ設立セントスルモノナリ。従来同町ハ女子教育ノ施設備ラズ、僅ニ付近ニ散在セル旧式ナル裁縫教師ニツキテ芸ヲ修得スルニ過ギザリシガ故ニ、今女子部ヲ独立セシメテ、設備、学習上ノ遺憾ナキヲ期スルハ最モ時宜ニ適セルモノト云フベシ。而テ其内容ニ至リテハ、新実業補習学校規程ニ準拠スルモノニシテ別ニ支障ヲ認メズ。
- 2、校舎ハ潤徳女学校ノ一部ヲ借用スルモノナルモ、特別室ハ時間ヲ配合シ共用スルヲ以テ学習上支障ヲ生ゼズ。只三年後ニ至リ同校完成ニ至ラバ狹隘ヲ訴フベキモ、現存幼稚園ヲ独立セシメ且改増築ヲ行ヒ以テ救フベキガ故ニ別ニ差支ナカルベキカ。（「足立区教育百年のあゆみ」より）

また、「千住総覧（上）」（昭和6年10月 むさし新聞社刊）には、千住町教育会会長堀内亮一氏が、千住実業補習学校での女子教育の内容を高めることで社会が要求する婦人教育ができるのではないかと確信して潤徳高等女学校設立を決意したと記されている。

上記の千住実業補習学校乙部独立の申請理由には、この潤徳女学校内へ移転することが記されている訳であるが、奇しくもこの潤徳女学校の設立の契機となったのが千住実業補習学校乙部でのことであり、両校が相身互いの関係であったことが理解できる。

以下、「千住総覧（上）」本文の抜粋である。

當校「潤徳高等女学校」は大正13年2月文部大臣の認可を得て同13年4月に開校したるも其濫觴は遙に遠き昔にあり、即現千住町教育會々長堀内亮一氏は夙に社會風教の頹廢を憂ひ先ず之が一般家庭の改善にありとして特に女子教育の振興に努力せらるゝ事多年に亘れり、今を去る卅年前氏は其宿志を實現せんが爲に千住町舊掃部宿「松うなぎ」の舊地を借入れ此所に裁縫女學校及び幼稚園を作りて子女の教養をはかり兼て「母の會」を起して一般家庭の改善を促さんとせり、然るに當時此の計劃に賛同するもの極めて少なく折角の苦心も遂に其の成立を見るに至らざりき、其の頃千壽尋常高等小学校内に女子實業補習學校「千住実業補習學校乙部」なるもの有り、こは小學校に併設せられたる裁縫、料理専修程度のものなりき、大正8年小林桑三郎氏同校長に任せられし以來校則を改正して校運の發展を圖りつゝありしに一日某生徒より各自が其の晝食に充つべく料理の實習を願ひ出たるに依り氏は森戸訓導に諮りて之が指導に當らしめしに其成績見るべきものありたり、或は之が試食を町内有志に求めたるに堀内會長深く之が成績を賞し本校をして今少しく程度を高めたらんには必らず、社會の要求に適合する婦人を教養し得るならんと確信せられたり依て氏は案を具えて「潤徳女学校設立を」千住町教育會の議に附したるに幸に満場一致の賛成を得たるに依り愈ゝ本會の事業として其實行に着手する事となり、……（以下略）（〔 〕内は筆者付記）

（「千住総覧（上）」（昭和6年10月 むさし新聞社刊）より）

このようにして、母校の前身である「千住町立女子実業補習学校（以後、千住女子実業補習学校と表記）」が創立された。

乙部（家政科）が「千住女子実業補習学校」として大正12年7月9日に「千住実業補習学校」から分離独立したことで、「千住実業補習学校」と「千住女子実業補習学校」はその後並存していく。しかし、甲部（夜間・4ヶ月間の男女部）だけとなった千住実業補習学校はその後、大正14年4月1日に千住商業補習学校となり、さらに大正15年7月1日に千壽尋常高等小学校に設置された青年訓練所と昭和10年4月に統合されて青年学校となり、終戦後の昭和22年の新学制施行により廃止となった。

一方、分離独立した「千住女子実業補習学校（都立足立高校の前身）」は、組織・名称を変えて、また校舎・校地を転々として、現在地に広大な校地を構え現在に至っている。

右の卒業写真の「大正 13 年 3 月の卒業生」は、乙部が千住実業補習学校から分離独立したことにより、入学が千住実業補習学校、卒業が千住女子実業補習学校となった。そして入学した場所は千寿第二尋常小学校、卒業した場所は開校目の潤徳高等女学校である（千住実業補習学校は大正 8 年 8 月 31 日に千寿第二尋常小学校内に移転。同 12 年 7 月 9 日に千寿尋常高等小学校内に戻った）。彼女たちはこれらの 5 校をつないだ稀有な存在である。



大正 13 年 3 月 卒業生 後列中央が小林桑三郎校長
(図書室資料より)

※千住は江戸時代の中頃から家塾（寺子屋）が数多くあり、教育熱心な土地柄だった。特に家塾に通う商家の子女が多かったようで、娘にはきちんとした教育をして店を継がせるという目的があったようだ。明治くらいまでは、浅草や千住南組〔南千住〕の本店の子女が駕籠や人力車に乗って千住の家塾に通っていたと言われている。明治初年頃は家塾が 10 ヶ所、生徒が 630 人ほどいたという。（「千住宿歴史ウォークガイドブック」（千住文化普及会）より）
（〔 〕内は筆者付記）

千住が女子教育に熱心な土地柄だったことから、その後の女子教育につながっていったようだ。千住女子実業補習学校があちこち転々としながらも存続し続けた理由の一つとして、このような歴史的背景があったのではないかと思われる。

小林桑三郎という人物

ここで小林桑三郎氏について触れてみたい。

小林桑三郎氏は大分県出身、千寿尋常高等小学校の元校長で、潤徳高等女学校の初代幹事である。

大正 8 年、小林桑三郎氏が千寿尋常高等小学校の校長になり、千住実業補習学校の校長を兼務。その後、大正 12 年 3 月末に千寿尋常高等小学校の校長を退任し、兼務していた千住実業補習学校の校長も退任することになった。氏は大正 13 年 4 月に開校した潤徳高等女学校の設立に関わり、また初代幹事に就き、以後責任ある立場で同女学校を導いていくことになる。

さらに、潤徳女学校の幹事を務めながら千住女子実業補習学校の校長も兼務することになる。大正 8 年から大正 12 年の千住実業補習学校、昭和 7 年から昭和 17 年 3 月まで、千住女子実業補習学校等の前史を含めての計 14 年あまりの間、母校の前身は小林桑三郎氏の指導を受けることになる。小林桑三郎氏は母校にとって大きな功績のあった人物と言える。

小林桑三郎氏については、昭和 6 年 10 月の「千住総覧（下）」（むさし新聞社刊）に次のように記されている。

氏は明治 2 年、大分懸仲澤町の士族小林家に人となれり、長ずるに及びて島田重禮氏の門に入り漢學を修業すること久しく、後古川四氏の物理學校に入り、數學を習め傍ら橋本好友氏及サンマーセームス氏に就き英學を専攻、大渡忠太郎氏、服部廣太郎氏、牧野富太郎氏に就き動植物學修業、其の他教育倫理、國語、地理、歴史、理科、手工、音樂、体操に關する講習を受くる事、實に二十有余回に及ぶを見て如何に氏の向學の念の強きかを窺ひ知る事が出来る。氏は明治卅一年十月西新井本木學校訓導を振り出しに千壽尋高訓導、千壽第二校長、千壽尋高校長、千住女子實業補習學校長等を歴任され、現在潤徳女學校幹事として努力せられつ々あり。氏は資性豪放磊落にして小事に拘泥せず常に滑稽洒脱を以て、洪笑其の巨軀を揺るがす、一面嚴格にして、多面亦洒落を解す。氏こそ實に清濁併せ飲むの大人と謂はん。

潤徳女学校での間借り時代（間借りではあったが安定した 19 年間でもあった）

大正 12 年 7 月 9 日に千住実業補習学校から独立した「千住女子実業補習学校」は、同年 9 月 1 日に千住町の勝専寺内の潤徳高等女学校の建物に於いて開校する予定で準備を進めていた。8 月には設備の什器備品を搬送して 9 月 1 日の開校を予定していたと思われるが、折しも当日正午近くに関東大地震が発生して開校は延期され、実際の開校は 10 月 8 日となった（「足立区教育百年のあゆみ」による）。

潤徳女学校の校舎は、南足立郡役所（千住一丁目の足立区役所旧庁舎の場所に所在）の建物（木造洋風 2 階建て）の崩下を受け勝専寺内の借地に移築したものであるが、大地震の被害は少なかったようであ

る（潤徳学園誌による）。それにより1ヶ月遅れの10月8日に開校できたと思われる。

また、同校舎にはすでに7月9日に千住町教育会が設置した千寿幼稚園が開園していた。

翌大正13年4月には潤徳高等女学校が開校した。その結果、同校舎には千寿幼稚園、潤徳高等女学校、千住女子実業補習学校の2校1園が同居することになった。

千住実業補習学校から独立した足立高校の前身・千住女子実業補習学校はこの潤徳高等女学校が建設した校舎に19年間も間借りを続けた。その間、潤徳高等女学校の幹事である小林桑三郎氏は千住女子実業補習学校の校長を兼務（昭和10年10月～同17年3月）、朝礼も両校一緒に行なっている。

以後、同一校舎において二つの女子教育の組織が並存するという、それも公立と私立が並存するという異例なことが19年間も続く訳であるが、ルーツを同じくする潤徳高等女学校的女子教育と千住女子実業補習学校的女子教育は同じ女子教育とはいいいながらも目指すものは異なっていた。

「足立・女の歴史 箏笛のうた」(足立女性史研究会著)には次のような記述がある。

潤徳高等女学校と千住女子実業補習学校とは、ときを同じくしてスタートし、同じ屋根の下で各種の学校行事を合同に行ないながらも、かなり性格を異にしていたといえよう。しかし、どちらの生徒も南足立郡全体からみれば、少数派に属する余裕のある家庭の子女たちであった点は忘れてはならないだろう。

昭和7年10月1日 千住町・梅島町・西新井町・綾瀬村・他の南足立郡の10町村が統合されて東京市足立区が発足し、千住町立の「女子実業補習学校」は「足立区(立)千住女子実業補習学校」となった。その3年後の昭和10年9月30日、文部省の学制改革により実業補習学校規定が廃止になったことから東京市立足立実科女学校となり、運営が足立区から東京市に移った。

その後の間借り時代（転々とし、大戦もあり、不安定な時代であった）

東京市立足立実科女学校となった母校は昭和17年4月1日に甲種学校へと昇格して東京市立足立高等家政女学校へと改称し、その25日後の4月25日に潤徳高等女学校の校舎から第一高等国民学校（その後の足立区立第三中学校）へ移った。潤徳女学校の生徒数の増加により教室が確保できなくなったためである。

だが、2年後の昭和19年12月には、足立市場付近にあった建物（のちの公共職業安定所の建物）に移ることになった。足立高校のPTA通信に当時家庭科の担任だった大坂美佐子先生の記述がある。



昭和9年 潤徳女学校の朝礼 手前の和服姿の生徒が千住女子実業補習学校生（潤徳学園資料より）



昭和13年3月 専攻科卒業生 前列中央が小林桑三郎校長（図書室資料より） 服装が和服から洋服に変わっている。背後の建物は潤徳高等女学校の校舎である。



昭和17年頃の校舎（潤徳高等女学校内）（図書室資料より）



昭和17.4.1. 勝専寺南門（潤徳・足立 両校の校名表札）（図書室資料より）



昭和20年頃 千住橋戸町の校舎
(のちの職安) (『50年のあゆみ』より)

昭和19年の末、今の職安に引っ越しました。机と椅子を一組にして持ち、1人2回、学校から日光街道に出て大橋の手前の学校まで、重労働でした。私もリヤカーいっぱい荷物をのせて何度往復したことか。その建物は学校の間借りではない初めての独立した校舎ではあったが、とても校舎と呼べるものではなく大きな物置のようなもので、事務室をベニヤ板で仕切った教室4部屋と職員室といった隙間だらけのお粗末なものであった。家政女学校と言ってもミシン数台と裁ち台がいくつかあるだけで、調理器具は普通の家庭ぐらいのものしかなく、食料もなかったので調理実習はできなかった。大きな声を出すと、隣の教室に筒抜けだったと思います。私達学校に残留している教師は学校を空襲から守るために一日交替で宿直をしました。

(昭和56.11.1.PTA 通信、及び平成元2.25.PTA 通信)

そして終戦を迎えてから、昭和21年2月に荒川放水路〔現在の荒川〕を越えて足立第二高等国民学校(のちの足立区立第四中学校)へと再び移転した。また学校の間借りに逆戻りとなった。当時生徒だった旧制・昭和23年卒業の団之原暎子さんの記事が「同窓会広報誌さやか野10号(平成18年9月刊)」に次のように掲載されている。



昭和29年頃の公共職業安定所 (千住橋戸町47)
(足立写真名鑑1954より)

今度の移転は大変です。橋戸町から千住新橋を渡って、東武線の線路を越えるのです。当時の生徒は近在の子女が多かったので、リヤカーや荷車を持ち寄り、机や椅子、書類など全てを持ち歩いて運びました。

このように、他校の校舎等を5回も転々として、現在の校地校舎は6ヶ所目(千寿尋常高等小学校、潤徳高等女学校、足立区立第三中学校、のちの公共職業安定所の建物、足立区立第四中学校、現在地)となる。

戦時下の母校・勤労動員

ここで戦時下の状況に触れてみたい。昭和10年4月、青年教育令が制定されて実業補習学校と青年訓練所が青年学校として統合され、義務教育とされた。のちに千寿尋常高等小学校内に設置された青年訓練所と千住商業補習学校は統合されて青年学校となった。昭和16年12月6日の太平洋戦争開戦以後、男性は兵隊にとられ、女性が工業生産等に駆り出されるようになった。千住橋戸町の校舎に移転する頃から、次第に戦局が陰しくなっていき、その影響は母校の先生や生徒たちにも否応なしに及んできた。勤労動員が強化され、教育の場は軍需工場と化していった。

以下、「足立・女の歴史 箏笛のうた」(足立女性史研究会著)から引用。

昭和16年に〔実科女学校に〕入学した飯田一枝さんは、「4年になると全員(約60名)で日本ベークライトの工場へいき、教科書は揃えたが授業はなかった」という。「幅50cmくらいのベニヤ板を裁断し、2〜3cmの厚さにベークライトを接着する作業で、今なら金属でつくるだろうが、そんなものでプロペラをつくっていた」。この動員は昭和20年3月の東京大空襲まで続いた。3月の卒業式の最中に警戒警報が鳴り、家に帰されてしまった。当日出席できなかった人も多く、その人たちは未だに卒業証書をもっていない。

昭和18年に入学した団之原暎子さんは、五反野の自宅から、当時学校のあった橋戸町まで徒歩で通ったが、途中空襲にあい、防空壕にこもり込んだことが何回もあったという。「3年生になって、日本ベークライトの工場が疎開したさきの長野にいいよ勤労動員されることになって、荷物を送ろうとしたとき、敗戦になった」。入学当初から間借り状態が続いた女学校生活をふりかえって、「一度も自分の学校で勉強できなかったのが残念だ」と彼女は語る。

当時家庭科教員だった大坂美佐子先生は、「先生が少なくなり数学や生物まで教え、今考えると恥ずかしい。それでも3、4年生が勤労動員されて、残った1、2年生と畑をつくったりして学校を守ることが精一杯だった」と当時をふりかえる。家政学校では、長野に工場疎開した4年生の後に続いて、全校が疎開をする準備をしている最中に8月15日を迎えた。

自分たちの校舎（終の棲家を得て、本来の足立高校が芽生えた） 《ようやく自校の校舎へ》

終戦となって2年後の昭和22年4月19日、東京都立第一中学校（現・日比谷高校）の教頭から母校（当時都立足立高等女学校・第二高等国民学校（現・足立区立第四中学校）に間借り）の校長として赴任してきた今野（こんの）善胤校長が、東京都立第一中学校との教育環境の雲泥の差に驚愕して、自前の校地・校舎を得るため間髪を入れずに奔走する。



昭和22年頃 足立四中に間借りしていた頃の
校内風景（「PTA30年のあゆみ」より）



昭和23年頃 教職員（足立四中に間借りの頃）
前列中央が今野善胤校長
2期生小林慶子(旧姓小松崎)氏より

以下は、「PTA30年のあゆみ」に掲載された昭和56年8月25日開催座談会の今野校長の発言（抜粋・一部編集）である。

赴任してはみたものの、実に驚いた。足立四中に間借りしている高等女学校で校舎がない。8教室借りて、隅っこで小さくならないといけない。実際のところ、すぐに都の教育局にねじ込みに行こうとさえ思った。これは、もう、すぐに校舎の建築をやらなくてはならない。それをやるには土地を確保しなければならないと考えた。頭を悩ました結果、足立区に設立するんだから足立区役所に全面的に協力してもらわなくては行かん。まず戦術的に足立区出身の都議会議員に協力していただくよう計画。赴任後、直ちに区役所に挨拶し、それから地元の有力者、農地委員会の委員長に挨拶、説得にかかった。その結果、敷地確保、校舎建築には区役所をはじめ、都議会議員の方たちも応援してくれることになった。

都の予算は11月ごろ成立していたので切羽詰った状況だった。区長さんはじめ父兄の方にもご同行願ってひたすら懇願した。敷地を確保するのも大変だった。中央本町〔当時の町名は千住弥生町〕に行ってみると、回りには池があつてじめじめして草ぼうぼうで失望したが、盛土可能な土地を含め541坪ほど借地した。それから第2次計画として敷地を買収、拡張することにし、父兄会を開いて、借地を買収するための寄付金をお願いし、出していただくことになった。

ともかくこうして買収費をつくり、都の方へおさめた。そんな誠意が認められ、22年度予算で着工するという段取りが実現した。これはPTAを中心として、区役所なり、都議会議員各位の熱意がいかにすさまじかったか、という結果の実りであった。埋立て工事予算がないから、土もただで持ってこなくてはならない。戦災後の浅草千束に、道路にまだ土が盛り上がっている所があり、これを持ってこることになった。これだとトラックの費用だけでいい。こうして400坪の土地の埋立てが完了した。その後、いよいよ校舎建築となったが、都庁の教育局、建設局にお百度参りよろしく顔を出し、財務部施設課から工事費として250万円が支出されることになった。そして昭和23年3月、第一校舎の建築に着手し、小さいながらも木造校舎ができた。校舎建築には起工式、上棟式、竣工式がつきもの、そのたびに費用の面でみんなご父兄にお世話になった。当時のご父兄には頭が下がる。私の在任中、千住弥生町に、借地ながら2,900坪の校地を確保し、23年3月には、うち1,904坪を買収した。そうして24年6月に長坂勝一先生〔後任の校長〕にバトンタッチした。〔一部略載〕

（〔 〕内は筆者付記）



足立区立第四中学校（昭和24年当時）
同校創立50周年記念誌より

こうして、それまで転々と間借りを繰り返してきた本校は、ようやく千住弥生町（現在の中央本町一丁目）に自前の校地校舎を持つことになった。

※公式には昭和24年3月5日に現在地へ移転したことになるが、校舎完成が待ちきれずに引っ越し準備を進めて、内緒で机や椅子などを新校舎（新校地）に運び入れてしまったとの証言がある（これを裏付けるように、「足立四中創立50周年記念誌」には2月26日に移転したとの記載がある）。

校地拡張

その後、今野善胤校長の後任として赴任された長坂勝一校長は、昭和 24 年 6 月の赴任の日が大洪水だったことを機に、さらに本格的な校地拡張に動き始める。1 万坪への校地拡張は、長坂校長の「生徒に野球、サッカーをやらせたい」という思いから始まっている。

以下、上述の「PTA30 年のあゆみ」に掲載された座談会での出席者の発言を抜粋する。



初めての自校校舎 昭和 26 年 3 月 2 期生の卒業アルバムから

松岡節郎先生

私は当時校務主任〔現在の教頭〕でした。校舎ができたものの、都の方から移転の許可がなかなか出なかった。とにかく早く四中から引っ越したかったし、卒業生を自分達の校舎から卒業させてやりたかった。そこで、〔今野〕校長先生には叱られる思いながらも隠れて準備をし、許可がないままに、生徒達に机なんかを四中から運ばせてしまった。まだ玄関の戸やまわりの建具さえも整っていなかった。しかし、とにかくこういう状態ながら 24 年 3 月、今野先生たちが建てた校舎の中で卒業式ができた。けれど校地が狭く、生徒が運動する場所もなかった。これも余談ですが、(24 年 6 月に) 長坂校長が赴任してきた日が大洪水で、まわりは水がいっぱいであんなに学校に入れなかった。やっと校長先生が部屋に入られたと思ったら、開口一番、「こりゃー松岡さん、やっぱり土地を買収しなくてはダメだな。グラウンドにしても野球もできないではないか。」とこの時点から、本格的な土地買収という問題が動き出したと記憶しています。まず志村さんに相談し、まわりの地主さんに学校に集まってもらい、寿司を出し、酒を出してひたすら協力をお願いした。ところが席では「結構です。分かりました。」ということでものわりのよい返事をくれるけれど、いざ交渉に入るとなかなか「ウン」とは言わない。「祖先伝来の土地を減らすことはできない。」ということと、値段の問題が絡んでくるからです。そこで代替地を買収、その土地と交換してもらったらどうかということになり、志村さんと自転車で一軒ずつ説得してまわった。とにかく安い土地からくずしていった、最後は線路のところを買収した。



昭和 28 年頃のグラウンド 5 期生 細川雅夫氏より

志村文蔵さん (元 PTA 会長)

松岡先生の話のように、「南はレールまで〔当時、線路は地平にあった〕、北は養豚場の辺りまで買うんだ」ということに発展してきた。けれど私は「冗談じゃない、競輪場をつくるんでもあるまいし、学校がなんで 12,000 坪もの土地を無理して買うんだ。必要ないじゃないか。みんな土地の人は嫌がっているんだ。」と反発した。しかし、「将来のために買うんだ」と説得され、重い腰を上げざるを得なかった。今にして思えば、よかったと思う、本当に。あれだけの土地は、これからも求めることはできない。1 万坪に及ぶ用地買収がスムーズにいったのは、実は都の規約とか教育庁の方針、制度上からいうとおそらく反則だろうと思います。地主さんと交渉が成立したとき、松岡先生がパッパと小切手を切る。私は何も知らないから、それが正常なやり方だと考えていた。このやり方がよかったか、悪かったかは別にして、松岡先生、土木会社の社長さんのおかげで手金をうった。それも松岡先生は自分のお金まで持ち出していた。PTA の役員の方も、「それはご苦勞様でした」と 3,000 円から 4,000 円の入会金を用立てていただいた。これで全部の用地を買収した。だから足立高校の校地は卒業生が買ってくれたことになる。結局のところ最後に「土地買収費は都が出す」ということになり、都の施設課へ正式の書類と登記簿謄本をそろえて出して、土地買収費を受領した。この資金でのちに木造の体育館をつくった。

※「PTA30 年のあゆみ」記載・座談会「足立高校はこうして誕生した」(昭和 53 年 8 月)より (〔 〕内は筆者付記)



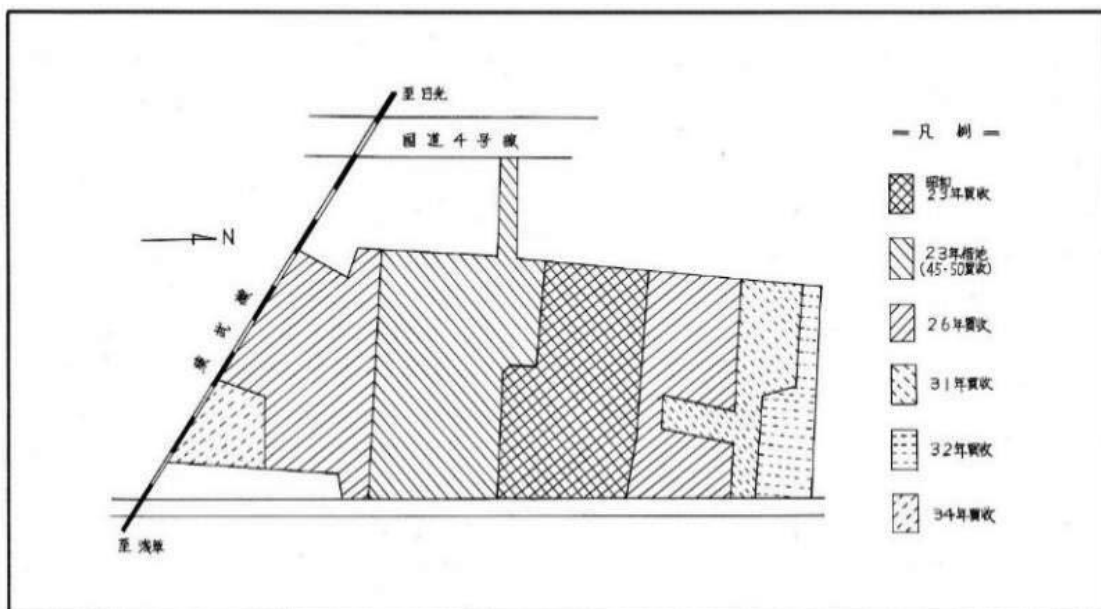
昭和25年5月17日
校外教授実施時の職員（千葉県富津公園）
（前列左から3人目が松岡節郎校務主任、同
4人目が長坂勝一校長、後列右から4人目



長坂校長・大坂先生と2期生
昭和25年12月
小林慶子(旧姓小松崎)氏より

つまりは土地買収資金が体育館建築費に替わったということになる。このような努力により、広大な校地が確保できたのである。足立高校が今日こうしてあるのは、草創の頃の小林栄三郎校長、終戦直後の今野善胤校長・長坂勝一校長・松岡節郎教頭、PTAの志村文蔵氏らの多大な功績による。

このようにして、母校100年の礎（いしずえ）が築かれたのである。



校地拡張の状況 「PTA30年のあゆみ」より

終わりに（他校とは異なる歴史がある）

足立高校は夜学校の講習会を振り出しに、千住町域内の間借り校舎等を転々として、組織的にも幾多の変遷を経ながら100年を越える歴史を歩んできた。

母校の物語「100年の礎」は、「終の棲家（現在地）」を得たところで一段落としたい。

足立高校には歴史の古さだけではなく、足立区内の他の都立普通科高校六校とは異なる歴史がある。5回もの引越し・間借り教室を重ねて来たことでの苦難と、自分達の校地校舎をようやく持てたという先生・生徒たちの喜びの遺伝子が引き継がれている。2期生、5期生の先輩方は今でも自分たちで机や椅子を運んだ、自分たちで学校を創った、という気持ちを強くもっておられる。足立高校の校風はこういった苦難の歴史が原点になっているのではないだろうか。

また、足立高校は地理的に足立区の要の位置にある。そして国道4号線という幹線道路と、高架複々線となった東武鉄道の幹線が交差する位置にあり、更には勇壮とした足立区役所の庁舎が背後にそびえている。足立高校がもともと足立区立（千住町立）だったことを象徴しているかのようだ。東武電車の車窓から母校を見ると、広いグラウンドでの授業や部活の生徒たちの姿が垣間見える。現在の校地に移ってから74年になるが、少子化の影響により小中高の学校の統廃合が進んでいる。公立高校も例外ではない。今後も「都立足立高校」という名称で存続して欲しいと願うばかりである。

参考

校名は次のように変遷している。

千住町立女子実業補習学校 ……9年（大正12.7.9～昭和7.9.30）
足立区(立)千住女子実業補習学校 ……3年（昭和7.10.1～昭和10.9.29）
東京市立足立実科女学校 ……7年（昭和10.9.30～昭和17.3.31）
東京市立足立高等家政女学校 ……1年（昭和17.4.1～昭和18.6.30）
東京都立足立高等家政女学校 ……3年（昭和18.7.1～昭和21.3.31）
東京都立足立高等女学校 ……2年（昭和21.4.1～昭和23.3.31）
東京都立足立女子新制高等学校 ……2年（昭和23.4.1～昭和25.1.27）
東京都立足立高等学校 ……73年（昭和25.1.28～現在）

場所も次のように変遷している。

千寿尋常高等小学校内 ……3ヶ月（大正12.7.9～大正12.10.7）
潤徳高等女学校内 ……19年（大正12.10.8～昭和17.4.24）
第一高等国民学校（のちの足立区立第三中学校）内 ……3年（昭和17.4.25～昭和19.12.21）
千住橋戸町校舎（のちの公共職業安定所の建物） ……1年（昭和19.12.22～昭和21.2.24）
第二高等国民学校（のちの足立区立第四中学校）内 ……3年（昭和21.2.25～昭和24.3.4）
現在地（移転当時の町名は千住弥生町） ……74年（昭和24.3.5～現在）



昭和42年1月頃の足立高校付近（線路の右方が足立高校）
東武線高架化工事開始の頃
足立高校2年生の時に筆者撮影、奥に見える陸橋が旧梅島陸橋



令和5年6月
4年ぶりの全校による体育祭

*文中の〔 〕内の記述については、筆者による補注である。

足立高校の系譜



以 上

平成 25 年度生（第 65 期）進路概況 教諭（進路指導部）池澤淳子

平成25年度卒業生の進路実績は、以下の通りです。
 今年の卒業生は、大学・短大の進学率が合わせて50%を超えました。中でも難関大学とされるいわゆるMARCH（明治、青山、立教、中央、法政）に複数合格するという結果を出しています、立教大学にセンター入試で合格をしたり、こちらのデータにはありませんが既卒生の躍進ぶりも目立ちました。（サンデー毎日に掲載）生徒たちの学習に対する意欲が年々増し、特に3年生に進級するとそれまでとは一変して進学に向けての強い意志を感じます。センター入試受験者もここ3年間で（38→80→97）増え続け、一般入試で大学を勝ち取ろうという受験勉強から逃げない生徒たちがいることは、嬉しい限りです。

「さやか野」より転載

入学式

平成26年4月8日（火）足立区西新井文化ホール（ギャラクシティ）において本校入学式が挙行されました。

例年は本校体育館で吹奏楽部の演奏により入場し着席するとなっていますが、改修中のため、外部の施設ですでに着席した状態で開始されました。

各担任から新入生277名の呼名が終わり、校長より入学許可を宣言され足立高校生としてスタートすることになりました。

校長先生の式辞、来賓挨拶・紹介と式は肅々と進み、4組相川純二さんの力強い新入生代表宣誓の後、在校生による校歌紹介があり無事閉式することができました。



「やよいの」より転載



平成 26 年度第 64 回体育祭 「やよいの」より転載

第50回 弥生野祭

Let's 新校舎 ～アオハルにライド～



「やよいの」より転載

「男子バスケ部」皆で走って、つかんだ勝利！！

今年の男バスは熱い！との情報をキャッチ。早速、取材へ go！現在、部員数 3 年生 5 人、2 年生 11 人、1 年生 11 人マネージャー 4 人で、練習時間は週に約 4 時間で、土、日曜日も練習しています。水曜日の放課後、体育館での練習を見せて頂きました。若さあふれるランニング、シュート、ジャンプの高さと躍動感に一瞬で圧倒されました。現役引退後間もない 3 年生 5 人と女子マネージャー 1 人が今の気持ちを次のように話してくれました。

「かけがえのない仲間たちとの友情を得られて部活を続けてよかったです。」「有意義で楽しい時間が持てました。」「練習も楽しかったし、今は達成感に包まれています。」「今までで一番印象に残った試合は、全員が 5 月に行われたインターハイ予選の 1 回戦と答えてくれました。相手は都内ベスト 7 の私立東邦高校戦で、62 対 61 の 1 点差での勝利！最後の最後まで勝てるとは思わず、フリースローでの劇的な逆転勝利でした。チームが一丸となってあきらめずに戦った結果の、まさしく皆で走って、つかみとった勝利でした。この時はベンチも含めた感動の嵐だったそうです。卒業までに残された学校生活は、全員が、「しっかりと気持ちを切り替えて、進学のために勉強をしたいです。」とのこと。女子マネージャーは、「部活が終わり、半身もぎ取られたような気分ですが、指定校推薦で早く進学が決まるので、これからも、皆を支えたいです。」と答えてくれました。皆さん行儀がよく、好感が持てました。顧問の前田先生は、「個々は特別目立ったプレイヤーではないが、練習に対する取組みが皆まじめです。」と笑顔で話してくださいました。最後に 3 年生の皆さんへ、バスケ部で育んだ仲間たちとの友情を大切に、未来に向けて、それぞれの道を歩んでください。心から応援しています。後輩の皆さん、先輩の良いところを是非引き継いで、新チームも目標に向かって、頑張ってくださいね。期待しています。



「くっきんぐ部」楽しい！おいしい！Cooking！

食の安心、安全など、時代の変化の中で、食についての知識が見直されています。

このような時代に、くっきんぐ部で活動をしている生徒さんたちに突撃レポートしました。調理実習室へ向かう廊下には、おいしいにおいが立ち込め、ドアを開けた途端、まるで、足立高校菓子工房のようでした。オープンの中には焼きあがったばかりのふわふわのマフィンがきれいに並んでいました。

入部の動機は？「食べるのが好き、作るのも好きだから。」「また、「運動部より楽だと思ったから。」「と、今の高校生らしい？答えがかえってきました。「先日ロールキャベツを作りました。」「お弁当を自分で作ります。」という家庭での食への関心についても知ることができました。社会の急速な高齢化などに伴い、食で健康を守るための様々な研究も進んでいます。食で人々を健康にする、食で高齢者の命を守る、食で病後のサポートをする、食の重要性が増しています。顧問の大串先生は「くっきんぐ部の部員は 33 人います。従って全員での実習は無理なので、2 班に分かれて実習をしています。今日も 16 人での実習でした。今の時期は、弥生野祭や他のイベントに出店するために、焼き菓子作りを繰り返し練習しています。かかった材料費については生徒たちで分担しています。」と、話してくださいました。手作りの食べ物で周りの人に幸せを分けてあげられたら素晴らしいですね。取材後にお土産に頂いた、できたてのふわふわマフィンを大切に抱えて実習室を後にしました。



「さやか野」より抜粋

「陸上部」記録に挑む！！

正門を進むと目に飛び込んできた懸垂幕。“おめでとう！走り幅跳び 3 年生醍醐花菜さん関東大会出場！”練習前の貴重な時間に、3 年生女子 5 人とお話して入部の動機を話してくれました。「陸上が好きだから。」「足立高校は陸上競技の実績があったから。」また、将来の夢については「卒業後も陸上に関わっていききたい。陸上をとおして健康に役立つ仕事をしたい。」「柔道整復師などの資格を取りたい。」「大学に進学し記録を伸ばしたい。」「マネージャーの経験を活かして、人のお世話をする道に進みたい。」など。

また、競技種目も、目標設定もそれぞれ違う陸上部を上手にリードしてきた思いをキャプテンの新矢瑞希さんに聞くと「みんなで応援することです。群馬で開催される関東大会へも応援に行きます。」自信に満ちた声にキャプテンの誇りが感じられました。

令和 2 年には東京オリンピックが開かれます。この先皆さんをとりまく環境は大きく変化していくことでしょう。たとえどのような困難に向き合おうと夢をあきらめず、自分を大切に歩んでください。そして今しかない青春により高く、より速く、そしてより遠くへ、挑戦してください。心から応援しています。



「吹奏楽部」の定期演奏会を聴いて

浜田多賀子 21 期（昭和 45 卒）

3 月 26 日、桜が満開の麗らかな午後、吹奏楽部の定期演奏会を聴きにギャラクシティ西新井文化ホールへ行きました。

第 1 部の最初の曲は『情熱大陸』、第 2 部は NHK 朝ドラの『花子とアン』の主題歌『にじいろ』で、綾香さんの「つらいことがあっても前を向いて歩いていこうよ。」と語りかけてくれる歌詞のすてきな曲、最後のアンコールは、リズムカルで楽しい曲『学園天国』！1 部、2 部、アンコール曲のすべてが素晴らしい演奏で、少人数での演奏とは思えませんでした。演奏終了後、顧問の菅原彩子先生から「卒業は別れではなく始まり」とのお話がありました。私も自分の夢や希望に向かって羽ばたくいま飛び立ったひな鳥たち、と思いました。ひな鳥たちは、吹奏楽部で培ったたゆみない努力をすることと、きれいなハーモニーを奏でる協調性で、今後の素晴らしい人生を力強く歩んで行けることと信じます。けなげで一生懸命な吹奏楽部の皆さん、素晴らしい演奏を聴かせてくださり有り難うございました。今後も、吹奏楽部の活動を陰ながら応援していきます。



「さやか野」より抜粋

「同窓生講演を終えて」 主幹教諭(進路指導部主任) 大串京子先生

今年の同窓生講演は、6 月 13 日(水)に実施しました。18 期から 48 期までの計 17 名の講師の方に来ていただくことができました。

1 年生は格技棟にて、金成秀幸さんの講演を聞きました。マイクを片手に持ち生徒に質問をしながら、現在の社会環境の話、自分の人生を振り返ってみての話、経験から学んだこと、後悔しない人生を送るためにはなど、熱く語っていただきました。2・3 年生は、各クラス 3 名の同窓生から話を伺いました。短い時間ながら高校生時代の話、職業の話、高校生に伝えたい思いなど盛りだくさんの内容でした。

生徒の感想の中には、「興味を持っていた職業の方が講師だったので、話を聞くことが出来てよかった。」、「もっと詳しく話を聞きたい。」、「社会に出ていくために必要な大事な話が聞けた。」などと前向きな内容が多く書かれており、少なからず生徒の心に響いていることがわかります。今後も充実した行事になりますよう、同窓会の皆様にご協力いただけたら幸いです。

「さやか野」より抜粋

母校創立 100 周年記念

キャッチコピー・シンボルマーク決定！

足立高校創立 100 周年記念事業実行準備委員会

2018 年 9 月、学校・PTA・同窓会の三者で構成される本委員会は、創立 100 周年記念事業の一環として、在校生と保護者、同窓生、教職員から「キャッチコピー・シンボルマーク」を募集し、コピーには在校生 154 人、卒業生 40 人、マークには在校生 168 人、卒業生 2 人、先生 1 人が応募してくれました。2019 年 7 月、応募作品は委員会内の選考委員会による厳正な審査により、皆さんの投票にかけるキャッチコピー 9 作品とシンボルマーク 7 作品が選出されました。

同年 9 月から投票が、在校生と保護者・教職員は学校で、同窓生と保護者・旧教職員は同窓会誌「さやか野」を通して行われました。

2020 年、皆様の投票により、最優秀作品賞と優秀作品賞が決定し、入賞者の方々には、委員会より表彰状と記念品を贈呈しました。

母校関係者全員を参加対象とする足掛け 3 年の大プロジェクトでしたが、学校、PTA と同窓会の多大な協力を得て楽しく行うことができました。

現在、公式マーク＆コピーとして使われているのが、この最優秀作品です。

◎キャッチコピー

最優秀作品賞松田（旧姓疋田）真由美（40 期）224 票

希望の大華～ 100 年の想いを輝く未来へ～

作者の一言



この度は最優秀作品賞に選んで頂き、有難うございます。足立高校のこれまでの 100 年と、これからの 100 年への出発を心より、お祝い申し上げます。一人ひとりの持つ可能性が未来に大きく花開くことを願っております。

優秀作品賞徳間秀一（23 期）134 票

受け継ぐ 100 年の想い羽ばたけ未来へ

優秀作品賞森澤正益（20 期）100 票

百年の絆千年の望万年の夢

創立 100 周年

シンボルマーク

最優秀作品賞

大久保 波輝（71 期）236 票

“シンプルかつ見る人の目を引くようなデザイン”をモットーに制作いたしました。校章である三葉のクローバーを 100th に組み込むことによって、文字を入れずとも足立高校をイメージすることができます。

●優秀作品賞

松鶴 賢二郎（旧教職員）
221 票

●優秀作品賞

島 倉 葵（2 年生）
169 票

「さやか野」より抜粋（一部変更）

「女子テニス部」 今年の目標五学区対抗テニス大会連覇！！クラブ訪問！！

顧問の田中智先生は舞の海似？のスポーツマンです。担当は理科（化学）。田中智先生は足立区生まれ、足立区育ち。モットーは「苦しくなってから頑張るのが本当の努力」。今年の目標は、公式戦予選決勝から本戦進出、五学区対抗大会の連覇！

次に秋の大会連覇を目指すメンバーにインタビュー。

＜部員数＞現在 12 名（3 年 4 名、2 年 2 名、1 年 6 名）。少数精鋭ですね。

＜練習時間＞週 5 日。勉強との両立ができているそうです。

＜近年の成績＞区民大会シングルス優勝、五学区対抗大会優勝等、頑張っています！顧問の先生方の手厚いご指導のおかげのことです。先生方に感謝！

＜今年の目標＞公式戦本戦進出、区民大会優勝、五学区対抗大会連覇です。

＜あなたにとってのテニス部＞「アオハル」「一番楽しい時間」「思い出」「人間関係を学べる」「運動の時間」「楽しくて健康にいい」

＜生徒より顧問の先生へ＞昨年の五学区対抗大会の優勝のご褒美がまだなので、今年優勝したらダブルでご褒美待ってます！田中先生、ご褒美待っているそうですよ（笑）



「さやか野」より抜粋

祝

陸上競技部&演劇部

- ・陸上競技部
 - 堀切聡馬 男子走高跳 全国大会出場
 - 和田桃李 女子走高跳 関東大会出場
 - 添田勇翔 男子400m 関東大会出場
- ・演劇部
 - 作) 清水瑠夏
 - 「オタクのおしごと。」 関東大会出場

2021年度実績

祝 関東大会出場 演劇部 作「オタクのおしごと。」 二年 清水瑠夏 同志会

祝 関東大会出場 陸上競技部 和田桃李 女子走高跳 添田勇翔 男子400m

祝 全国大会出場 陸上競技部 堀切聡馬 男子走高跳



「やよいの」より転載

第70回体育祭（学年別開催）



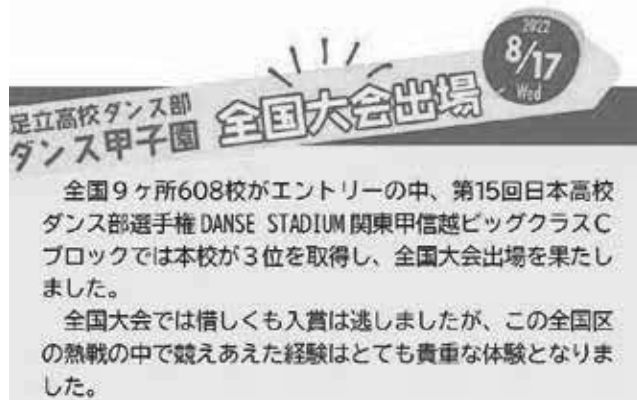
「演劇部」唯一無二のチームワーク 顧問 猪狩寛子

令和3年度10月の地区大会は6名という少人数で臨むことに。2年生で部長の清水瑠夏さんによる脚本『オタクのおしごと。』の練習開始。部活動の時間が制限されている中、限られた時間の中で集中してやるために練習を工夫したり、助け合ったりして何とか地区大会本番を迎えました。大会最終日ツイッターによる結果発表。まさかの都大会推薦に部員全員が驚きと喜びが爆発しました。顧問も含めて初めての都大会。場所は東京芸術劇場。紆余曲折ありましたが、11月の都大会ではまさかの関東大会推薦。何だか信じられないまま日が過ぎ、1月、中野ZERO大ホールで関東大会本番を迎えました。

さまざまな学校の演劇を直に見ることができ、貴重な体験となりました。嬉しかったことは、多くの先生方や生徒たちに、演劇部の活動を見ていただいたこと。審査員の方々に、生徒の演劇にかける熱量をほめていただいたこと。中でもある審査員の方にいただいた「唯一無二のチームワーク」という言葉は宝物です。本当に多くの方々に助けていただき、支えていただき、私も部員たちも成長できる機会をいただいたことに感謝いたします。



「さやか野」より抜粋



「やよいの」より転載

「ストリングオーケストラ部」 顧問 小幡芳枝・鳥羽通子

4年前に、弦が4本とも知らず、顧問になりました。翌年男子のみ4名が入部し、今春卒業。現在の部員は3年女子3名、2年男子1名、女子3名の合計7名です。全員初心者で、譜読みや音取りは得意ではありません。が、文化祭で演奏しました。特に1年生だった現2年生は、よく頑張りました。今後はただ音階を弾く段階から、強弱やなめらかさを意識して、気持ちを込めて、表現豊かなものに仕上げて欲しいです。

部活動紹介の曲では、私は編曲が初めてで、頭の中に聞こえてくる音をどうやって楽譜に表すかがよくわからず、書き換えたり、急に1オクターブ上げたりしましたが、部員たちは即座に対応してくれました。高い能力の証です。

今までの顧問歴で1番手をかけ、それに応えてくれる生徒がいて、とても満たされています。かつてのストリングには及びませんが、鳥羽先生の伴奏や協力で何とか活動中です。



「陸上部」 顧問 鈴木一弘

令和3年度後半の結果をここにご報告させていただきます。

3年4組の堀切聡馬が5月の東京都高等学校陸上競技選手権大会で走高跳第2位になった時の記録2m02cmで参加資格を得て10月24日(日)愛媛県総合運動公園陸上競技場で開催された日本陸上競技連盟主催の第15回U18・第52回U16陸上競技大会に出場しました。全国から出場資格を得た24名の精鋭による競技会であり、かつ通常より制限が厳しい2回続けて失敗すると競技終了というルール(通常は3回続けて失敗すると競技終了)で行われた競技会であったため、最初の高さはクリアできたものの、次の高さは惜しくも失敗して17位に終わりました。

また東京都新人陸上競技会で入賞した2年6組の添田勇翔と2年5組の和田桃李は茨城県ひたちなか市の笠松運動公園陸上競技場で行われた関東高体連主催の関東選抜新人陸上競技選手権大会に出場しました。添田は10月23日(土)実施の400mに出場し第2組3着で惜しくも決勝進出はなりませんでしたが、和田は24日(日)実施の女子走高跳に出場し1m64cmという記録で前年に続き2連覇を果たしました。

多大なるご支援に改めて感謝申し上げる次第です。これを励みに部員一同全国大会を目指して努力を続けております。

「さやか野」より抜粋

令和3年度卒業生(第73期)進路状況 進路指導部主任 稲垣 浩二

前年度から続くコロナ禍で、通常の学習活動も大きな影響を受けました。感染予防に鑑みて学校全体の行事は中止になりましたが、体育祭は学年単位で行い、校外学習はTokyoGlobalGatewayで外国語体験ができました。

73期生全体として進路別の割合に大きな変化はありませんが、四年制大学入試のうち、一般入試による進学者は36.8%にとどまり、総合型(旧AO)入試や学校推薦型(旧指定校・公募)入試による進学者は時流を反映して少しずつ増えています。

また、進学にかかる費用に対する懸念から、例えば看護・医療系につらなる堅実な進路選択をする事例も増えています。専門学校や就職・公務員を志向する傾向がわずかに増えているのも世情を表しているようです。

どの進路選択をするにしても、早めに覚悟を決めて邁進した生徒が望ましい結果をおさめているのは無論ですが、迷いに迷うからこそ早くから真摯に模索を続けた生徒の好結果も尊いと感じました。

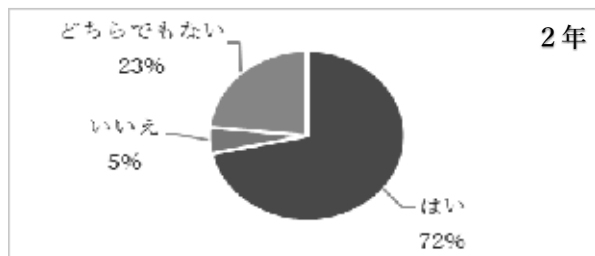
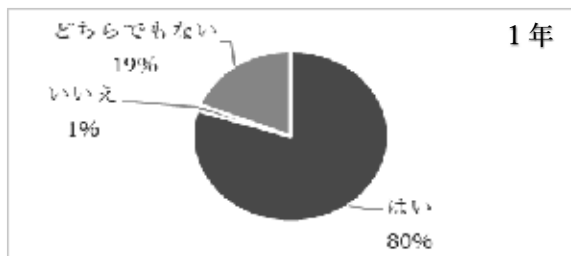
「さやか野」より抜粋

生徒会が

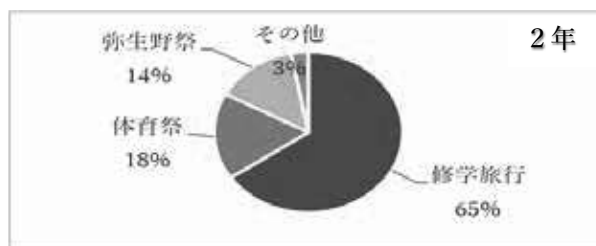
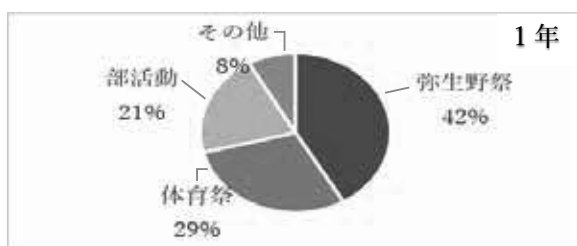
在校生（1・2年）550人に聞いてみた！

Q 足立高校に入って良かったと思いますか？

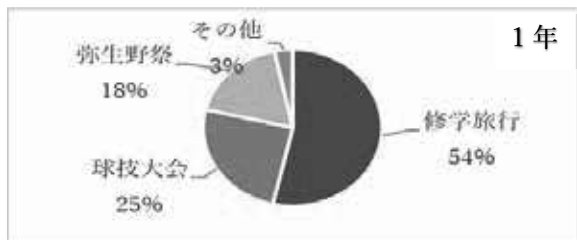
令和4年2月実施



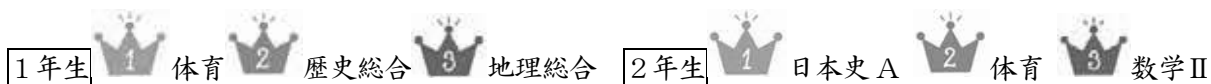
Q 入学してから一番楽しかったことは？(TOP3)



Q これから楽しみにしていることは？(TOP3)



Q 好きな授業は？(TOP3)



Q 足立高校のいいところは？

- ・元気がよく仲がいい
- ・校舎、グラウンドが広くてきれい
- ・自由度が高い
- ・先生が優しくて話しやすい

Q これからの足立高校に向けてメッセージ

- ・おめでとう！
- ・足立高校大好き！
- ・いい学校にしましょう！
- ・目指せ！創立200周年！！



生徒会執行部



生徒会が 部活動に聞いてみた！

質問1 部活全体の目標

質問2 活動を通してよかったこと

質問3 メッセージ



男子バスケットボール部

質問1 試合に勝つこと。

質問2 バスケ部同士だから分かり合えるコミュニケーションがあること。

質問3 部活動体験、いつでも待っているのです、来てください！

陸上部

質問1 可能な限り都大会進出。人として成長する。

質問2 肉体的・精神的に強くなれる。仲間と協力して勝てたことが嬉しい。

質問3 一人一人が日々強い選手になれるよう努力しているのを応援よろしくお願いします！



演劇部

質問1 部員みんなで演劇を楽しむ。

質問2 台本やダンスを考えたり、歌ったりなど、できることが増えた。

質問3 校内公演などやっているのです是非見に来てください！

ダンス部

質問1 全国大会入賞！

質問2 自分の成長と共に皆の成長を一番近くで実感できるとこと。なにかに全力で励むことがとにかく楽しいと思えること。

質問3 足立高校ダンス部（まうんちゅ）は全国目指してさらに熱を入れ、日々練習しているのでこれからも温かく応援して頂けると嬉しいです！



創立100周年誠にありがとうございます。私たち兄弟は、満洲で生まれ栃木県に育ちました。私が、中学3年になって間もなく、父から「この先東京に引っ越す予定がある。志望校は都立高等学校を受検する様に」と奨められ、台東区の下谷中学校に編入学しました。

幸い都立足立高等学校に合格したのも東の間、我が家族全員は、生活の拠点を千葉市に移すため引っ越ししました。自宅の最寄り駅京成千葉駅から、京成関屋駅で下車、東武線牛田駅で乗り換え五反野駅まで、片道2時間、往復4時間の通学を余儀なくされたのです。

私の高校生活で自慢できることは、長距離通学者として無遅刻・無欠席を貫いたことです。この遠距離通学のおかげで朝型人間に生まれ変わり、82の有資格者となりました。与えられた環境の中で一所懸命真剣に取り組めば、必ず自分の人生に役立つということを学びました。

また、この3年間の高校生活において、一番印象に残っていることは、当時の山田孝校長先生が入学式において話された「春風や關志抱きて風に立つ(高浜虚子)」の訓示です。この訓示は、私のよすが(縁)となり、後年上梓した自叙伝「風に立つ」の題名に繋がりました。

卒業を控えたある日、父から「新事業を始めることになった。一緒に私の仕事を手伝いなさい!」と2つ上の兄と3人でイカリ消毒株式会社を創業しました。以来63年、現在もイカリ環境事業グループのファウンダー(創業者)として、生涯現役を貫いております。

平成8年、都立足立高等学校の卒業生も17,000名に増え、卒業生の有志として同窓会再建の必要性を感じていました。私は、準備委員として世話役を務めさせて戴き、平成8年10月26日、光栄にも初代会長として念願の足立高校同窓会の再建に至りました。

母校の体育館において開催された再建総会には、630名の関係者に出席戴きました。式典は、第22期卒の塩野谷光夫幹事長の司会の下、同窓会再建に御尽力戴きました当時の立堀隆三前校長はじめ高田俊治現校長並びに歴代の校長・PTA会長各位の御臨席を賜ることができました。

平成14年の母校創立80周年記念事業では、初代同窓会長でありました私が、記念事業実行委員会の委員長を拝命しました。そして80周年の記念に、足立高校校庭並びに校長室中庭に15本の「八重紅しだれ」と「陽光」を「公益財団法人日本さくらの会」第16代さくらの女王三宅亜紀子様に参加して戴き植樹しました。

さらに第6期卒佐原弘道氏から、「弥生野に芽吹き花咲け若桜未来を拓くちから学びつ」と在校生への応援の

思いが刻まれた記念の歌碑を創ることができました。



さくら植樹風景



高田俊治校長と公益財団法人
日本さくらの会 第16代女王



<同窓さくら>

「弥生野に芽吹き花咲け若桜
未来を拓くちから学びつ」

(第6期生 佐原弘道氏作)

そして、平成24年の90周年記念式典に続き、この度の100周年記念事業につきましては、3代目会長金成秀幸氏に実行委員長として、その重責を果たしていただくことになりました。

ところで、昨年同窓会定時総会では、在校生への給付型奨学金制度が満場一致で承認されました。今日のコロナ禍、毎年、学年毎に返済義務のない奨学金制度がスタートされましたことは、同窓会の絆はもとより、社会に巣立つ前途有為な同窓生の強力な後押しとなり、社会に貢献する意義は極めて大きく、大変誇りに思っています。

前述したように、都立足立高等学校を卒業し創業した会社もおかげさまで64年目を迎え、イカリグループとして社員1,500名、全国100営業所を数える規模に育ちました。

私は、この原点は、都立足立高等学校の先生方、皆様方の温かい御指導、御鞭撻の賜物と心から感謝している次第です。「感謝と継承」次世代にバトンタッチした会社創立60周年記念事業の一環として「イカリ謝恩育英財団」を設立いたしました。令和3年には内閣府から公益財団として認定されました。私も足立高校のOBの名に恥じないよう弊社の活動を通じて社会貢献、社会への恩返しができるかと心を新たに精進しているところです。

関係者の皆様の御健勝と都立足立高校の末永い御繁栄を心から御祈念申し上げます。

私は74歳。れっきとした老婆。大学生の孫もいます。そんな私ですが、ポニーテールの高校時代もありました。都立足立高校に青春時代をすごしました。思い出して、短歌十首を作りました。お読み頂けたら、幸いです。

① うつむきて足立高校の門くぐる第一志望に落ちにし春よ

第一志望に入れず、クヨクヨとしていましたが、良き先生、友達に恵まれ、元気に素直になっていきました。

② 担任のアコーディオンに歌いおりホームルームの朝の教室

小島義朗先生のアコーディオンの伴奏で毎朝、ロシア民謡などを歌いました。みんな元気で、歌声喫茶のようでした。

③ 中庭に白詰草の咲き初みて胸の校章朝日に光る

お茶室のある中庭には、私達の校章でもある白詰草（クローバー）が、可憐に咲いていました。

④ 屋上に髪なびかせて発声の稽古をしおりわが演劇部

私は、演劇部に入り、同期は五人。和久さん、押見さん、慶徳さん、佐藤さん。先輩方に教わり、舞台に向かいました。

⑤ わが額にデコピンもらいて振り向けば師の育て給うぼたん花香る

二年生の時の担任は、吉岡信太郎先生。花を育てるのもプロ級。ぼたんの花は、とても大きく、良い香りがしました。

⑥ 校庭にキャンプファイヤー輝きてオクラホマミキサーの曲流れたり

夜の校庭に、キャンプファイヤーの炎が明明と燃え上がり、フォークダンスをしました。「思う人」が来る前に、曲が終わると、とても残念でした。

⑦ 尾瀬ヶ原至仏を越えて小出へと白亜の山荘に友らと向かう

夏休みには毎年、学校主催の尾瀬歩きに参加しました。至仏山を越え、奥只見を通り小出の山荘に行きました。スキー教室でも泊まりました。山口先生の愛あるスパルタ教室でした。たくさんの部活の人も利用していました。

⑧ 誰もみな部活に入り励みたり運動部の人雨に打たれて

帰宅部の人、は、少なかったです。たくさんの運動部、文化部が所せましと活発でした。顧問の先生方の熱心なご指導も頂きました。

⑨ 鮮やかにその師の御顔浮かびくる「人生」こそを語りくれにき

先生方は、授業は勿論、ちょっとしたお話やお言葉の中に、深い「人生」を語られていました。勉強になりました。

⑩ 各々に進路の分かる卒業式青春すごせしわが足立高校

すばらしい先生、先輩、友に恵まれて、楽しい三年間をすごすことができました。感謝、感謝です。

さて、以上最後になりましたが、都立足立高校百周年（昨年度）、おめでとうございます。

新しい校旗、奨学金制度の設置等、常に前進の姿勢にも頭が下がります。関係者の方々にお世話になり、ありがとうございます。

ますますの都立足立高校の御発展を祈念申し上げます。

COVID-19、パンデミック、トリアージ…まさかこの年になって、こんな恐ろしい言葉を学び、こんな恐ろしい事態がこの身に襲いかかってくるとは思ってもよらなかった。

私はまる3年の間、ずっと自粛生活を続けてきた。その中で唯一の楽しみは、安否確認を兼ねて仲間と毎日ラインメールを交換することだ。何とその仲間が、半世紀前＝17歳の時に足立高校で巡り合った級友4人なのだ。最近、その中の一人が終活？をする中で、当時の修学旅行の写真やクラス旅行の写真を発見し、送ってきた。折しもそんな時にこの原稿依頼があり、奇縁を感じ書かせて頂いた。とても稚拙な内容だが、平にご容赦願いたい。

ただ一つ胸を張って言えることは、足立高校の3年間は、私にとって最も充実した学校生活であったこと、自分の人生を方向づけてくれた最高の恩師に出会ったこと、生涯付き合ってくれるであろう友人に出会えたことだ。特に2年2組の44人は、常に私を楽しませ笑顔にさせてくれた。ブラボー！ 17歳！

＜授業＞ ＊字数の都合上、敬語表現省略

個性的な先生方のユニークな授業で、私はどの教科も飽きることなく学んだ。(本当？)

担任の石田先生はテスト等でミスをする、「惜しい」「あと一步！」等と、必ず赤でコメントを書いてくれた。それが嬉しくて次は頑張ろうと燃えた。放課後は数学準備室で、納得するまで時間をかけて教えてくれた。

紙縶こよりをクジにして生徒に引かせ、当たった列の一人にスピーチをさせた世界史の山田先生。一番前の席にいる生徒にいつも試験管を持たせ、風貌とともに実験も面白かった化学の武野先生。黒板を三度も書き消ししては、汗を拭き拭き「皆は座っているから楽ですよ。僕はずっと立ってるんですから！」が口癖の英文法の佐藤先生。清少納言の逸話が楽しかった原先生…等。タイムイズモウネエ (笑)

＜パンノート＞ ＊あえて現在形で表現

学校の隣に飯田屋というパン屋があり、注文ノートが授業中に回ってくる。2組には、これまた個性的というかお笑い系の人間が多く、「郷ひろみ」「野口五郎」「志垣太郎」と書いて注文する。さらには、「5P」と書いてコーヒー牛乳を注文する。飯田屋のおじさんは、こんなふざけた注文にも見事に応えてくれる。パンの包み紙には「郷ひろみ」等と書かれ、コーヒー牛乳もちゃんと届くのだ。

＜担任石田先生と2組の生徒達との関係＞

2組の一部の男子は、HR等で先生が教室に入ってくる時に、扉に黒板消しを挟む古典的なイタズラをやった。先生はしてやられたと苦笑い。しかし怒るどころか「俺にはいいけど、石沢先生には絶対にやるなよ。妊婦さんなんだから。」と気遣いの言葉が返ってきた。

カセットデッキにチャイムを録音し、少し早くHRを終わらせたり、その録音に女子も加わって「石田先生、職員室に至急来て下さい！」と声を入れ、先生が変だな？と思いながらも教室を出て行ったりしたこともあった。先生は八重歯をむき出しにして戻ってきた。

悪戯いたづらができたのは、先生と生徒との間に生まれた信頼関係と強い絆があったからこそだ、と勝手に思っている。このピュアな利害の全くない関係に惹かれ、石田先生の影響を一心に受け、私は迷わず教師という道を選んだ。

＜弥生野祭 ～クラスの出し物と後夜祭～＞

我が2組では桃色の揃いのエプロンを女子が男子の分まで作り、「何でも屋」と称し、アメリカンフラワーを作ったり、落語や寸劇をやったりした。芸達者が多く、楽しかった。

校庭で皆で一頻りフォークダンスを踊った後、カップルが「第三の男」の曲に合わせて踊ったラストダンス。私には全く縁がなかった。中学からずっと好きだった人に一度も声をかけられず、三度の後夜祭は虚しく終わった。今でも、どこか憂いのあるチターの音色を聞くと、当時を思い出し胸がキュンとなる。

＜2年2組のその後＞ ＊もっと書きたい…

クラス替え反対の署名運動まで起こした2組。クラスが分かれても卒業しても、2組でよく小旅行をした。石田先生は常に参加してくれ、今でも事ある毎に必ず顔を出してくれる。

私は定年退職し、現在完全な年金生活者である。しかし元17歳の仲間は…メディアで有名になった社長、クラシックギターのプロ、河豚料理の美味しい小料理屋の女将、安行の植木屋の女房…と今でも皆大活躍している。そんな足立高校の仲間がとても誇らしい。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

今となっては時効ということで、お許し願いたい高校生活の一部を書かせて頂いた。

石田先生の喜寿のお祝いをする頃には、コロナも収まっていて欲しいと切に願うばかりだ。また2組で集まって、先生を囲んで50年ぶりにはしゃぎたい。ブラボー！ 17歳！

末筆ながら、足立高校創立100周年を心よりお祝い申し上げます。そして、永遠なれ！

創立100周年おめでとうございます。

私が足立高校に在籍したのは、昭和49年から51年でした。当時は学校群制度の時期で、足立高校は江北高校と同じ53群でした。合格発表の時、足立高校に決まって残念な気持ちになったことを覚えています。その後、教員となり平成18年4月より平成26年3月まで8年間在職して担任を6年間引き受けました。この間、足立高校は、創立90周年を迎え、二つの大きな変革がありました。

まずは文化・スポーツ等特別推薦（文スポ推薦）を始めたこと。もともと文武両道の学校でしたが、この文スポ推薦を始めたことにより、自分の興味ある部活動をおこなうために足立高校を選んできた中学生ができました。文スポ推薦で合格しなくとも一般受検で再度受検して入学してくる生徒もいました。部活動は学校を活性化させることのできる要素の一つであると思います。活躍をする部が出てくると、全力で取り組んでいるその雰囲気に触発されて他の部活動も活性化していきました。学校生活の中で元気に頑張れる生徒たちが増えてくると、学校全体が元気になっていきました。

そしてもう一つは“自由な校風”からの脱却です。具体的には頭髪指導・制服化を行ったということです。当時は足立区内の中学校・高等学校の生活指導に力を入れていた時期でもあり、区内の中学校から足立高校に規律のある生活指導をしてもらいたいという要望もありました。この変更は一部の生徒や保護者からの反対もありました。しかし、よりよい足立高校をつくっていくためには絶対的に必要なことだと考え、断行しました。

このように、足立高校は変わってきました。当時その変革はとても大きなエネルギーが必要でした。教職員が入れ替わっていく中で大きな変更は大変でした。結果的に管理職の英断と多くの先生方の努力、そして在校生たちの協力なしにはこの変革はできなかったことだと思います。卒業生である私が母校に赴任したことにより、この改革に対して多少の役には立ったのではないかと自負しています。足立高校は、よりよい学校にするために模索をしながら

ら変わっていくことのできる学校だと思われます。変わっていくことのできる秘めたエネルギーをもっています。現状維持ではなく、未来へ向けてよりよく変わっていける柔軟性も持っていた学校だと思います。過去においてこれだけ大きく変わることのできた学校です。母校・足立高校は、これからも未来へ向かってよりよく進化し続けることのできる学校であると思います。

振り返ってみれば、“今ある自分”は足立高校に入学していなければ存在しませんでした。在学中に青春を送った同級生たち、勉強の楽しさを教えていただいた先生方、多くの薫陶を受けた恩師と呼べる先生の存在。そして全力で取り組み、挫けながらも続けていく大切さを経験させてくれた部活動と先輩方。高校時代に頑張って取り組んだ経験があるからこそ、今の自分があると信じています。この学校で学んだからこそこの自分だと考えています。この足立高校で学ぶことができて本当に良かったと思っています。

今後も後輩たちのために、同窓生としてできる限りの協力をしていくつもりです。

100周年を迎えた足立高校の今後の発展を切に願っております。

創立 100 周年、おめでとうございます。一口に 100 年といっても、多くの人の一生を超える一世紀にわたるものであり、重みを感じます。

先日も足立高校時代の友人達と、定例の温泉旅行を楽しんできたばかりです。この旅行は毎年行っているもので、会えばいつも高校時代に戻ってしまい、泣いたり笑ったり朝まで青春時代の思い出に花が咲きます。そして、年々めまぐるしい時代の変化も感じます。

私達の頃は、テレビのチャンネルは手で回し、電話はダイヤル式の黒い家電話。電車に乗るには切符を買い駅員さんに切符を切ってもらう。年賀状はクラス名簿の住所録を見て書き、調べ物は図書館に行き関連の本を探しました。夕方になると豆腐屋さんがラッパを鳴らしながら来て、鍋を持って買いに行きました。学校に好きな子ができれば、その子の友人に手紙を渡すか、思い切って告白するかしたものです。家の電話にかけても、お父さんお母さんの厚い壁があり、たやすく電話はできませんでした。それでも便利な時代になったなぁと感じていました。

私の息子たちは、長男も次男も期せずして足立高校に入学しました。長男の頃には携帯電話が普及し始めており、連絡はメールでのやりとりが主流でした。外での待ち合わせも携帯で気軽にできるようになり、駅の伝言板は必要がなくなりました。友人同士のお悩み相談も、夜遅くまで携帯電話で長電話していたようです。次男の頃になるとメールのやりとりすらなくなり、ライン交換でのコミュニケーションが当たり前になっていました。まさにリアルからバーチャルへの変化が激しい時代となっています。ただ、息子たちを見ていて感じるのは、私達の青春時代と何ら変わらないということです。多感な時期に、将来への不安と夢を抱き、友達と語り合い、恋愛に傷つき、それを友人達と分かち合う。ツールは変化しても、心情や行動は同じだなぁと感じます。2 人とも、その時代にできた友人達とは今もつながっており、大切な心の支えになっているようです。このようにして一生の友となり、今の私のようにこ

の先もずっと関係が続いて行くのでしょうか。

今の人生の中で高校時代を思い出すと、ほとんど全ての土台が、その時代につくられたような気がします。年を重ねた今より、ずっと過激で極端な発想や思考でしたが、根っこは変わっていないような気がします。そして、この先も変わらないでしょう。そこに、栄養を与えてくれたのが、恩師であり、友人であり、時代であり、高校という空間でした。おそらく 100 年前からそうだったのではないのでしょうか。そして、これから 100 年も同じように、その時間と空間を与え続けてくれるのだと思います。その母校に感謝と誇りを感じます。

改めて、創立 100 周年おめでとうございます。

今から31年前。当時15歳の僕は失意に暮れていた。文京区にある駒込高校に入学するつもりだったが、受験に失敗し、入るつもりがなかった足立高校の入学が決まった。春を前に周りの同級生はこれから訪れるだろう高校生活を想像し高揚していた。僕はそんな同級生達を羨ましく思っていた。全力で臨んだ受験だったため、その分、圧倒的な挫折感だった。

今、考えてみれば、受け入れてくれた足立高校には足を向けて寝られないほどの感謝なのだが、15歳の少年は叶わなかったものへの執着にしがみついていた。その執着は、駒込高校で器械体操をやりたいという願いだっただけだった。夏休みの学校見学で見た駒込高校の器械体操部の練習はとても活気に満ちていた。あの夏に見た活気に満ちた練習ができない高校生活なんて何の意味があるのかと訳のわからないことを嘆きながら、暖かくなり桜は咲いた。

僕は唇を尖らせながら入学をすると、担任は仲川先生と発表された。教室で仲川先生は、その昔、器械体操のオリンピック候補になったが、遠征資金が足りなく代表から外されたと言った。僕は唇を尖らせるのをやめた。この学校はオリンピック候補にまでなった人が直接、器械体操を教えるのかと興奮した。この学校に入って良かったと思ったら、仲川先生はラグビー部の顧問だった。「なんでだよ。」心の中で叫んだ。器械体操部の顧問は深谷先生だった。深谷先生は常に黒いサングラスを掛けている強面先生だった。しかし話せば怖くはなく情熱的な指導で自ら手本をみせてくれる先生だった。当時、器械体操部には上級生がおらず、より高度な技を習得したい僕は深谷先生に一生懸命教わった。先生に教わっているうちに僕はこの部を活気のある部活にしたと思うようになっていた。

体育の授業はまた別の先生だった。ここで書くのは倫理上、良くないあだ名が付いている山口先生だった。山口先生もそのあだ名のことは知っていて、バカヤローと言いつつも受け入れていた。とてもフレンドリーな先生だった。当時、山口先

生は定年直前で、いくつかの高校に赴任した後、かつて勤めていた足立高校に戻っていたのだった。山口先生は授業中、よくビートたけしさんの話をしてくれた。僕はビートたけしさんの大ファンだった。母親がファンだったからだ。小学校低学年のとき、母と足立区総合スポーツセンターにツービートを見に行っていたことがある。雨が降り、かっぱを着ていた。当時、大がつくほどの売れっ子だったツービートは予定の時刻から二時間たっても現れなかった。寒くて何度も帰ろうと言う僕は、母から「これを逃したら二度と見られないかもしれない。」と怒鳴りつける勢いで説得され、舞台上上がるツービートを待った。その瞬間はふいにやってきた。会場が爆発したかと思った。数百、数千の悲鳴を浴びるその姿を見た日から僕はたけしさんのとりこになった。そのたけしさんが足立高校出身の先輩だと知ったのは、山口先生のお陰だった。山口先生はいつも自慢げにたけしさんの話をした。「たけしは暗かったよ。でも時折、先生のものまねをしてクラスのみんなを笑わせるんだ。俺の真似なんて上手いんだ。」

芸人を始めて24年目で僕はやっとたけしさんにお会いすることができた。「僕、子供にたけしと名付けました。高校はたけしさんと同じ足立高校です。山口先生からたけしさんの話を聞いていました。」「おー、そうか。山口先生な。覚えてるよ！あのとんでもねえあだ名の先生だろ？」そのひと言で僕は本当に足立高校で良かったと思った。いや、通いながらも途中から足立高校に入学して良かったと思っていた。仲川先生の実績や体験談、深谷先生の熱のこもった指導、山口先生とのフレンドリーな会話が、僕の凍った心を溶かした。変な話、心を閉じるなど指導されていたら、僕はますます心を閉ざしていたかもしれない。直接、口に出さない指導があるということを僕は足立高校の先生達から教わった。僕は46歳だ。若くはない。先生達に教わったように、僕は口に出さないで後輩を前向きにさせられるような人間でありたいと思っている。

高校3年間の思い出と言われると様々な事が思い浮かぶと思います。学校生活や体育祭、文化祭、修学旅行など人それぞれ沢山あると思います。

その中で、私の3年間の1番の思い出は部活動です。

勉強が苦手だった私はスポーツ推薦（バスケットボール部）で足立高校に入学しました。ちなみにバスケットは小学校の3年生で始め、現在も続けています。

26歳になった今、当時の思い出について考えるとやっぱりバスケットボールの事がほとんどです。それは1番、夢中になり没頭していたからだと思います。バスケットが大好きで楽しくて常にバスケットの事を考えていました。負けず嫌いの私は早く試合に出る事だけを考えていました。きつい事も沢山ありましたが、楽しさの方が上回っていました。

朝練から始まり、授業が終わるとすぐに体育館に向かい準備をして練習が始まる。練習が終わると地元の体育館に行き地元の友達や違う高校の友達や先輩と練習する。

このような学生生活を送っていました。あまり遊んだりする事はなくバスケットが1番でした。

今考えると、家族、友人、顧問の先生とたくさんの方に支えられていたなと思います。

そんなバスケットボールに没頭する3年間はとても濃いものでした。

悩んだり、考えたり、喧嘩をしたり、泣いたり、喜んだり、笑ったりと喜怒哀楽は激しいものだったと思います。その中で経験したものは高校を卒業した後の大学生活、社会人生活にびっくりするくらい生きています。

これはバスケットボールに夢中で没頭する事ができたから得る事ができた経験だと思います。何かに没頭する事で自然と人脈は増え、共通の没頭する事をもった様々な人と関わりをもつ事ができます。

沢山の人の関わる事で色々な考え方や自分には無いものを見たり、聞いたりする事ができます。この経験が濃く1番の思い出になると思います。なので、皆様にも何でもいいので夢中で没頭できる何かを見つけた事をお勧めします。

勉強でも、部活動でも、友達と遊ぶ事でも、恋愛でも、ゲームでも本当に何でもいいと思います。何かに没頭することでその先に新たな興味が出てきます。それが枝状に広がっていき今後の人生に繋がる何かに出会えると思います。

その瞬間は1番の思い出と感じることは少ないと思いますが、振り返ってみると夢中になり没頭していた事が自分の中の最高の思い出になっていると思います。

私は夢中になり没頭した部活動（バスケットボール）の経験があり、現職（ドローンパイロット）に繋がりました。



創立 100 周年おめでとうございます

元教員 山口 智司

30 年間お世話になった都立足立高校の百寿と私の卒寿、十年差の節目が重なり改めて思い出しています。昭和 38 年足立高校赴任以前に大学の 1 年の頃から母校千葉県立東葛飾高校で陸上競技部のコーチをしていたおり、恩師の宮下先生と足立の吉岡先生が友人で、東葛飾高校で体操部の合同合宿をしたり、松戸の馬橋小学校で模範演技会を合同で実施していました。この時、体育科の仲川先生は足立の高校生で参加していました。

後年、大学卒業後台東区の中学に勤めていた頃、足立高校の学校参観があったとき大学で同期だった織間先生の広大なグラウンドでのサッカーの授業を観たり、広い敷地に平屋の作法室・図書館・食堂があったことなど、文京区や台東区の狭い学校で屋上でのサッカーの授業や体育館での陸上競技で苦勞をして来た身にとっては羨ましい限りでした。

昭和 38 年念願かなって足立高校に転任しました。31 歳です。最初の訪問の時、校門の脇に小屋があり輪番の生徒が案内をしてくれました。幾つかの学校をみましたが初めての経験でした。1 年の担任になりましたが 10 クラス編成で、女子組は 3 クラス・男子組は 2 クラス・男女組は 5 クラス、1 学年 10 クラス編成は在任中 4 回ありました。9 クラス編成は平成 4 年まででした。クラス担任は 5 回、15 年務めることができました。

校風は厳しく制服・制帽で、遅刻をすると校門で生徒指導部の指導を受けていました。学校行事も一年生は一学期の終わりに千葉県の内房岩井で臨海合宿があり、夏休みには至仏山・尾瀬原・燧岳・銀山湖から小出にかけての林間学校、小出の山荘や湯沢での多くのクラブ合宿、冬のスキー学校など活発でした。昭和 41 年には第 1 回の「弥生野祭」が開かれました。毎年体育祭で行われた全校生徒の一条乱れぬ 8 列行進は圧巻でした。

30 年間の在任中に全ての施設が一番奥の第一棟から逐次改築されましたが、退任の時まで残っていたのはグラウンドの東南テニスコートと民家との境の塀の一部だけでした。体育館が改築されるとき都から、示された案は総面積は決まっており、縦横

の比率は正規のバスケット・コート一面の基準案でした。学年によっては 10 学級もある大規模校で、一講座の体育館種目を独占して授業を行うことは難しく二講座が重なることは常で、そのためには体育館の縦横の比率をバレーボールとバスケットボールなどと 2 種目の講座を、ネットで仕切って同時開講できるようなものにしてほしいと都に申し入れました。強く主張して受け入れてもらえましたが、その時の都の担当者が「先生はそう主張されますが先生が転任されて後任の人は」と言われたことを覚えています。「体育の教員ならば誰でもこう考えますよ。」と言い、「転任はしません。」とは言わなかったと思います。

着任当時、修学旅行は「京都学習」と称し、毎年京都・奈良に決まっていました。それに備えて社会科の近藤梓先生の指導を受けながら中央公論社の通史・日本の歴史を 1 年かけて読みました。これは自分自身の人生にも為になったと思っています。

大学卒業以来 30 歳から 60 歳までの 30 年間の足立高校の教員生活で、結婚・子供・親の死・定年と人生の常軌をおくりました。一校の勤務年数が決められたような時代によく 30 年も足立高校一校で勤務することが許されたものと感謝しています。人生の三分の一を賭けましたがこの学校に育てられたと思っています。

足立高校の更なる飛躍を祈念し、足立の 100 周年からのスタートにあやかり私も卒寿からの老人にスタートをきります。

(昭和 38 年～平成 4 年 体育科教員として勤務)

全日制課程 進路この10年

1 平成25年度～令和4年度 進学状況

(単位：人)

	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
卒業生総数	270	264	258	261	266	307	307	268	270	262
4年制大学	129	141	139	128	128	155	170	139	144	167
短期大学	8	8	4	9	10	17	5	13	5	9
大学・短大通信教育部	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
専門学校	83	80	73	79	80	73	89	75	86	73
民間就職	29	14	15	18	13	15	16	14	15	9
公務員	1	3	0	3	5	3	1	1	2	3
進学準備等	20	18	27	24	30	44	25	26	16	1

2 主な合格先

<4年制大学>

青山学院大学、亜細亜大学、大妻女子大学、学習院大学、学習院女子大学、神田外語大学、北里大学、杏林大学
 慶応義塾大学、國學院大学、国士舘大学、駒澤大学、産業能率大学、実践女子大学、芝浦工業大学
 順天堂大学、女子栄養大学、成蹊大学、成城大学、聖徳大学、専修大学、大正大学、大東文化大学、拓殖大学
 千葉工業大学、千葉商科大学、中央大学、帝京大学、帝京科学大学、帝京平成大学、東海大学、東京家政大学
 東京経済大学、東京女子医科大学、東京女子体育大学、東京成徳大学、東京電機大学、東京理科大学、東洋大学
 獨協大学、二松学舎大学、日本大学、日本工業大学、日本獣医生命科学大学、日本体育大学、文化学園大学
 文教大学、文京学院大学、法政大学、武蔵大学、武蔵野大学、明治大学、目白大学、立教大学、立正大学
 流通経済大学、龍谷大学、麗澤大学、和洋女子大学

<短期大学>

青山学院女子大学短期大学部、亜細亜大学短期大学部、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学短期大学部
 実践女子大学短期大学部、淑徳大学短期大学部、女子栄養大学短期大学部、聖徳大学短期大学部
 拓殖大学北海道短期大学、帝京短期大学、戸板女子短期大学、東京家政大学短期大学部、東京成徳短期大学
 日本大学短期大学部、目白大学短期大学部

<専門学校>

青山製図専門学校、大宮国際動物専門学校、香川調理製菓専門学校、神田外語学院、桑沢デザイン研究所
 国際動物専門学校、国際文化理容美容専門学校、国際理容美容専門学校、慈恵柏看護専門学校
 資生堂美容技術専門学校、昭和大学医学部付属看護専門学校、駿台トラベル&ホテル専門学校
 竹早教員保育士養成所、太陽歯科衛生士専門学校、道灌山学園保育福祉専門学校、東京女子医科大学看護専門学校
 東京栄養専門学校、東京電子専門学校、東京都立板橋看護専門学校、東京都立広尾看護専門学校
 東京動物専門学校、東京ブライダル専門学校、東京法律公務員専門学校、日本外国語専門学校
 日本工学院専門学校、日本電子専門学校、華学園栄養専門学校、華調理製菓専門学校、文化服装学院
 武蔵野調理師専門学校、早稲田速記医療福祉専門学校

同窓会この10年

同窓会会長 金成 秀幸（昭和42年卒 18期生）

同窓生講演へのサポート

同窓会は、会則第3条の「本会は、・・・、母校の隆盛発展に寄与し、社会に貢献することを目的とする」ということを常に念頭におきながら活動しています。その活動の大きな柱の一つが、今から19年前の平成16年6月23日に、母校の進路指導プログラムの一つとして開始された「同窓生講演（旧称：進路体験発表会）」へのサポートです。

同窓会は当時の進路指導の先生方と、「在校生に今まで以上に勉学やクラブ活動に励んでもらうにはどうしたらよいか。」を話し合いました。「実社会に出て思うのは、高校在学中に『実社会と高校生活との関係』を知っていたら、高校生活の過ごし方も変わっていたかもしれない。しかし、自分の高校時代を振り返ると、親の話は聞けなかったろうし、むしろ他人である大人の話だったら聴いてくれるだろう。」ということで、「同窓生講演」の企画が生まれました。「同窓生講演」は年1回開催され、同窓会が母校に推薦する7名から15名の同窓生が在校生に自分の進路・人生体験を語り伝えます。

平成25年発行のさやか野第17号へのご寄稿「未来を拓く同窓会の支援」の中で、校長（当時）大窪伸幸様は、同窓生講演（旧称：進路体験発表会）に関し次のように述べられています。「学校から卒業後の職業に就くプロセスの途中において、主体的な進路選択や勤労観・職業観を十分に確立することのできない若者が増え、大きな社会問題となっている状況です。・・・このような社会状況の中、・・・本校における取組の一つが『進路体験発表会』と考えております。」

令和2年と令和3年はコロナ禍のために中断のやむなきに至りましたが、昨年（令和4年）に第17回が実施されました。講演は平日に開催されるのですが、現役の同窓生講師は後輩と母校のお役に立つのであれば、ということで喜んで講師要請を受諾してくれます。

同窓会は今後とも、学校の講師派遣要請に全面的に応えていきたいと考えています。

母校創立90周年・100周年記念事業

母校創立90周年記念事業実行委員会は平成24年12月に設置され、記念式典は平成25年11月に挙行されました。そして、翌年の平成26年3月、次の100周年記念事業実行準備に万全を期すため、100周年記念事業実行準備委員会が設立されました。実行委員会は令和4年4月に準備委員会を引き継いで設立され、記念式典は令和5年11月に挙行されることになりました。上記3つの委員会はいずれも学校・PTA・同窓会の3者で構成され、委員長には同窓会会長が選任されてきました。80周年も同様で、これは10年間の同窓会の会長と役員の人選異動が学校やPTAに比して少ないことが主な理由かと思われます。実行委員会の主たる任務は周年記念誌の作成と記念式典・祝賀会の開催で、90周年、100周年共に、学校・PTA・同窓会の3者が一致協力してこれらの任務を遂行することができました。

100周年記念の新校旗の寄進と弥生野奨学金の創設

同窓会は母校に新しい校旗をPTAと共同で寄贈しました。同窓生に新校旗寄贈のための募金を呼び掛けしたのは令和4年9月でしたが、その半年後の2月に300名を超える方から320万円もの寄付金が寄せられました。同窓生の母校への熱い思いを改めて感じました。

また、同窓会は、毎年、母校支援費拠出協力（土曜補習講座、大会出場経費一部支援）、懸垂幕、横断幕の寄贈を行ってきました。令和5年、それらに加え、母校の在学生に返済不要の弥生野奨学金を贈ることができ、この6月に弥生野奨学金の第1期生が誕生しました。

母校の発展と後輩である在校生の飛躍のためにできる限りのことをするのは、私たちの喜びでもあります。同窓会はこれからも、学校からの協力要請には積極的に応えていきたいと考えています。

同 窓 会 の 歩 み

昭和 31 年～ 草創期

「都立足立高校同窓会」は昭和 31 年に第 1 回同窓会総会を開催し、岨野俊雄氏（1 期生）が会長に就任して 13 年間活動した。その後、昭和 44 年に起きた学園紛争の影響もあり、活動を停止し休眠状態が続いていた。

平成 7 年 活動再開

平成 7 年 9 月 - 当時の校長立堀隆三先生の呼びかけによる「旧教職員と卒業生有志の懇親会」を開催。

平成 8 年 3 月 - 懇親会に出席した卒業生と事務室長石川鉄雄氏が中心になり、「都立足立高校同窓会復活準備委員会」を設立。

平成 8 年～ 新生期

平成 8 年 10 月 - 「都立足立高校同窓会復活総会と懇親会」を母校体育館にて開催。630 名が集い、黒澤真次会長（10 期生）をはじめとする役員を選出、会則の承認を行った。

新生「同窓会」設立時は、運営資金の調達、名簿整備、会則の制定、役員、幹事など組織の確立と運営方法、事業計画の策定など、事案が山積している中での運営。

運営資金：当初、黒澤会長をはじめとする準備委員会に参加された方々の寄付と復活総会に出席された方々の会費と寄付金が基となった。その後は、会員からの会費 1,000 円/年と寄付金、新卒の新入会員からの入会金が運営資金である。

登録者名簿：当初、母校に在職していた教職員や卒業生に、幹事紹介の依頼状を母校名で送付して同期会、クラス会等の情報を収集し名簿を整備して協力者を募った。

会則：事務室長が集めた、都立高校同窓会 4～5 校の会則を参考に会則を制定した。

役員と幹事：当初、各期より 2 名の幹事を選出して「幹事会」を開催、役員は幹事の中より選出した。3 年目より幹事の中より常任委員を選出し、役員と常任委員による「常任委員会」を設置して幹事会の円滑な運営を行う。

主な事業内容：

- 広報誌「さやか野」発刊－配布。第 1 号は A3 タブロイド版、第 2 号以降は B5 冊子
- 会議の開催：定時総会と懇親会/2 年 1 回 常任委員会/月 1 回 幹事会/年 4 回
- ホームページ開設（平成 12 年）と運営
- 毎年、弥生野祭へ出店参加
- 同期会・クラス会・部活・OB 会などの推進と支援
- 母校 80 周年記念行事に協力（黒澤会長が 80 周年記念事業実行委員長に選任される）
- 財団法人小出山荘の運営していた「小出山荘」の閉鎖、清算に協力

平成 16 年～ 発展期

名簿や組織が整い始め、事業運営も円滑になり始めた。平成 16 年の定時総会に於いて 4 期 8 年務めた黒澤真次会長が勇退して名誉会長に就任し、堂下啓一氏（14 期生）が新会長に選任された。

運営資金：徴収名目と徴収方法は従前通り。平成 24 年度繰越金 950 万円。

登録者名簿：当初の登録会員数 4,500 名→11,100 名と倍増した。同窓会名簿データベースを作成して保管し、名簿の発行は行わない。

役員と幹事：幹事数 40 名、入れ替わりは有るものの増員はされてない。常任委員会を常任幹事会と改称し、組織の整備、整合性を高めた。

主な事業内容：

- 広報誌「さやか野」12,300 部発刊 11,100 部発送 母校 900 部配布
- 会議の開催：定時総会と懇親会/2 年 1 回、常任幹事会/月 1 回、幹事会/年 4 回、広報委員会/年 7 回、編集委員会/年 4 回、総務委員会/年 2 回、同期会連絡会/年 1 回
- 母校主催「進路体験発表会」へ同窓生講師の推薦と運営協力
- ホームページ開設（平成 12 年）と運営
- 毎年、弥生野祭へ出店参加
- 同期会・クラス会・部活・OB 会などの推進と支援
- 母校支援費拠出協力（土曜補習講座、国体出場経費一部支援）

平成 24 年～ 変革期

4 期 8 年務めた堂下啓一会長の勇退に伴い、平成 24 年の定時総会に於いて新会長に金成秀幸氏（18 期生）が選任され、新体制で創立 90 周年記念事業実施及び 100 周年に向けて活動。幹事役員の高齢化に対応すべく幹事の若返りを図りながら、母校支援の強化の模索検討をしながら活動。

運営資金：終身会費（30,000 円）制度を新設して会費増収を図る。

登録者名簿：11,500 名。入会者と転居及び物故者数が均衡しはじめ、ほぼ横ばい状況。

役員と幹事：役員の定数を副会長 8 名、常任幹事 14 名以内と増員し、組織強化を図る。

主な事業内容：

- 90 周年記念事業実行委員会の委員長に同窓会会長が選任される。
- 100 周年記念事業実行準備委員会の委員長に同窓会会長が選任される。
- 100 周年記念のシンボルマークとキャッチコピーの募集・制定を、在校生とその保護者、同窓生、教職員全員参加で行う企画を準備委員会に提案し、採用される。
- 100 周年記念シンボルマークとキャッチコピー入りのクリアファイルを作成・活用
- 100 周年記念事業として「母校歴史探訪」を企画・実施（計 4 回）
- 100 周年記念事業実行委員会の委員長に同窓会会長が選任される。
- 母校のご厚意で学校内会議室の PTA との共用開始・資料保管場所の確保（平成 26 年）
- さやか野 12,500 部発刊、11,500 部発送、母校生徒及び教職員へ 900 部配布

- 会議の開催：定時総会と懇親会/2年1回、常任幹事会/月1回、幹事会/年4回、広報委員会/年7回、編集委員会/年4回、総務委員会/年2回、同窓生交流会/年1回
- 母校主催「同窓生講演（旧称：進路体験発表会）」へ同窓生講師の推薦と運営協力
- 母校支援費拠出協力（土曜補習講座、大会出場経費一部支援）
- PTAと連携して母校へ懸垂幕、横断幕の寄贈
- 100周年記念事業として給付型奨学金制度を創設
- 100周年記念事業としてPTAと共同で新しい校旗を母校に寄贈

資料

同窓会会則 目的と事業を抜粋

第3条（目的） 本会は会員相互の親睦融和と互助を図り、母校の隆盛発展に寄与し、社会に貢献することを目的とする。

第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行うものとする。

（2）会報及び会員名簿の発行

（3）母校並びに生徒会の事業活動の援助

（4）母校の生徒に対する奨学・育英に関する事業

（5）講演会及び見学会の企画開催

定時制課程この 10 年

定時制課程

東京都立足立高等学校定時制課程は、本校が東京都立足立女子新制高等学校として設置された昭和 23 年に、夜間定時制として女子 61 名でスタートした。昭和 24 年からは、男女共学となり、さらに昭和 29 年には、商業科が 1 学級新設され、現在に至るまで普通科と商業科で構成されている。昭和 32 年、定時制高校最初の給食実施校の一つに指定され、普通科が 1 学級増加されると、急激に生徒数が増え、昭和 42 年には、16 学級、745 名と最も多くの生徒が在籍する状況となった。

その後、昭和 44 年の高校紛争などを経て、昭和 45 年には定時制課程の 1 学級定員が 30 名となり、本校でも在籍生徒数は減少し、昭和 50 年代には、ほぼ 350 名程度で推移した。しかし、昭和 60 年代に入ると、生徒数は再び増加し、昭和 63 年には、臨時学級増を含め、18 学級となった。この年、給食が民間委託となり、商業科に電算室が設置された。その後も学級数はさらに増え、平成 3 年からは 20 学級規模にまで達し、都内最大規模の定時制高校として、多くの卒業生を送り出している。

平成 30 年度入学生までは各学年 4 学級体制であったが、翌 31 年度からは募集定員の減少などで徐々に学級減となり、令和 3 年度入学生からは普通科と商業科合わせて 2 学級体制となっている。令和 5 年 5 月 1 日現在、9 学級、104 名の生徒が在籍している。この間、本校定時制課程に入学してくる生徒は、大きく変化した。また、都立高校改革の中で、定時制高校の在り方も様変わりし、新しいタイプの定時制高校が開校される一方で、統廃合も進んでいる。そうした中で、本校も生徒数は減少しているが、ある程度の規模は維持できており、活発な部活動や学校行事を行うことができている。以下、この 10 年の動向について簡単に示しておく。

平成 25 年

- 3 月 2 日 普通科第 65 回卒業式を挙行。卒業生は男子 32 名、女子 17 名。
商業科第 56 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 6 名、女子 9 名。
- 5 月 1 日 生徒在籍数は、男子 191 名、女子 137 名
- 8 月 男子バスケットボール、全国大会出場

平成 26 年

- 3 月 8 日 普通科第 66 回卒業式を挙行。卒業生は男子 27 名、女子 29 名。
商業科第 57 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 2 名、女子 7 名。
- 4 月 1 日 都立大山高等学校副校長黒田正、第 15 代副校長に補せられる。
- 5 月 1 日 生徒在籍数は、男子 179 名、女子 103 名

平成 27 年

- 3 月 7 日 普通科第 67 回卒業式を挙行。卒業生は男子 29 名、女子 29 名。
商業科第 58 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 7 名、女子 1 名。
- 5 月 1 日 生徒在籍数は、男子 189 名、女子 110 名
- 8 月 女子バスケットボール、全国第 3 位
- 8 月 男子バレーボール、全国大会出場

平成 28 年

- 3 月 5 日 普通科第 68 回卒業式を挙行。卒業生は男子 23 名、女子 9 名。
商業科第 59 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 5 名、女子 5 名。
- 5 月 1 日 生徒在籍数は、男子 196 名、女子 102 名

平成 29 年

- 3月11日 普通科第 69 回卒業式を挙行。卒業生は男子 34 名、女子 17 名。
商業科第 60 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 2 名、女子 3 名。
- 4月1日 都立六本木高等学校副校長塚田雅人、第 16 代副校長に補せられる。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 188 名、女子 84 名

平成 30 年

- 3月10日 普通科第 70 回卒業式を挙行。卒業生は男子 36 名、女子 7 名。
商業科第 61 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 2 名、女子 4 名。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 158 名、女子 80 名

平成 31 年・令和元年

- 3月9日 普通科第 71 回卒業式を挙行。卒業生は男子 22 名、女子 10 名。
商業科第 62 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 8 名、女子 2 名。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 142 名、女子 61 名

令和 2 年

- 3月7日 普通科第 72 回卒業式を挙行。卒業生は男子 26 名、女子 10 名
商業科第 63 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 3 名、女子 5 名。
- 4月1日 都立葛飾総合高等学校主幹教諭都倉里利、第 17 代副校長に補せられる。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 118 名、女子 60 名

令和 3 年

- 3月6日 普通科第 73 回卒業式を挙行。卒業生は男子 29 名、女子 9 名。
商業科第 64 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 6 名、女子 3 名。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 98 名、女子 60 名

令和 4 年

- 3月12日 普通科第 74 回卒業式を挙行。卒業生は男子 18 名、女子 11 名。
商業科第 65 回卒業式を挙行。卒業生は、男子 8 名、女子 1 名。
- 4月1日 都立一橋高等学校副校長沖山武史、第 18 代副校長に補せられる。
- 5月1日 生徒在籍数は、男子 77 名、女子 42 名

定時制課程の進路指導

進路指導部主任 主幹教諭 阿久井 正己

1 進路状況（過去実績）

進 学	大学	帝京科学大学	聖徳大学	
	専門学校	日本工学院専門学校	東京クールジャパン	日本電子専門学校
		お茶の水スクールオブビジネス	尚美ミュージックカレッジ専門学校	
就 職	ワイエスイー(株)	(株)セレブリックス	栗駒電気工事(株)	(株)エム・キューブ
	(株)S E E D	梅田病院	奉優会	矢吹炉研(株)
	丸晃金属(株)	(有)エコパーク	イーストピア東和	ルブランサポート
	アート引越センター	日本ピザハット(株)	(株)サンベルクス	ラッシュジャパン
	鳶一颯	(有)岩浅組	井野工務店	(有)豊光製作所
	竜運送 (株)	寿司輝友会		

2 定時制課程における進路指導の実際

(1) 進路指導目標（めやす）

- 1年 定時制の生活習慣の確立
- 2年 アルバイト開始
- 3年 進路目標の決定
- 4年 進路実現の活動

(2) 進路指導部の主な所掌事務等

- 進路だよりの発行（年間10号程度）
- 進路活動推進週間（7月第2週及び1月第4週に実施）
- 4年生就職指導（7月、8月）
- サポステ個別相談
- 教員対象進路指導についての教育研究会
- 大学専門学校生徒引率
- 公務員志望生徒への指導（専門学校の無料講習会を活用）
- 委員会活動、部活動の活性化
- 進路教材の作成
- P T A奨学会の運営

定時制課程 商業科の指導と実績

教諭 高橋 祐樹

1 近年の商業科について（平成 25 年～）

商業科は各学年 1 クラス定員 30 名である。少人数、個別指導で対応することですべての生徒が卒業までに数多くの資格を取得している。学習の目標を「資格取得」とし、受検する時期を個別で設定している。また、簿記情報処理部と並行して、検定試験の直前や放課後も学習活動を行っている。

これらの成果が年々結果として表れてきており、中学校時代に不登校であった多くの生徒が、本校定時制への入学を機に学習活動に目覚め、さまざまな資格を取得している。また、これらの結果が進路活動にも良い影響を与え、就職や進学に活かしている。検定試験の主催は、年間の実施回数が多く、少人数でも学校を会場として行えることを重視して決定している。

なお、給付型奨学金の対象の生徒は、受検料が東京都から給付される。資格の取得を希望する普通科の生徒にも検定指導を行っている。

2 教育課程内の商業の科目（単位数）

1 学年	ビジネス基礎（2）	2 単位	合計 21 単位
2 学年	簿記（3）、情報処理（2）	5 単位	
3 学年	簿記（3）、情報処理（3）	6 単位	
4 学年	総合実践（3）、ソフトウェア活用（3）、課題研究（2）	8 単位	

3 定時制で扱っている検定試験の主催と種類

全国経理教育協会	簿記能力検定、コンピュータ会計能力検定、社会人常識マナー検定
日本情報処理検定協会	情報処理検定（表計算、データベース）、ワープロ検定、プレゼンテーション検定
日本商工会議所	簿記検定

4 資格取得数 年度別比較（平成 23 年度生～令和 3 年度生）

学年 年度	合 計	23 年 度生	24 年 度生	25 年 度生	26 年 度生	27 年 度生	28 年 度生	29 年 度生	30 年 度生	31 年 度生	2 年 度生	3 年 度生
生徒数		11	9	5	6	10	8	9	9	6	10	3
26	26+2	5	15	6	0							
27	35+2		15	10	10	0						
28	40+1			6	12	22	0					
29	44+0				6	30	8	0				
30	63+4					26	19	18	0			
1	62+1						19	27	16	0		
2	52+0							22	22	8	0	
3	93+0								39	31	23	0
4	96+5									31	60	5
卒業時資格合計		5	30	22	28	78	46	67	77	70	83	5
平均資格取得数		0.5	3.3	4.4	4.7	7.8	5.8	7.4	8.6	11.7	8.3	1.7

○+○
商業科 普通科

全日制課程 職員一覽

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	
校長	大窪 伸幸		井上 隆			浅見 浩一郎				鈴木 康司		
副校長	保坂 吉則	石井 久美子		長谷川 文夫			紺野 智恵子			塚本 久美子		
国語	近藤 里江			鳥羽 通子								
	神田 寛美	大熊 乾吾					田中 康彦		島田 朋之	小西 奈々恵		
	益田 明子	樋口 瑠美子					飯塚 真奈			山本 愛		
	和田 稔		坪 友幸			田中 千佐子			山崎 正樹			
	中村 望美				福元 美紀				猪狩 寛子			
	三上 蔵人					永井 匡			沼田 優和			
				篠原 み樹								
地歴	佐伯 泰子			磯貝 友紀		杉本 友紀		渡邊 愛				
	安部 俊治		稲井 秀					藤井 真州		山下 裕樹子		
	石井 増男									山本 治輝		
	並木 裕美					大森 乃衣	佐藤 乃衣		(寺崎 真佐子)	(宇多川 智史)		
	池澤 淳子					松尾 繁樹			伊藤 伸一郎			
公民	加藤 幾茂					池田 耕平				柴田 淳也		
						高橋 和志			林 祐健			
数学	岡本 和子											
	竹原 努		川島 進哉			向井 崇人			田草川 直希			
	岩葉 拓也			大塚 千枝					佐村 純			
	塚原 裕司					野原 幸雄						
	大津 広之							我妻 奨平				
	白鳥 雄大				井上 公介			鈴木 真範				
					立原 絵里				(加藤 匡寿)	(国府田美穂子)	神山 智	
理科	舩城 知行		川守田 淳						青柳 利陽			
	川崎 洋子		大塚 祐介					小河原 哲佳				
	浅井 信		濱田 健									
	谷畠 朋子					野田 徹						
	戸部 光則									小田島 寛		
				田中 智								
保健体育	青田 雅樹	鈴木 一弘										
	関口 知之		前田 喜庸								柳澤 龍	
	田中 裕之		前田 剛									
	佐藤 孝広				玉山 哲史郎							
	鈴木 美津							砂山 文香				
	山野 和夫				山崎 まなみ			(井平 理信)		鎌田 瑠里		
				吉田 洲								
芸術 (音楽)	管原 彩子					鈴木 直子			(池上 侑花)	鈴木 直子		
芸術 (美術)	岡田 絢香	柴田 有歌里										
家庭	梅沢 真澄											
	大串 京子							倉本 直子				
英語	湯本 要	小幡 芳枝									渡邊 剛士	
	澤内 翔太	松鶴 賢二郎					徳山 博士					
	原田 怜子		篠原 友樹			稲垣 浩二			佐藤 あずみ			
	高橋 初美				藤木 優子			佐藤 美帆		田村 紀子		
	井上 紀子					石野 恵美			成田 玲央			
	須山 大				吉岡 幸治			森本 明彦				
	関本 直樹					荒川 嘉元			吉田 純子			
	寺尾 暁美									大坪 悠貴		
					和田 智樹				笹田 翼	藤原 直斗		

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	
情報	田代 幸長						伊藤 佳祐					
養護	伊藤 弘子		三村 文恵						市村 晴子			
非常勤教員	長船 良昭											
		小野寺 一										
非常勤教員 (倫理)	栗原 茂幸											
講師 (国語)	杉村 悦子		杉村 悦子				角田 環					
講師 (地歴)							皆川 明彦			石黒 裕樹	井上 昌	
講師 (現代社会)					柿崎 文雄							
講師 (倫理)	宮内 拓史											
講師 (理科)							大塚 浩一郎			鎌田 賢一	栗原 三郎	
講師 (理科)									三浦 和浩			
講師 (体育)											佐藤 信平	
講師 (美術)							清水 沙織	笠原 里美				
講師 (美術)							齊藤 友里恵	大橋 泉				
講師 (書道)				濱崎 麻里子				大野 孝		田中 千佐子		
講師 (書道)							高久 由香		敏蔭 由香			
講師 (家庭)	高垣 佳代子		高垣 佳代子			高垣 佳代子						
講師 (家庭)					鈴木 香菜子							
講師 (家庭)					寺本 幸子						寺本 幸子	
講師 (英語)								紺野 敦志				
講師 (英語)								植草 梨奈				
講師 (情報)										呉屋 友里奈		
講師 (情報)										木村 輝夫	並木 勇樹	
実習支援専門員	安藤 洋子				星野 龍也							
	井口 潔	國府 功太		高橋 完爾								
経営企画室長	富江 聡	木村 俊勝		佐々木 悦雄			村松 直樹			上原 哲		
経営企画室	加藤 節子			小林 優					浦部 絵利奈		鈴木 隆則	
	戸張 治			古川 幸男			栗原 寛			東鶴 真依		
	古谷 啓一				田村 恵子					岡 里美		
	関根 慎太郎	坂込 知可子			小森 久経		佐藤 祐由					
	青井 理恵			本間 葉子	若槻 明子			野本 輝男				
栄養士	滝 文重	大橋 絵里子			栗木 光恵					藤塚 悠紀		三村 紗貴子
司書	大橋 まき							渡辺 朝子				
						奥田 和泉						
経営企画室支援員			小澤 祐二	田澤 憲司			濱嶋 美奈子					
			福田 進一	菅原 有							吉田 世津子	
都立学校事務支援員									檜山 英子		深瀧 佳子	三浦 未来

※()は産休・病休代替教員

創立 100 周年記念誌

令和5年11月発行

編集	創立 100 周年記念誌編集委員会
発行	東京都立足立高等学校 〒120－0011 東京都足立区中央本町 1－3－9 03（3889）2204
印刷	株式会社 内浦 〒136－0073 東京都江東区北砂 1－3－11 03（6458）7692
表紙・裏表紙	3 年 6 組 小林 翼
共著	東京都立足立高等学校 同窓会・P T A
写真提供	ミソノ写真館

